

シンガポール日本商工会議所

MCI (P) NO.027/03/2016
Japanese Chamber of Commerce & Industry, Singapore
Website: <http://www.jcci.org.sg>



毎日笑顔の 海外生活をサポート



<p>外来診察</p> 	<p>予防接種</p> 
<p>健康診断・医療検査</p> 	<p>理学療法</p>  <p>肩痛・腰痛・足痛 スポーツ障害・リハビリ等に</p>
<p>医療相談</p>  <p>生活習慣病・禁煙・アレルギー 感染症・渡航医療・他</p>	<p>歯科は JGHデンタルクリニック(本院内)</p>  <p>Tel: 6235 7747</p>

www.japan-green.com.sg

総合診療の
オーチャード本院

ジャパングリーンクリニック

診療科目 外来診察 (小児科・内科・外科・耳鼻咽喉科・婦人科*・他一般), 予防接種*, 乳幼児健診*, 医療検査*, 健康診断*, 理学療法* (疼痛治療・リハビリ等), 各種医療相談 (アレルギー・禁煙*・他)
*一般診察は予約不要です。*印は要予約。

受付時間 月～金曜日 09:00～12:00 14:00～17:30

土曜日 09:00～12:00

休診日 日曜日、シンガポールの祝日

所在地 290 Orchard Road, #10-01 Paragon
Singapore 238859

Eメール reception@japan-green.com.sg

電話 6734-8871

ファックス 6733-1213

- ◆ MRTオーチャード駅より徒歩15分
- ◆ エレベーターはTower 1、Lobby Eをご利用ください
- ◆ 主要各科医師が在籍し検査機器も揃えた総合クリニックです



オフィス街の
身近なクリニック

ジャパングリーンクリニック
シティ分院

診療内容 外来診察 (一般内科・眼科*), 予防接種, 健康診断*, 理学療法* (疼痛治療・リハビリ等), 各種医療相談 (アレルギー・禁煙・他)
*ご予約をお願い致します。*設定日時はお問い合わせください。

受付時間 月～金曜日 09:00～12:30 14:30～17:30

休診日 土曜日、日曜日、シンガポールの祝日

所在地 1 Raffles Place One Raffles Place (Tower 1)
#19-02, Singapore 048616

Eメール citybranch@japan-green.com.sg

電話 6532-1788

ファックス 6532-7673

- ◆ MRTラッフルズプレイス駅B出口至近
- ◆ オフィスタワー入口はChulia Street側 (UOBプラザ前) です
- ◆ お越しの際はIDカード (EP等) をご持参ください



海外生活をサポートする総合医療センター

ジャパングリーンクリニック

2017
JAN

月報



1 新年にあたって P2

- 1.1 駐シンガポール共和国日本国特命全権大使
THE AMBASSADOR OF JAPAN TO REPUBLIC OF SINGAPORE 篠田 研次
- 1.2 シンガポール日本商工会議所 会頭
SUMITOMO CORPORATION ASIA & OCEANIA PTE LTD 岡田 卓也
- 1.3 シンガポール日本人会 会長
THE BANK OF TOKYO-MITSUBISHI UFJ, LTD 三石 基

2 新年随想 P6

- 2.1 シンガポール日本商工会議所 理事
FUJITSU ASIA PTE. LTD. 遊口 証
- 2.2 シンガポール日本商工会議所 理事
MARUBENI ASEAN PTE LTD 西田 浩之
- 2.3 シンガポール日本商工会議所 理事
MITSUBISHI ELECTRIC ASIA PTE LTD 佐々木 信二
- 2.4 シンガポール日本商工会議所 理事
MITSUI PHENOLS SINGAPORE PTE LTD 東 政明
- 2.5 シンガポール日本商工会議所 理事
NYK GROUP SOUTH ASIA PTE. LTD. 水上 俊一郎
- 2.6 シンガポール日本商工会議所 理事
SUMITOMO CHEMICAL (ASIA PACIFIC) PTE. LTD. 高沢 聡
- 2.7 シンガポール日本商工会議所 理事
TAISEI CORPORATION 橋田 薫
- 2.8 シンガポール日本商工会議所 理事
SOMPO INSURANCE SINGAPORE PTE. LTD. 高橋 幸嗣
- 2.9 シンガポール日本商工会議所 理事
TOSHIBA ASIA PACIFIC PTE. LTD. 土光 辰夫

3 各部会業界動向 P20

- 3.1 第1工業部会
IHI ASIA PACIFIC PTE. LTD. 赤松 真生
- 3.2 第2工業部会
MITSUBISHI CHEMICAL SINGAPORE 筑本 学
- 3.3 第3工業部会
YOKOGAWA ELECTRIC ASIA PTE LTD 小澤 仁司
- 3.4 貿易部会
MITSUBISHI CORPORATION SINGAPORE BRANCH 高橋 健司
- 3.5 金融・保険部会
MIZUHO BANK, LTD. SINGAPORE CORPORATE BANKING DEPARTMENT 柄折 卓彦
- 3.6 建設部会
SHIMIZU CORPORATION 牛頭 豊
- 3.7 運輸・通信部会
KDDI SINGAPORE PTE LTD 太田 直彦
- 3.8 観光・流通・サービス部会
AJINOMOTO (SINGAPORE) PTE. LTD. 石井 計多

4 広報委員会より P35

- 4.1 広報委員長からのご挨拶
JAPAN AIRLINES CO LTD 山下 康次郎
- 4.2 JCCI広報委員会メンバーのご紹介
- 4.3 2016年シンガポール「主要ニュース一覧」

5 2017年のASEAN・インドの経済展望 P40

- THE BANK OF TOKYO-MITSUBISHI UFJ, LTD (SINGAPORE BRANCH) 中村 逸人

6 2016年度 イラン・テヘラン視察団 P46

- 6.1 団員名簿
- 6.2 日程表
- 6.3 事務局作成レポート
- 6.4 イラン・テヘラン視察写真

7 第27回 JCCI基金・募金贈呈式 P57

- 7.1 シンガポール日本商工会議所基金[2016年度募金]への御協力御礼
- 7.2 第27回 JCCI基金・募金贈呈式[写真]
- 7.3 贈呈式～寄付先の紹介
- 7.4 2017年派遣留学生について
- 7.5 JCCI 基金提供先企業一覧

8 2016年会員懇親パーティー P72

- 8.1 2016年会員懇親パーティー[写真]
- 8.2 ラッキードロー賞品ご提供企業様一覧

9 11-12月 JCCIイベント写真 P80

10 日本シンガポール協会便り P82

- 日本シンガポール協会便り

11 事務局より P83

- 11.1 理事会議事録
- 11.2 入会会員一覧
- 11.3 事務局便り

12 編集後記 P87

- 編集後記

月報題字：麗扇会 青木 麗峰
表紙写真：中島 茂 NTA TRAVEL SINGAPORE PTE LTD
写真タイトル：SCMS2016

JAPANESE CHAMBER OF COMMERCE & INDUSTRY, SINGAPORE
10 Shenton Way # 12-04/05 MAS Building Singapore 079117
Tel: 6221-0541 Fax: 6225-6197 Website: <http://www.jcci.org.sg>



新年のごあいさつ

駐シンガポール共和国日本国特命全権大使
THE AMBASSADOR OF JAPAN TO REPUBLIC OF SINGAPORE

篠田 研次



明けましておめでとうございます。

赤道直下のシンガポールに昨2016年に着任致しましたが、以来日本との距離感という意味において圧倒的な「近さ」を感じております。日本とシンガポールとの結びつきは、今やそれほどまでに、広範な分野、多様な側面において益々強靱なものとなっていると申せましょう。

両国間の要人往来を振り返りますと、安倍総理は、2013年7月の第33回「シンガポール・レクチャー」での講演、2014年5月の第13回アジア安全保障会議（シャングリラ・ダイアログ）参加、2015年3月のリー・クアンユー元首相国葬参列に続き、昨2016年8月には、S.R.ナザン前大統領のご逝去に際し、弔問のためご遺体が安置されていたシンガポール議会を訪問され、4年連続で当地を訪問されました。また、昨年は、4月にビビアン・バラクリシュナン外務大臣が、9月にリー・シェンロン首相が、そして11月には国賓としてトニー・タン大統領が訪日されました。この他にも、政府閣僚等の往来は頻繁であり、両国の政府間対話は非常に活発に行われています。

また、観光や国民レベルでの交流も一層活発になっています。例えば、2015年のシンガポールから日本への訪日客数は、前年比36%伸び、31万人を記録しました。この年だけで、シンガポール人の実に10人に1人が日本を訪れたこととなります。さらに、2016年は、10月までにすでに24万人がシンガポールから訪日しており、前年同時期比約20%増という目覚ましい勢いで訪日客数が増加しています。在留邦人数も近年急速に増加し、2012年の約28万人から、2015年の3.7万人と、3年で30%強の増

加を記録しています。

さらに、経済分野においても、両国の関係は深化の一途を辿っております。例えば、足下では、シンガポールから日本への直接投資は19.4億ドル（2015年）でアジアの国としては第1位、また、日本からシンガポールへの直接投資も65.0億ドル（2015年）で、アジアの国の中でシンガポールは、対中国（88.7億ドル）への投資に次いで第2位の投資先となっています。シンガポール日本商工会議所の会員数も増加が続いており、約850社に達しています。そして、近年の特徴は、シンガポールが「地域統括機能」を有する日本企業の一大拠点となっていることであると申せましょう。実際、当地に進出する日本企業は、ASEAN諸国のみならず中東・アフリカからアジア・オセアニアに亘る広範な所謂「インド・太平洋地域」を俯瞰し、鳥瞰し得る“ベースキャンプ”としてシンガポールを活用し、グローバルな規模で新たなビジネス展開の可能性を探求しておられるように見受けられます。既に様々な実例が出てきていますが、今後は更に、日本とシンガポール両国の企業が強力なタッグを組むことで、第3国マーケットへとビジネスを展開していく可能性がより一層広がっていくものと期待しております。

昨年、日本とシンガポールは外交関係樹立50周年を迎えました。「SJ50」と銘打ち、文化芸術・経済・スポーツ・観光・科学技術など年間を通じ様々な分野で記念イベントが行われました。5月にはエスプラネードで10日間で約16万人が参加した「スーパージャパン」が行われました。日本大使館の発信施設であるジャパン・クリエイティブ・センター（JCC）においては、日頃から日本の伝統文化からポップカルチャーまで幅広く日本のクリエイ

ティブな姿を発信しておりますが、去年は民間企業とのコラボ事業や、草の根・教育アウトリーチ、外部諸文化機関や各種芸術祭とのネットワーキングを積極的に推し進めました。大統領官邸やアジア文明博物館における裏千家の千玄室大宗匠による茶会や、日本の現代のデザイン100選の展示、日本映画祭もその例です。アジア子供コンテンツ祭やシンガポール作家祭では日本がカントリー・フォーカスとして特別プログラムが組まれました。またシンガポールからのJETプログラム（*）の累計参加者は300名を突破しました。SJ50のシンガポールでの認定イベントは、2016年11月時点で200件を超えています。10月末には、徳島・高円寺の阿波おどりの一行による実演を含めて、目抜き通りのオーチャードロードで、大々的にSJ50 Matsuriが開催されました。2日間で11万人を動員し、SJ50周年事業のハイライトとして相応しい両国民の記憶に長く残る事業となりました。このSJ50 Matsuriの開催に当たりまして、シンガポール日本商工会議所から、シルバースポンサーとして多大なるご協力を賜り、誠にありがとうございました。（* 語学指導等を行う外国青年招致事業（The Japan Exchange and Teaching Programme）の略。）

このように日星関係は50年の年月を経て誠に良好かつ成熟した関係となってきました。今私達は、両国関係を更に強化、進化させていくに当たり、次の50年を見据えたビジョンを考える時期に来ているのではないかと考えます。日本とシンガポールは既にそれぞれ、二国間交流の域を超えて、共に提携・協力して地域や広く国際社会のために貢献し得る力をつけてきていると申せましょう。「世界に貢献する日星パートナーシップ」という視点を

持って行動することが出来るのではないかと思います。

最後になりましたが、シンガポール日本商工会議所の益々のご発展と、会員の皆様のご多幸とご健勝を心より祈念いたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。



新年のご挨拶

シンガポール日本商工会議所 会頭
SUMITOMO CORPORATION ASIA & OCEANIA PTE LTD
Chief Operations Officer

岡田 卓也



JCCI会員の皆様あけましておめでとうございます。

Uncertainty is certain。2016年という年はこの表現がぴったりの年であったように思います。上半期6月23日には、EU離脱の是非を問う国民投票が実施され離脱支持者が勝利、BREXITなる造語も生まれました。下半期11月9日には、自国主義を掲げた米国大統領が誕生しました。奇しくも、27年前の1989年11月9日は、冷戦の象徴であったベルリンの壁が崩壊し、東西ドイツの国境が開かれ欧州統合への第一歩となった歴史的な日であり、外交コラムニスト ギデオンの言葉を借りれば、歴史の皮肉と言えます。

そもそも自由貿易により人々は自由に国を往来し、欲しいものを海外含め安く手に入れる事ができます。関税を引き上げたり、経済ブロック化は他の地域の対抗措置を引き起こし経済の低迷を招きます。トランプ氏は環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）からの脱退を表明していますが、自由貿易に背を向ける事なく、各国の知恵を集めて新たな経済政策でこの試練を乗り越えて欲しいと願っています。私の経済学者ジャックアタリ氏は著書で、超帝国、超紛争の後、人々が博愛精神に目覚める超民主主義の到来を2060年に予想されていますが、紛争が無い世の中の到来を願ってやみません。

さて、シンガポール日本商工会議所は、1969年に、56社の日系企業により当地に設立され、本年で48周年となります。シンガポールの発展と共に本商工会議所も拡大を続けておりますが、昨年は日本とシンガポールの国交樹立50周年ということで、当地でも沢山のイベントが開催されました。10月29日と30日には、在シンガポール日本国大使館をはじめとする、当地日系団体により構成された、「SJ50 まつり／ステアリングコミッティー」の企画・推進により、日本の伝統文化や、観光・物産を含めた「今の日本」「ジャパンプランド」をアピールするお祭りである「SJ50まつり」が、開催され、本商工会議所も、特別協賛をさせて頂きました。2日間の総来場者数が11万480人と、大変多くのシンガポール国民の皆様にご参

加を頂き、両国民の交流の場が創出されました。「The Strait Times」や「Channel News Asia」などでも大々的に取り上げられておりましたが、これら一連のSJ50関連イベントが、今後の、さらなる両国の友好促進につながったものと、確信しております。

2016年の本商工会議所の主な活動内容ですが、約260名の方にご参加を頂いた「8部会合同新年会」に始まり、「会員講演会」「部会活動」など、多岐に渡りました。一例では、「シンガポール予算案概要」や「日系企業が取り組むべき人事施策」「国際情勢の裏舞台」「イラン概況、ビジネスチャンスとリスク」など、会員各社のご関心の高いテーマを取り上げた「会員講演会」や、各部会の特色を活かした企画を立案頂き、開催した、「PSA インターナショナル・港湾施設」「キックマン様 工場」等の視察会、「インターポール様」をお迎えしての「“Combating Cybercrime from Global Perspective”」講演会、視察等を実施しました。

また、6月には、ジャカルタで開催された「アセアン日本商工会議所連盟と、ミンASEAN事務総長との対話」に参加させて頂き、「金融・資本規制緩和」や「貿易円滑化」「競争政策」など、会員各社からの幅広い要望をまとめた要望書を、ASEAN事務局に提出致しました。その他にも、「賃金調査結果報告会」の開催や、タナメラカントリークラブで、19チームにご出場を頂きました「会員懇親ゴルフ」、20名にご参加頂きました「イラン・テヘランへの経済視察団の派遣」を実施しました。

2017年は米国大統領就任式に続き、仏大統領選挙、秋のドイツ連邦議会選挙と注目のイベントが続き、不透明・不確実な時代は続くとも思われますが、シンガポール日本商工会議所は確実に会員の皆様へのサポートを一層強化して参ります。世界の成長の中心地である当地の皆様と共に、この地の成長を支え、我々も成長したいと切に願っております。

最後になりましたが、シンガポール日本商工会議所会員の皆様のご多幸とご健勝を心よりお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせて頂きます。



新年のご挨拶

シンガポール日本人会 会長
THE BANK OF TOKYO-MITSUBISHI UFJ, LTD
Executive officer, Deputy Chief Executive officer for Asia & Oceania

三石 基



明けましておめでとうございます。シンガポール日本商工会議所の会員の皆様に、日本人会を代表してご挨拶申し上げます。

昨年シンガポール日本商工会議所及び会員の皆様におかれましては、シンガポール日本人会の活動に対して格別なご厚情を賜り、ありがとうございました。この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。昨年はシンガポールと日本の国交正常化50周年（SJ50）の記念すべき年でありました。日本人会も通常のチンゲイパレード、日本語スピーチコンテスト、運動会、夏祭り、オープンハウス等の活動に加え、SJ50をお祝いする各種イベントに積極的に参加をいたしました。その中でも、10月29日、30日に開催されました「SJ50 Matsuri」及び「フレンドシップパレード」はハイライトであり、規模・内容いずれに於いても後々まで語り継がれる素晴らしいイベントとなりました。これは日星の友好促進を主要な目的の一つとする日本人会としても非常に意義深いものであり、同時に、シンガポールと日本の結びつきの強さを改めて実感させられるものでした。本イベントの実現に当たりましては、シンガポール日本商工会議所による多大なるご支援及び会員企業様の積極的なご参加をいただきました。心より感謝申し上げます。

改めて2016年を振り返りますと、英国のEU脱退、トランプ氏の45代米国大統領就任など、まさに社会が「変化」する瞬間を目の当たりにすると同時に、シンガポールでは、変化する社会を越えて「継承」してきたものを感じることできた年でもありました。SJ50に加え、特に日本人学校開校50周年もその一つです。日本人学校は、日星国交正常

化と同年の1966年、生徒数27名、教員3名でスタートし、50周年を迎えた現在、生徒数2,300名を超える世界有数の日本人学校に発展しました。日本人会は会の主要な使命の一つとして、設立より一貫してその運営に深く関与してきましたが、これも政治・経済・社会・文化全ての分野に於ける、シンガポールと日本の永年にわたる極めて友好的な関係に支えられてきたことは間違いありません。日本人会関係者の努力はもちろんですが、かかる関係を維持・発展させてこられた歴代の大使をはじめとする大使館の皆様、商工会議所の皆様など、諸先輩方に改めて尊敬と感謝の意を表したいと思います。

日本人会は、継承すべきものは継承しつつ、必要な変化にも柔軟に対応できる組織でありたいと思います。新年を迎えるに当たり、次なる50年、SJ100に向けて、シンガポール日本商工会議所とシンガポール日本人会が当地日本人コミュニティの両輪となって新たな時代を切り開いてゆきたいとの決意を新たにいたしました。本年もシンガポール日本人会の活動に対し変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、シンガポール日本商工会議所の益々のご発展と会員の皆様のご多幸とご健勝を祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。



新年にあたり

シンガポール日本商工会議所 理事
FUJITSU ASIA PTE. LTD.
Vice President

遊口 証



皆様、新年明けましておめでとうございます。シンガポール商工会議所の皆様におかれましては、健康やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

マレーシア、ベトナムに続く3ヶ国目の海外駐在となるシンガポールでの生活も、本年度で早5年目を迎えます。これまで日本、アジアを通じ、営業としてICTビジネスに携わってまいりました。

そのICTの世界では、現在のデジタル技術の進化が4つの大きな波にたとえられます。第一の波が「インターネット」、それに続く第二の波が「モバイル・インターネット」です。この2つの波を経て、それまでは専門家でなければ触れられなかったテクノロジーが、一般の人々にとってもより身近なものになりました。

そして、今、押し寄せている第3の波が「Internet of Things (IoT)」です。コンピュータやスマートフォンだけでなく、工場設備や家電、道路や靴まで、あらゆるモノがネットワークにつながる時代が訪れようとしています。2020年までには、全世界で500億個を超える数のモノがネットワークにつながると予測されています。

さらなる第4の波が「人工知能 (AI)、ロボティクス」です。機械自身が学習をして新しい知見を発見し、自律的に行動するようになります。これらの波は欧米や日本ばかりでなく、最先端のICT国家であるシンガポールを始めとするアジアにも着実に到来しつつあり、あらゆる産業やビジネスの現場でデジタル革新が進んでいくものと考えております。

それでは、デジタル革新の成功の鍵は何でしょうか。テクノロジーはもちろん重要ですが、それだけではありません。私たちは「人」こそが、鍵と考えています。

多くのモノがデジタル化されて複雑につながりあう世界だからこそ、常にすべての中心に「人」を置

いて考えることが重要です。デジタル革新は「人」のためのものであり、デジタル技術で人々の生活が豊かになったかどうかを常に問いかける必要があると思っています。

アジアにおいてビジネスを考える上でも、同様のことが言えるのではないのでしょうか。

一口にアジアと言いましても、民族・宗教・言語も、そして職業観も家族観も、ましてや商習慣や法律制度も一様ではありません。日本の製品やサービスをそのままアジアに輸出するだけのビジネスでは成功の望みが薄いことは皆様もご承知のとおりです。現地のマーケットに必要なものは何か。どうすれば受け入れられるのか。それを考える鍵は、やはり現地にいる「人」だと考えています。仕事以外でもローカルの人々とコミュニケーションを持つ。ローカルフードを食べる。その国、民族の持つ行事に接する時間を持つ。基本的なことですが、こういった日常生活を通じて、文化、習慣に親しみ、謙虚さをもってそれを尊重していくこと。現地の理解を深める上では非常に重要なことであり、必ずやビジネスにも生きてくると、これまでの海外駐在経験から強く感じている次第です。

欧米や日本で培ったノウハウやテクノロジーを活用しながらも、現地にいる「人」に根ざしたビジネスを育てられるよう、本年も引き続きチャレンジしていきたいと気持ちを新たにしております。

2017年は酉年です。「酉」という漢字は、口の細い酒つぼを描いたもので、収穫した作物から酒を抽出する、また果実が成熟し収穫できる状態にあるということで、「実る」という意味もあるそうです。

本年が会員の皆様にとって、「実り」の多い、より素晴らしい年となりますことを心より祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。



正月の思い出

シンガポール日本商工会議所 理事
MARUBENI ASEAN PTE LTD
Chief Operating Officer

西田 浩之



あけましておめでとうございます。今年もよろしく
お願いいたします。

小さいころの正月の思い出といえば、元日におせ
ち料理を食べた後、父母に連れられて、近所の神社
に初詣に行ったことです。今から考えると、初詣な
んて子供には面白くもなんともないものですが、お
年玉をもらった手前、やむなく着いていった、とい
うのが正直なところだと思います。

小学校低学年のころは、東京の下町に住んでいた
ので、元日の午後、富岡八幡が浅草寺に行くのが常
でした。浅草寺はものすごい人ごみだったため、仲
見世通りを避けて一本横の道を通って本堂近くまで
行きました。しかしお賽銭箱にはとても近づけない
ため、ちょっと離れたところからお賽銭を投げ入
れ、帰りは花やしきのほうに抜け、新仲見世で薬研
堀の七味唐辛子を買って帰ったのを今でも覚えてい
ます。

小学校3年生になったころ下町から引っ越してし
まったため、初詣は家の近くの名もない鎮守様に、
紅白歌合戦が終わってから行くことになりました。
歌合戦が終わってから歩いて神社に行くので、着く
のが0時7—8分前、すでに何人かがお賽銭箱の前で
並んで0時を回るのを待っていました。0時ちょう
どに太鼓がなると、初詣が始まります。ものすごく
寒かったという記憶があります。この鎮守様への初
詣を何年か続けていて気づいたことがありました。
私たちはいつも紅白歌合戦が終わってから行くの
で、毎年同じ時間に到着するのですが、年々初詣の
ための列が長くなっていったのです。いつしか鳥居の
外で並ぶことになったため、歌合戦の紅白どちらが
勝つか結果が出ぬうちに家を出るようになりまし

た。田舎町と思っていたのですが、いつしか都市化
が進み人口が増えて、お参りの人も増えた結果なの
でしょう。普段は見向きもされない小さな神社が、
このときばかりはものすごい人でごった返していま
した。お参りが終わると、大人にはお神酒、子供に
は甘酒が振舞われました。

初詣なんて意味ないなんて子供のころは思ってい
たのに、小さいころから初詣に行っていたせいか、
大人になった今では、初詣に行かないとなんとなく
年が明けない、という気になります。ですので、今
でも毎年家の近くの適当な神社、お寺を見つけては
初詣に行くようにしています。

さて、シンガポールに赴任しまして9ヶ月になろ
うとしています。年中暑い国なので、日本にいると
きのような季節感、というものが薄れています。ク
リスマスが来たとか、お正月が来た、という感じが
正直まったくありません。年の瀬が迫ってきてなん
となくあわただしい、せわしない、という感じも
まったくありません。しかし、何かの折にふと、初
詣はどこに行こうかな、などと考えたりします。ま
あ初詣は無理にしても、お正月はどこで過ごそう
と、お正月気分を味わうべく、朝から冷たいビール
をごくりとやって、サトイモの煮たもの、程よくつ
かった数の子、わさび漬をふんだんに乗せたかま
ぼこを肴に日本酒で一杯、シメは薬研堀の七味唐辛
子をパッとふったお雑煮を食べる、これだけはどん
なに暑くても実行したいと思います。

末筆になりましたが、2017年が会員の皆様なら
びにそのご家族にとりまして、実り多きよい年であ
りますよう祈念いたします。



新年に想うこと

シンガポール日本商工会議所 理事
MITSUBISHI ELECTRIC ASIA PTE LTD
Managing Director

佐々木 信二



本稿が掲載されるころにはアメリカ大統領選挙の結果は既に判明しているわけだが、クリントンになっても、ましてやトランプになっても自由主義の旗手であったアメリカが孤立主義に傾倒してゆくであろうことは既定路線のようだ。英国民が選択したのも孤立主義。一方で海洋進出で譲らぬ中国、クリミヤに居座ったロシアなど、大国の単独主義もここに極まれり、である。背景にあるのは、テロや難民、貧困と格差、そして覇権への様々な思惑。多くの国が国内に多くの矛盾と軋轢を抱え、門戸を狭め偏狭なナショナリズムに引きこもろうとしている。さて、このように孤立化が進む世界市場で我々日本企業はどのように振る舞い、どこに活路を見出し、どうしたらこれからも成長を持続していくことができるのだろうか。

日本企業が「グローバリゼーション」という言葉を使い始めて久しいが、私自身は若干の違和感を感じてきた。この言葉には「本国目線、本社目線」で日本から垂直支配的に海外市場を見ているニュアンスがある、と言うと少々言い過ぎだろうか。本国で通用してきた製品やビジネスモデルを、本国のマザー工場を頂点としたサプライチェーンに乗せて世界にばら撒く方式の従来型グローバル化では、ボーダーレスが終焉を迎えるこれからの世界市場では通用しないことを我々もはっきりと認識すべきではないか。

そこで、益々「セル化」が進む世界市場に対して、我々は「真のローカリゼーション」ということを一層真摯に実践し、それぞれの国（市場）で地場企業となりきってその国の発展とともに成長するということを基本に据えるしかない、ということに思い至る。「真の」という意味は、良き市民のひとりとし

てその国や社会で納税や雇用などCSRをきちんと果たすこと、そして提供する財やサービスでその国の発展に貢献してゆく、ということである。また、その財やサービスはその社会や顧客が求めるテイストや品質、その国民が入手できる価格でなければならない。それを実現できるのは本国主義のグローバル企業ではなく、それぞれの市場に根付きローカリゼーションに成功した地場企業であるはずだ。

これまで世界の生産基地として発展してきた中国やタイでの急速な賃金上昇は目下日本企業にとって深刻な頭痛のタネであり、この季節、多くの現地日系企業が労使交渉に神経を尖らせている。しかし、ネガティブな面だけではあるまい。賃金上昇はその国が発展している証であり、所得が増えることで需要も増えるし価格も上がり企業収益も伸びる。賃金上昇に見合う付加価値の高い仕事はその国の人材を育てる。そして優秀なナショナル人材が多く輩出し技術開発や経営を任せられ「真のローカリゼーション」を支えてゆく。そこには、安価な労賃で単純作業のコストメリットを狙った進出当初の目論見は既に見当たらないはずだ。

このような姿が「その国や社会とともに成長する」ということではあるまいか。その国や市場がいかに門戸を閉ざしても、決して排斥されることのない市民権を得た地場企業である。しかし、このためには我々日本企業は大いなるパラダイムシフトともう一段上位の異文化リテラシーの獲得に取り組まねばならない。本国主義から現地主義へ、純血主義から混血主義へ。日本企業において我々が担う地域代表機能の役割もますます重く、深い。美酒に酔えないシンガポールでの一人正月である。



熊本復興を願って

シンガポール日本商工会議所 理事
MITSUI PHENOLS SINGAPORE PTE LTD
Managing Director

東 政明



新年、明けましておめでとうございます。

2014年4月に着任し3年目に入った矢先、娘からのメールで平穏だった生活が慌しいものになりました。2016年4月14日午後9:20、「熊本で震度7、益城で家屋倒壊」。熊本出身の私は「震度7はありえない」と返信。念のため実家に連絡すると「たいぎゃ揺れた、たまがった。家ん中はむちゃくちゃばってん、怪我はなか。心配せんでよか」と母の声。4月16日早朝、再度震度7発生と聞き、母に連絡する。「屋根瓦が落ちてしてもた、ブロック塀も倒れてしてもた、家もつぶるっと思った。今はブルーシート敷いて外におる」とかなり興奮した様子で話すので、これは酷い状況だと思い直ぐに帰省することを決断する。

4月19日朝、福岡空港着。レンタカーを借り、福岡支店に頼んでおいた水、食料等を積み込み熊本に向かう。通常だと1時間半で到着するが今回は6時間半掛かる。高速道路が寸断され、救援物資運搬車両が多いためである。実家に着くと両親、妹がシートの上で途方に暮れている。余震も頻繁に発生しているため車の中で寝泊りしていると言う。避難所に行ったが人でごったがえしており気が休まらないので帰ってきたとのこと。これからどうするか、どこかに避難するか相談したが余震が収まるまで車で寝ると言う。80歳を過ぎた父はさすがに我慢できず家の中で寝ると言い張るので、仕方なく私も隣で寝ることにする。いざと言う時は担ぎ出せるだろうと思ったが余震が来ると身動きできず、収まるのを待つしかない。

4日間居たが余震が頻繁に来るのでこれといって遣る事は無い。話をし、三食食べ後は寝るだけ。帰

る前日、何がしたいか尋ねると風呂に入りたいと言う。断水で仕方なく湧き水を汲みに行き何とか風呂を沸かす。濁ってはいるが温泉だと思えば入れないことも無い。久しぶりで気持ち良かったとの両親の声を聞き暇乞いを告げる。

その後、毎月帰省することになるが復興の歩は遅い。大きな被害を受けた熊本城は復興に20年掛かると聞く。11月、甥の結婚式のため帰省したが、さすがに屋根を覆っていたブルーシートは減ってきている。4000戸以上の仮設住宅も完成し従兄弟家族も引っ越したと聞き、徐々にではあるが日々の暮らしが戻りつつあることに安心する。遠く離れて何も出来ないが故郷の復興と人々の平穏を祈るばかりである。

最後になりましたが、ご支援を頂いた皆様に感謝申し上げますとともに、本年が皆様にとりまして良き年となりますよう心よりお祈り申し上げます。



「ソーダ水の中を貨物船が通る」街シンガポール

シンガポール日本商工会議所 理事
NYK GROUP SOUTH ASIA PTE. LTD.
Chairman / Managing Director

水上 俊一郎



会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

輸送に関わるものとして、その現場に近いところに勤務するという事はとても気持ちが引き締まります。船会社に勤めて三十余年、シンガポールは四度目の海外勤務です。これまでもロッテルダム・香港・ロンドンと「現在」と「過去」の港町を歩き歩いて来ました。赴任当時、ロッテルダム・香港はまだ目の前に港が広がっていました。ロンドンは大昔は港町でありましたが、今はその風情は絵画や映画の中でしか味わえません。今回ロンドンからシンガポールに横移動して来ました。久々に港を目の前にして仕事出来る事、大変嬉しく思っています。

私は当社グループ・貨物航空会社に出向していた事もあり、成田空港に5年間勤務していました。空港では貨物地区勤務でしたが、旅客ターミナルはとても華やかでした。今の時代、老若男女問わず皆さん飛行機・空港を身近に感じられていると思います。飛行機に加え、日本では鉄道や自動車は身近な輸送手段として親しまれていますが、船はどうか？

あまり知られてない事ですが、日本の輸出入の99パーセント以上を海上輸送が担っています。日本は船の輸送なしでは生きてゆけぬ国です。

かつて日本でも港は身近にありました。私の子供の頃は造船所も街中近くにあり、貨物船が着桟している桟橋までも簡単に近づけました。映画やテレビの舞台には船と桟橋が頻繁に使われ、荒井由実（松任谷由実）さんの名曲「海を見ていた午後」という曲の中で、「ソーダ水の中を貨物船が通る」と歌っていた事、多くの皆様もご記憶にあると思います。

しかし、今の日本では近代化されたコンテナターミナルに近づく事は難しく、日本のライフラインとも言える大事なエネルギーを運ぶ専用船も沖で荷役をしてしまいますので、船の大切さを肌身で感じるチャンスが非常に少なくなっています。

しかし、ここシンガポールでは昔の日本のように船が身近にあります。チャンギ空港から街中に向かってECPを走りますと、左手の窓から沖待ちしているさまざまな貨物船が見えます。MCEのトンネルを抜け、高層ビル群が見えてきた時に左手に目を移すと、手に取れる距離にタンジョンパガーのコンテナターミナルが目の前に広がります。

どこの港町に勤務しても、船会社に勤める人間として子供達に船そして海上輸送の大切さを理解してもらい、身近に感じてもらう機会を作ってゆきたいと常に感じています。

当地でもセキュリティーが年々条件が厳しくなっていますが、毎年日本人学校の生徒さん達にPSAコンテナターミナル見学を企画させていただいています。アテンドに当社の海上・陸上社員が多数関わりますが、社員も大切な行事だと理解し、積極的に手伝ってくれています。

そして毎年この行事が終わった後に我々が楽しみにしているものがあります。それは生徒さん達からの感想文です。これは我々にとっても大切な宝物であり、なるべく多くの社員とその内容を共有するようにしています。それら感想文の中には見聞きした事がない船や港の事に関する新鮮な驚きが詰まっています。

「ぼくは初めて荷物の99パーセント以上が船で運ばれているということを知りました。」

「お話でおどろいた事は、シンガポールにあるコンテナの85%はシンガポールで消費するものじゃないという事です。そのトランシップというのは聞いていて、電車を乗りついたりする時と同じだなと思いました。」

「ぼくは家に帰ってPSAやNYKなどの事を話すと、お父さん・お母さんもしらないことがたくさんありました。そしてぼくが一番心に残った話は、シンガポール港が昔は少ししか扱っていなかったコンテナを今では3300万個も扱っているということです。」

「PSAには一日に60隻出入りすること、世界で一番大きい船は立てるとシンガポールフライヤーよりも高いことにびっくりしました」

「簡単に手に入る身近な外国の食材は、こんなふうにして長い時間をかけてここに来たということを改めて知りました」

「お話を聞いて、船乗りになってみようかと思いました」
 「新しい発見の一つ一つが面白くてうれしかったです」
 などなど。

PSA コンテナターミナル見学に参加された小学生の皆さんは、必ずやこの見学会の経験を大人になっても覚えていてくれる事と思います。

街中のちょっと高いところに上ればコンテナターミナルやコンテナ船が見えます。セントーサ島付近では、コンテナターミナルがテーマパークの一部のように目の前に広がります。イーストコーストの公園を歩けば沖待ちしている沢山の貨物船が見えます。

折角船そして港が身近に感じられる街シンガポールに居られるので、皆さんも偶には海を眺めに行き、ソーダ水の中に貨物船を通してみてはいかがでしょうか？



こんなに違う二つの国

シンガポール日本商工会議所 理事
SUMITOMO CHEMICAL (ASIA PACIFIC) PTE. LTD.
President

高沢 聡



機外に出るとすさまじい光が襲い掛かってくる。サングラスの携行を推奨されていたが直ちにその理由を体感。まるで身体に突き刺さるような日差しの強さである。気温も今まで体験したことがない高さと思うが、湿度が低いせいか日陰に入れば何とかなる。色彩には彩りが乏しく、日差しと砂の色が相まって、白茶色、の表現が最も相応しそうだ。

街中に緑があふれ、南国の強い日差しが緑のおかげでソフトに感じられる。身体にまとわりつくような湿気があり、日陰にいても少しの間で汗ばんでくる。しかし、気温は彼の国より大分優しい。常に晴天の続く彼の国と違い、青空にはたちまち雲が広がり俄かに曇ったと思うとスコールがやってくる。しかし、しばしの間、雨は止み再び青空に。この国のお天気は忙しい。

ジェッタ新空港ターミナルビルは建設中、赴任時にそう言われ、3年半の赴任が終わった時も建設中、トラップ経由バスに移って古い小さなターミナルビルに移動する。Immigrationカウンターの前は既に多くの人々の列が出来ている。出稼ぎに来たと思われる人たちも数多くいる。機中で見た聖地巡礼の人たちは別のところに誘導しているようだ。不審者の入国を防ぐためだろうが、一人一人にかかる時間がやたらと長い。指紋を読み取る機械はいつも機嫌が悪いようで、何度もやり直す必要がある。係官は大変言い訳が多い、パソコンの調子は直ぐに悪くなる。

ターミナルビルは新しく、清掃も行き届いていて気持ちが良い。大きなターミナルなので、遠いところのゲートに着くと少し歩くがオートウォークのおかげであまり苦にはならない。まだまだターミナルは拡張すると聞いて驚いた。Immigrationカウンターの前には誰も並んでいない。場所を間違えたの

かと思ったがそうではなかった。処理が速いので、列が長く伸びることは滅多にないのだ。今はEPを取得して自動ゲートを使うので更に早くなっている。これほど効率の良いImmigrationを備えた空港は世界のほかにあるのだろうか。俄かには思いつかない。

この国ではイスラム教の聖典クルアーンを厳格に守っている。女性は顔と手以外を隠す、となっていてアバーヤを身に着けているが、場所によっては目だけ出して顔も見せないニカーブを身に着けている。その衣装の色は黒で、男性は白のトーブを着ているので、服装の色彩は白黒限定。私の赴任地近くの大都市ジェッタは開放的と言われており、顔まで隠している女性は少ないが、リヤドなどでは顔まで隠すのが一般的と言われている。ただし、国外に出るとこの服装はしなくて良いようで、ドバイに行く飛行機では、離陸すると皆、アバーヤを脱ぎTシャツ、Gパンになる。

暑さと湿気のためだろうが、女性の服装は極めて開放的。ノースリーブにミニスカート、サンダル履きの姿が多い。服の色のバリエーションもあるが、際立つのは露出度の多さ。スコールに遭遇することが多いので靴などはあまり履かずにサンダルを履くのかな、と推測する。ガニ股気味で歩く女性が多いが、一説によると、サンダル履きの所為でそうなる人が多いとも。しかし、室内において冷房は凍える寒さになっているので、そんな服装をしている人でも防寒?の用意は十分に備えている。

日常、女性に接することはあまりない。ホテル、レストラン、ショッピングセンターなどで女性が働くことは殆ど無い。出稼ぎとおぼしき男性のみ。ある程度女性が職場に進出している中東の他の国と比

べても際立つ。一部のスーパーのレジで見かけたことはあり、さすがに女性の下着売り場は女性店員になったようである。しかし、世界で唯一女性が自動車を運転することを禁じている国でもある。

女性の職場進出比率は極めて高い。おそらく日本より高く、自動車の運転手含めて日本では一般的に男性主体の職場でも女性が多く進出している。家事は外国人家政婦の助けを借りてまかなっているのであろうが、これは彼の国でも多く行われている。しかし、職場への進出度にはとても大きな差がある。

街はお世辞にも綺麗とは言えない。砂埃とともに多くのごみが舞う。人々はゴミのポイ捨てを一向に意に介さないようだ。小さな子供が食べ残しやスナック菓子の空き袋を放り出しても親が注意をするところはあまり見かけない。清掃作業をしている出稼ぎ労働者の仕事を確保する意図かもしれないと感じてしまう。

ゴミのポイ捨ては罰金の対象である。そのためか街は極めて綺麗。それ以外にも多くの罰金制度がある。多民族国家統制のための手段との解釈もある。

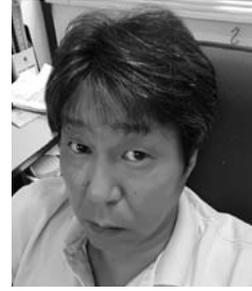
2016年5月に前任地サウジアラビアから移ってまいりました。世界各国それぞれのお国事情があり、自然環境のみならず文化や風習も様々ですが、二つの国には多くの点で大きな違いがあります。海外に出て仕事をするということは、それぞれの赴任地の事情を把握して、違いを認識して生活していかなければならないこと、再認識しております。上記は双方の国を対照して記述してみました。どちらがどちらから説明するまでもない違いがあることをご理解いただければ幸いです。



新年を迎えて思うこと

シンガポール日本商工会議所 理事
TAISEI CORPORATION
Project Director

橋田 薫



新年明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのことと存じます。

私は2002年7月に赴任して以来、今年で丸15年目のシンガポール駐在生活を迎えることになりました。また、海外勤務経験といえばこのシンガポールだけで、思い起こせば赴任当時、海外勤務経験は皆無で、かつまだまだ技術者としても若輩者であった私が、まさかこれほど長期に渡ってシンガポールの地で働くことになるとは、当然のことながら思いもよりませんでした。私の半生の3割を、また弊社に入社して以来の会社人生の5割以上をこの地で過ごしていることになる訳ですから、もはやこの国が好きとか嫌いとかそういった感情すらなくなっているようです。

新年にあたり、少し赴任当時の記憶を思い起しながら、雑感を書かせていただきます。まず、当時チャンギ空港に始めて降り立った時、その豪華なデザインと利便性に優れた施設に大変感銘を受けたことを記憶しています。また、カラン・パヤレバ高速道路（KPE）建設工事の設計・施工を担当する土木技術者としての視点からこの国の様子を見て、自然との調和を重視した景観設計、狭い国土を感じさせない都市空間設計、そして利便性を追求している国土整備計画など、日本も多くの面で見習うべきだと直感的に感じました。一方、華奢で低層部分が吹き抜けになっている細い商業ビルやHDBが立ち並ぶ風景を見るたびに、「大きな地震が来たら、全部倒壊する！」などと日本基準しか知らない技術者ならではの心配をし、これらの建物を含め地下鉄・高速道路などのインフラ設備を見ては、まだまだ日本

のほうが数段綺麗に仕上げるなあ、と日本の物作りの素晴らしさを少し得意げに感じたりもしていました。

また一般的な視点からはと言いますと、ヘイズや乾季/雨季はあれど、年間を通じて温暖な気候ですから、季節に合わせた衣服を必要としないこと、風邪など殆どひくことがなく病院へ行くことがないこと、寒くないので寝起きが楽なこと、ホーカーへ行けば手軽においしい食事がとれること（ちなみにバクテーには週一でお世話になってます）、タクシーが安いこと、サンダル履きで通勤する方々も多かったせいか、贅沢品に手を出さない限りは、なんて懐に優しい国なのかと思ったものでした（とはいえ、つつい手が出て散財してしまうのがオチですが・・・）。 ついでに言えば周辺諸国への旅行も、日本からよりは断然安いので、海外旅行を趣味と公言している方も多いのではないのでしょうか。

さて、この15年間弱で、世界では、中東バブルやリーマンショックを経験しながらも、アジア新興国は目を見張るような発展を遂げてきました。そして、シンガポールにおいては、当代表する高速道路と言え、セントラル高速道路（CTE）、パン・アイランド高速道路（PIE）とイーストコースト・パークウェイ（ECP）の3線、代表する地下鉄はと言え、南北線（NSL）と東西線（EWL）の2線、空港は、ターミナル1と2でのみであったものが、上述のKPEとマリーナ沿岸高速道路（MCE）の高速道路が開通し、北東線（NEL）、環状線（CCL）およびダウンタウン線（DTL）という3本の地下鉄が開業し、空港も、ターミナル3の開業に加えターミナル4と5を建設中といったインフラ設備の途切れることの無い拡充ぶりには、この国のス

ピード感のある進化をまざまざと感じざるを得ません。また当時はマリーナサウスと呼ばれていた埋立て後の未開発地域に、マリーナベイサンズ（大型複合施設）を筆頭とするランドマークが次々と建設され、まさにアジアの一大観光名所へ発展していく過程を目にすることができたことは、在外ならではの経験と思い、こういう機会に恵まれた私自身の幸運に思いをはせる次第です。

今年1月、第45代アメリカ大統領に共和党のトランプ氏が就任し、世界情勢への影響に注目が集まる場所ですが、ここシンガポールでは、明確な都市計画マスタープランに沿って今後もまだまだ再開発や地下鉄延伸・高速道路建設、地下開発など盛り沢山のインフラ整備が計画されています。中国の台頭はあるものの、日本人として、また国際人として、これからもこの国の更なる発展をしっかりと見ていきたい、そして微力ながら様々な形で貢献していきたいと、新年を迎え気持ちを新たにしている次第です。

末筆ではございますが、会員の皆様、そしてご家族様にとりまして、本年の多幸と、益々のご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



一物二価

シンガポール日本商工会議所 理事
SOMPO INSURANCE SINGAPORE PTE. LTD.
Managing Director

高橋 幸嗣



皆様、新年明けましておめでとうございます。

シンガポールに来たばかりのころ、ラクサがうまい、エスカレーターが速い、タクシーが安い、と「うまい」「はやい」「安い」の三拍子揃っていることに驚きましたが、ほかにも驚いたことのひとつに、クレジットカードの年会費を払ったことがないという人がいたことがありました。日本にも年会費無料のカードはありますが、年会費有料のカードの会費を免除されるという話は、私が無知なだけかもしれませんが、聞いたことがありませんでした。

しかしその後、私も実際にシンガポールでクレジットカードを作り、その年会費は初年度無料のものでしたが、2年度目に年会費の請求が来たので免除を申し出ようと電話を掛けたところ、最初から自動応答音声に年会費免除申し込みのメニューがあり、プッシュホンの操作だけで生身の人間と話すこともなく免除申請の手続きを終えることができ、結果無事に免除されました。

「それなら最初から無料とうたえばよいのではないか」と思いますが、申込書には200ドル近い年会費が記載されており、実際に免除にならなければその年会費を払う羽目になります。このような「言った者勝ち」（あるいは「ごねた者勝ち」？）のような不透明な慣習は、日本ではまかり通ることはないだろうと思うのですが、シンガポールではそれが当たり前のように定着しています。このことに私は、驚くとともに違和感を感じたものですが、ではこれが不公平かと言われれば、冷静に考えてみれば、銀行側が使用実績などに基づいてビジネス上の判断として免除可否を判断しているとすれば、一概に不公平とは言えないのではないかと、じきに思うようにな

りました。同じカードを持っている人が異なる年会費を払っている（あるいはまったく払っていない）という意味では、これは平等とは言えないかもしれませんが、それをもって公平・公正ではないとは言えないのではないかと思います。

我々日本人には（私だけではないと思いますが）、公平性や透明性を重んじ、何かにつけ平等でなければならない、均一でなければならないという固定観念ないしは一物一価に対する信仰のようなものが強く根付いていて、一方でシンガポールでは合理性を求めつつも個別性を認める風土があるのではないかと感じたのです。

日本でも、新築のマンションを発売当初に提示価格で購入した人が、売れ残った住戸をさばくために値下げ販売を行った販売業者に対して、資産価値の減少に対する損害賠償を訴えるケースがありますが、これなども、必ずしも市場は透明ではなく、価格は市場における需要と供給によって決められるのであっても一物一価ではないということに気づかせてくれる端的な事例です。

最近では日本でもサラリーマンの労働市場における市場価値ということが言われるようになってきました。ただ私の見る限り、日本ではまだ今のところ正社員の終身雇用制度がベースになっており、旧来の大手企業では決められた給与テーブルを基に、評価を踏まえたうえで規則に沿った給与の改定がなされているものと考えられます。これはまさに一物一価ということが言えると思います。

一方で近年では転職する人も増え、また企業のグローバル化に伴い、外国人など日本の雇用体系の枠組みの外から人材を採用するケースも増えていると思われま

示されるとともに、その企業における給与体系にどのようにフィットさせるかに人事部は腐心することになるわけですが、社員のマジョリティが生え抜きの会社であれば、既存の給与体系、給与テーブルが秩序として維持され、中途入社の子員の給与も既定のテーブルに組み込まれることで一物一価が維持されるわけだす。

目を転じてここシンガポールでは、ことPMEB (Professionals, Managers, Executives and Businessmen) に関しては複数回の転職経験者がマジョリティであり、彼らの給与はまさに市場価値で決められていると言っても過言ではないでしょう。そうしてさまざまなバックグラウンドを持った社員が混成チームを形成します。終身雇用を前提とした社内でのジョブローテーションは存在せず、専門領域とその周辺領域を深掘りしながらキャリアを磨き、転職を昇進または昇給の手段の一つとして一定期間で転職してゆくのです。一定数は長期に一社で勤め上げる人がいる一方で、そのような転職者が会社全体の母集団の最大を占めるわけだすから、シンガポールではおのずと給与体系におけるフレキシビリティを高く持たざるを得ず、一物一価が成り立たないわけだす。

雇用の状況が厳しいときには労働市場においても市場価格が下落し、経済が活況の際には需給によって市場価格が上昇します。また企業の個別の事情によっても、早急に採用が必要なポジションに対しては価格に対する許容度が上がるなどし、中途採用者に対する給与の上昇を招きます。また極めて流動的なシンガポールの労働市場においては、例えば環境変化などによって一定のカテゴリの職種における市場価格が上昇すると、そのカテゴリの社員の中途採用のコストが上がるだけでなく、それがプル要因となって職員の流出リスクが高まり、引止め策のオプションとして既存職員の給与の上昇を招くことすらありえます。これらの複合的要素、入社の子

ミングや経緯等によって、同一社内の子類似のランクの職員においても相当の差が生じることがあり、場合によっては上司部下の給与が同程度だったり、特別な役割においては逆転したりという一物二価が容認されざるを得ない状況があり、実際に起こりうるのです。

しかしこれは真の市場性と高い流動性を持った労働市場においては必然であり、その条件が揃ったシンガポールであればこそ、現実のものとなっているのでしょう。

これは、一定高コスト体質化を招く恐れもありますが、急速に変化する環境に応じて組織・体制を変更・強化していく必要のある状況には適した合理的なシステムという面もあるように思えます。

これまでシンガポールは、国民の教育レベルの高さ、地理的条件、政府の築いた諸制度とインフラなどによってアジアのハブとして目覚ましい発展を遂げてきました。環境の変化や政府の政策の変遷を経て、世界中の多国籍企業がひしめくシンガポールにおいては、こうしたダイナミックな労働市場の存在も、その急成長を担ってきた重要な一つの源泉だったのではないのでしょうか。

グローバル化を迎え早急に組織改革や多様化を求められている日本企業にとっても、このような労働市場のあり方とダイナミズムは、ひとつの解であり未来予想図なのではないかと感じられます。将来、終身雇用制度の有名無実化、前時代化がさらに進んだとき、日本の労働市場も真の多様化と流動化が進み、我々はここシンガポールで日本の未来図を見ていたことに気づかされるのかもしれない。

素人の徒然なるままの随想でお目汚しとなりましたがご容赦ください。

末筆ではございますが、本年が会員の皆様およびご家族にとりましてよりよい年となりますよう心よりお祈り申し上げます。



新年に想うこと

シンガポール日本商工会議所 理事
TOSHIBA ASIA PACIFIC PTE. LTD.
Corporate Representative - Asia/Managing Director

土光 辰夫



新年明けましておめでとうございます。

一昨年、建国50周年を迎えたシンガポールに駐在となって1年余りが過ぎました。昨年は日本との国交樹立50周年でもあり、節目のタイミングに居合わせることになりました。これまでも認識はしていたつもりですが、シンガポールは目覚ましい発展を継続しており、アジアにおける中心的な拠点として、ますますその存在感を高めていることを改めて実感しています。このところやや経済成長が鈍化しているとは言え、街のいたるところで建設工事が行われており、弊社の入居している事務所からも巨大なコンテナターミナルの新增設工事が着々と進む様子が観察でき、経済活動が活発に行われているところをまさに目前にしています。

一方で、世界の情勢に目を向ければ、昨年は英国の欧州離脱や米国の大統領選挙戦での混迷など、経済成長の全体的な停滞や格差拡大を背景に自由貿易やグローバルイゼーションへの逆風が驚くほどの勢いを増してきています。アジアでもAECが一昨年末に発足したものの、域内の経済活動の活性化の進展は比較的緩やかなものであるように思えます。日本ではこのような世界的な状況の中、アベノミクスがやや息切れ状態になり、どのように経済を活性化していくべきかについて、いささか方向性を見失ってしまったような不透明感があります。

昨年7月に当地にて行われたシンガポール日本ビジネスフォーラムに参加しましたが、トミー・コー外務省無任所大使を初めとするシンガポールからの登壇者は、元々の提案国であるアメリカでの成否が怪しくなってしまったTPPや、なかなか議論の進まないRCEPなどの多国間での経済協力の仕組

みを積極的に推進してより自由な貿易を拡大することの重要性を一貫して強く主張されており、同じような話をしている日本サイドに比べて気迫のようなものを感じ、開かれた経済活動を通じてのみ成長を実現できる都市国家としての覚悟と信念が政財界のリーダーに共有されているのだと強く印象に残りました。8月にはリー首相が米国への国賓級公式訪問でオバマ大統領に強くTPPの批准を求めた他、その後の日本を含むアジア各国との外交でもやはり一貫したメッセージを力強く発信し続けています。国際間の自由な経済活動は、シンガポールにとって建国以来これまでの発展の礎でもあるので、当然と言えば当然ではありますが、アジアの小さな都市国家でありながら、これまでの継続的な発展の成功を背景に強く世界にアピールする存在感の大きさには目を見張るものがあります。

冷静に考えれば、規模はかなり違うものの日本も人間以外の資源を殆ど持たず、国土も狭く国際的な経済活動の中でなければ成長はおろか維持すらままならない事情はシンガポールと大差なく、同じ課題と方向性を持つシンガポールと積極的に連携を図って世界に働きかけを行うことは、非常に重要な意味を持っていると言えるでしょう。それはまた50年と言う時間をかけて協力関係を育んできた結果として、シンガポールから見ても日本に対する期待値でもあると感じています。

もっとも、この国に住み仕事をしていると、日本との違いについても身近で感じるものが少なくありません。活発な建設工事の様子を見ても、用途の変更を含めた新規・再開発の決定と推進のスピードが非常に速いことに驚きます。新聞を読んでいても、シンガポール株式市場の株価がこのところずっと冴

えない状況であるにも関わらず、新規投資案件や開発計画が次々と繰り出されるように紹介されているのも、不思議な感覚があります。しかもそれらの殆どは市場の力を活用したものであり、政府のリードはあるにせよ地に足のついた経済活動の顕れであるとの印象を受けます。

昨年の夏に、弊社の重要な顧客でもある公共交通機関SMRT社の車両を含む鉄道資産をLand Transport Authority（陸上交通庁）が買い取ることで合意したこと、ほぼ同時にSMRTの株式を過半数所有する政府系投資会社であるテマセクホールディングスが残る株式を少数株主から買い付けて非上場化する計画も突然発表となりました。SMRTは公共事業としてスタートしたものが後に民営化されてきた企業ですが、近年利益は維持してきているものの、設備の老朽化などで資金負担が増え、運行でも不具合が増えている状況にありました。そこで資産移管によって資金負担を軽くし、SMRTが運営の改善と効率化に集中できるようにすることが決定の背景であり、この変更による改善に向けた計画の説明がかなり具体的に開示され、2ヶ月後には臨時株主総会で非上場化が賛成多数で決議され、この大きな変更はまたたく間に実行に移されました。資産移管によるスキーム変更の計画については水面下でLTAとSMRTで協議が行われてきたようですが、その発表から非上場化による計画実行までの手際の良さは呆気に取られるばかりでした。もちろんこのように大きな経営方針の変更にはリスクも伴いますが、その点についても説明は抜かりなかった印象です。似たような例を日本では思いつかず、政府関係機関が市場との対話も含めてこれだけ手早くものごとを進めることは想像ができません。

正直なところ、今回のSMRTのスキーム変更はリスクは小さくないように思いますが、十分に検討

して進めた結果としてリスクが顕在化すれば、計画やスキームを修正すれば良いという思い切りの良い割り切りがあるようにも思えます。それはこの国がこのような仕組みを自らが構築し、ここまで発展を継続してきた自負に支えられているからだとも言えるでしょう。

翻って日本では、継続的に経済成長していた時代は遠い過去のものとなり、経済政策を巡ってうまくいくこともあれば、外れてしまうことも少なくなく、常に様々な議論が行われて試行錯誤と優柔不断の間を行き来しているように思えます。日本の経済規模を考えれば、政府の相対的な規模と影響力ははるかに小さくなりますし、駄目ならやり直せばよいと言う感覚での運営はリスクが大きすぎるのかもしれない。小回りが利くかどうかは、本質的な差のような気がします。とは言え経済の発展段階も近く、様々な共通課題を抱えており、日本の企業の活動も広く受け入れてくれているシンガポールとは、通商政策での連携に留まらず、様々なレベルでの交流により知見の共有化を行い、研究開発分野や第三国での共同の活動などを推進していくことが重要なのだと思います。

冒頭でも触れましたように、弊社事務所からは巨大なコンテナターミナルの建設現場が見えますが、これは過去30年の間にシンガポールが日本に追いつき追い越し、今でははるかに先に行ってしまった分野の一例です。もちろん地の利の差もありますが、継続的な発展を意志を持って推進するこの国と、共存を通じて刺激を受け学べることは少なくないだろうと考えています。

末筆になりましたが、本年も会員の皆様にとりまして、素晴らしい年となりますことを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もなにとぞ宜しくお願い申し上げます。

2016年を振り返って

第1工業部会 部会長
IHI ASIA PACIFIC PTE. LTD.
Director / Chief Operating Officer

赤松 真生



会員の皆様、あけましておめでとうございます。皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。私もシンガポール赴任以来2度目のお正月となりました。

昨年4月より第1工業部会長のお役目を仰せつかり、部会員並びに事務局の皆様より温かいご支援、ご協力を賜りながら、これまで務めさせていただいておりますこと、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

さて、昨年は日本・シンガポール国交50周年を記念して様々なイベントが行われ、中でもSJ50 MATSURIではオーチャード通りでのフレンドシップパレードを含め、11万人を超える参加者を得るなど、今後の両国の友好発展を大きく盛り上げていく節目の年でありました。

JCCI第1工業部会におきましても会員の皆様並びにシンガポール社会との交流と相互理解を図るための様々な活動をして参りました。まず視察・見学会ですが、昨年5月に運輸・通信、貿易、観光流通・サービス部会との共催による「PSA国際ショナル・港湾施設視察会」を、また同9月には第2、3工業部会との共催による「キッコーマン様工場視察会・懇親会」を、そして10月には「シンガポール総合病院（SGH）施設視察会」を実施いたしました。

SGHは1821年、当時初の公共医療機関として設立されたシンガポール最大の病院です。シンガポール政府が社会福祉の分野において目指した国民医療の財政負担を最小限に抑え、先進国として世界で競争力のある高度な医療レベルを上げていくためにSGHのような公立病院をシンガポール保健省の指導の下、1980年代より順次民営化し、現在はSGH

も株式会社組織であるSingHealth傘下の中核病院としてアジアの中でも最先端医療サービスを提供しています。今回はリー・クワンユー元首相の主治医も務められたProf.Tay Boon Kengを中心にSGHの幹部スタッフの方々からのプレゼン、JCCI参加者との対話、そして院内視察を通じてシンガポールの医療システムの全体像についてご説明をいただきました。

日本と同様に急速に高齢化や複雑化する慢性疾患医療に直面するシンガポールの医療現場をリードしているSGHの姿は、日本の医療行政やその財政負担の在り方を考える上で良き参考となるものと感じました。さらに、定例のゴルフコンペ並びに懇親会は6月（SICC）と9月（タナメラCC）に和気藹々とした雰囲気の中、開催いたしました。次回コンペは2017年2月に予定しておりますので、部会員の皆様の参加をお待ちしております。

さて、今回は業界動向の話題として近年シンガポール政府が注力している航空宇宙産業について少し触れさせていただきたいと思います。

ご承知の通り、シンガポールは東南アジアのハブ空港であるチャンギ空港を擁し、同空港には現在約100社のエアラインが乗り入れ、一日あたり6,800便が世界80か国、330の都市との間で運行されています。昨年は5,540万人がチャンギ空港を利用しました。2017年には第4ターミナル、2025年頃には第5ターミナルが完成する見通しで、完成後は年間約1億5,000万人の利用が可能となります。一方、ボーイング社の予測では今後20年間で世界に供給される航空機数は約4万機、そのうちの3分の1以上がアジアで使われ、2035年までにアジア太平洋地域における航空機数は現在の3倍の1万3千機程

度になると見込まれています。

シンガポールはそうしたアジア太平洋地域の航空旅客需要の増大を受け、今後も増加していく航空機のMRO（Maintenance（整備）、Repair（修理）、Overhaul（分解組立検査））ビジネスを中心に自国の航空宇宙産業を発展させるために、海外の機体、エンジンや関連装備品メーカー、内外のMRO企業にとって魅力ある投資環境を整備し積極的に誘致してきました。その結果、現在シンガポールでは100社を超える航空宇宙関連企業が存在し、アジア太平洋地域の航空機産業の最重要拠点（ハブ）となっています。因みに米アビエーションウィーク誌によると、アジア太平洋地域のMRO需要は2016年の157億米ドルから2025年には283億米ドルに拡大すると予想されていますが、すでにシンガポールは同域内のMRO需要の25%を超えるシェアを占めています。

SIA エンジニアリングやSTエアロスペースなど地場大手の航空エンジニアリング会社はMRO事業を通じて得た知識や技術、精密機械やエレクトロニクスなどシンガポールがかねてより培ってきた技術等を活用し、エンジンや各種装備品向けの部品製造分野にも進出を始めました。同時に、例えば世界3大航空エンジンメーカーの一角である英ロールス・ロイスはシンガポール政府が域内の航空宇宙産業振興のために開発した専用工業団地「セレーター・エアロスペース・パーク」内にセレーター・キャンパスを設立（2012年）し、エンジンの組立や試験、技能訓練や研究開発などの活動のみならず、同社のエアバス向け大型エンジン用ファンブレードの製造も行っています。同様に米エンジン大手のプラット・アンド・ホイットニー社も米国本社以外で初めて最新のギャードターボ・ファンエンジン用ハイブリッ

ド型ファンブレードとタービンディスクの製造を開始しました。

シンガポールの航空宇宙産業は、過去20年間にわたり平均して年率10%の成長を遂げ、2012年には航空宇宙産業における生産高が87億シンガポールドルを記録、同産業に携わる雇用人員も約2万人に達し、その90%が高技能職で構成されています。

今後さらに複雑かつ高度化する航空機の製造や整備保守技術に対応していくために、海外大手メーカーも積極的にシンガポール科学技術研究庁（A*STAR）や傘下の研究機関と提携し、共同で技術開発を進める段階まで来ています。シンガポール政府はかつて海運と造船（船舶修理含む）をセットで産業化したように、アジア太平洋地域における航空運輸と航空機の整備・部品製造を産業として一体化し、経済成長の新たな柱にしています。

JCCIの活動においてもシンガポールでの事業メリットが生かせるような分野の開拓に向けて、皆様のお手伝いが少しでもできればと思っておりますので、本年も何卒よろしくごお願い申し上げます。最後になりましたが、本年の皆様の益々のご発展とご健勝をお祈り申し上げます。

2017年の展望

第2工業部会 部会長
MITSUBISHI CHEMICAL SINGAPORE
Managing Director

筑本 学



皆様、新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、益々ご健勝のことと、お喜び申し上げます。

さて、新年に際しまして、昨年の振り返りと今年の展望を少しかき書いてみたいと思いますが、その前に、わたしの前々任の社長が「2012年の振り返りと2013年の展望」を書いている原稿を事務局の方が送っていただきましたので、その後、どうなったかを検証してみたいと思います。前々社長のI氏が2012年から2013年にかけてのポイントと考えたのが、以下です。

1. 中国の低成長
2. 中国と日本の領土問題と反日
3. アラブの春の継続とイスラエル・イランの動向
4. シェールガス・オイル開発によるエネルギー革命
5. ギリシャに端を発したユーロ危機
6. 消費税増税の国会通過と民主党の分裂
7. 日本人ノーベル賞受賞者の継続

I氏は、結論として、2013年以降も諸問題は解決されず、あまり明るい未来を予想しなかったようです。果たして、その後、どうなったかということ、どうもI氏の予想はかなり当たっていたのではないのでしょうか。わたしの独断と偏見でそれぞれの現在の状況を並べてみると、以下ようになりました。

1. 中国は変わらず低成長、その影響で世界の経済も低成長かつ中国の過剰生産設備問題も遅々として解消されず。
2. 尖閣諸島のみならず、南沙諸島、西沙諸島と中

国の領土拡大と軍事拠点化の意欲は益々拡大、各国との緊張も益々増大、領土問題はさらに大きくなっています。

3. アラブの春が飛び火したIS・シリア問題は泥沼化。アメリカ、トルコ、ロシア、イラン、クルドと利害関係は複雑化し先は見えず。大量の難民が発生。
4. シェールガス・オイルは順調に増産が進んだが、ここに来て原油価格が低位安定。開発スピードは鈍り、クラッカープロジェクトは軒並み遅れ気味。但し、2018-9年以降のシェールガスベースのクラッカーは、高い競争力でアジアのナフサクラッカー事業にダメージを与える可能性は必至。
5. 単なる通貨・経済問題から中東・アフリカの難民受け入れに端を発した欧州の足並みの乱れと英国の離脱問題。民族の大移動によるローマ帝国(EU)の崩壊と中世暗黒時代(閉ざされた囲い込み社会)へ突入か。
6. 再び延期された消費税。安倍首相一強時代ながら、「政治より政局」は変わらず。改革は掛け声ばかり。民主党など野党の弱小化。先の見えない日本の政治。将来に対する不安は拡大。
7. 日本人研究者はノーベル賞の常連に。ビジネスに生かせるかどうかは、今後の官民一体の取り組みとイノベーターをどこまで社会が許容できるかによる。

結果は、このような悲惨な状況で、世界は益々複雑で克服困難な問題に直面しているようにも見えます。

これに加えて、昨年11月のアメリカ大統領選挙

は、なんと人種差別、性差別、宗教差別、孤立主義で暴言を吐きまくったトランプ氏が第45代大統領に当選しました。確かに、暴言トランプVS嘘つきヒラリーのWhich is worse?の選挙となっていました。まさかまさかの結末です。ここ20年の所得格差の拡大によるアメリカ中間層の怒りが静かにエネルギーを貯め、この大統領選でついに表面化してしまっただけです。これまでのクリントン・ブッシュ・オバマといった歴代大統領がいかに公約を守れなかったか、ラストベルトの労働者や中西部・南部の農家を裏切り続けてきたか、この事実をわれわれは見逃していたのかもしれませんが。まさに、英国のBREXITと同じ構造です。英国もアメリカも国民投票や大統領選挙によって、国民の価値観の分断が表面化しました。彼らは、今後どうやって、再度国としてのまとまりを取り戻していくのか、新たなチャレンジとなります。

さらに、朝鮮半島も不安定化しています。北朝鮮は、ミサイル発射実験を繰り返し、ついに核実験まで行いましたが、世界は非難声明を発し、若干の経済制裁を加えること以外になすすべもありません。韓国では、近親者に対する情報漏えいで朴大統領に対する捜査も開始され、ソウルでは数十万人のデモが起きました。

それ以外にも、ロシアのプーチン大統領はクリミアを占拠し、領土化してしまいましたし、ブラジルの大統領だったルセフ氏は、ついに弾劾されて失職してしまいました。

しかしながら、一方で、明るい話題もあります。ミャンマーの民主化や台湾・香港の民主化運動の開花、フィリピン・インドネシアを初めとするアセアンの安定した成長。アメリカ、日本経済の復活の兆

し。IoTやAI、iPS細胞、自動運転といった新しいイノベーションの波。

益々複雑化する社会で政治や経済のリスクはわれわれに容赦なく襲い掛かります。これに対し、われわれは、どう対処していけばよいのでしょうか。答えは、すでに皆様の胸のうちにあるのではないのでしょうか。そう、「チャレンジ」です。確かに、2017年の展望は、こういった暗い側面ばかりを見ていると、先が思いやられますが、人間は意外にタフで賢い生き物です。実際、歴史的には、こういった難しい状況を何度も克服してきているのです。来年は、アメリカで、フランスで新しい大統領が、そしてドイツで新しい首相が誕生するなど、大きなイベントも盛りだくさんです。われわれが、新しい技術や知恵で、社会に貢献し、人々を豊かにすることで格差問題や紛争を解決できるかもしれません。益々、産業人たるわれわれの力が試されることとなります。2017年もいろいろな危機が来るかもしれませんが、われわれも英知を結集して、これに対処していこうではありませんか。危機を楽しむことも大切です。今年一年が皆様にとって、充実した楽しい一年となることを心からお祈り申し上げます。

アジアにおける 再生可能エネルギーへのシフト

第3工業部会 部会長
YOKOGAWA ELECTRIC ASIA PTE LTD
Managing Director

小澤 仁司



皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

2015年4月にシンガポールに赴任しました。私にとって18年ぶりの海外赴任となり、新たな生活、経験が始まっております。また昨年4月より第3工業部会長を仰せつかりました。事務局長を始めとするスタッフの皆様、会頭、副会頭、先輩理事諸氏からのご指導を受け賜りながら活動を進めて参りました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

第3工業部会会員企業様の業種は多岐に渡っておりますが、本稿ではアジアにおける再生可能エネルギーへのシフトと弊社の関わりについてご紹介させていただきます。

再生可能エネルギーとは、自然から力をもらって作り出す電力のことで、電力をつくる際の温暖化ガス排出量が少ないのが特徴です。代表例としては、太陽光（熱）、風力、地熱、水力、バイオマス発電などがあります。

アジアはもとより世界は再生可能エネルギーへと大きくシフトしています。国際再生可能エネルギー機関（IRENA）の報告によると、再生可能エネルギーによる発電は2015年に152GW増加し過去最高の8.3%の伸張率であり、全体の発電能力は5年間で約30%拡大しその大半が風力、太陽光発電の設置によるものであります。ある関連機関のA氏は『アジアの再生可能エネルギーの未来は中国とインドを始め発展途上国が発電能力拡大を主導している』と述べています。また別の関連機関B氏は『アジアにおける再生可能エネルギー投資は発電能力拡大の必要性に後押しされている。アジアのほとんどの国で再生可能エネルギーへの大幅促進の国家計画

が立てられている』と述べています。再生可能エネルギーへの投資は世界で急速に拡大しており、再生可能エネルギー発電能力への純投資額は過去6年間に化石燃料への投資を上回っています。

アジアでは新興国を中心とした電力需要の拡大を受けて発電プラントの建設が増えており、地球環境に配慮して再生可能エネルギーを利用した発電設備が増加しています。バイオマス発電や廃棄物発電などの新しい技術も利用しながら再生可能エネルギーの開発、導入が更に加速しています。

YOKOGAWAは再生可能エネルギー発電への取り組みとして、統合生産制御システムを提案、提供しています。これは工場内に分散しているフィールドセンサや分析計などの測定値を収集してプラントの状態をリアルタイムで監視・制御するシステムで、プラントに併設されている排水処理施設などの周辺施設も同時に監視することで、工場全体を最適に制御することが可能になります。また停電などのリスク管理の観点からYOKOGAWAは安全計装システムを開発し、プラントの安全性向上に向けた取り組みも行っています。また、新しくはネットワークソリューションとの融合技術の導入によって、高度なITを用いたデータ分析と解決によって、さまざまなプラントオペレーションを実現し多岐に渡るプラント操業、また再生可能エネルギーを利用した発電設備、発電所への導入を進めております。

例：インドネシア地熱発電所での安全で信頼性の高い操業の確立。北スラウェシ州への電力供給を安定的に確保するため、州都マナドの南30kmに位置するラヘンドンに、4ユニットからなる地熱発電所を運営しています。YOKOGAWAは分散型制御システム、バックアップシステム、およびテストシス

テムを提案、納入し順調に稼動しています。

お客様の理想のプラントを実現する“Vigilant Plant”をビジョンとして、生産の効率化、資産の最大活用、安全の確保、ライフサイクルの最適化の観点から、プラントの安定稼働をハード、ソフトの両面から支えるため、高信頼の製品や、お客様の課題を解決するソリューションサービス“Vigilant Plant Services”を提供しています。より着実なプラント操業、一元管理ができるよう、設備データの解析によるモニタリングシステムや、設備保全システムの導入を提供することによって、お客様とのよりよい

プラント操業運転の改善、またモノづくりへの高度支援の実現をお客様と共に協業し、高度な安全運転ソリューションの実現を目指しております。再生可能エネルギーの有効利用や次世代エネルギーなどクリーンなエネルギーの創出を支援するソリューションを提供し、持続可能な社会の実現に貢献して参ります。

※1 バイオマス発電：植物や動物の排泄物などの有機物(バイオマス)をエネルギー源として利用する発電。バイオマスを直接燃焼して得られる熱で発電する。

※2 廃棄物発電：廃棄物をエネルギー源として行う発電。ごみ発電とも。一般的には、可燃ごみを焼却してその熱を回収(サーマルリサイクル)し、湯を沸かして蒸気タービンを回すことによって発電を行う火力発電の一種である。

YOKOGAWAが関わる再生可能エネルギー関連のプロジェクト*



※2013年9月現在

2017年 新たな年に向けて

貿易部会 部会長
MITSUBISHI CORPORATION SINGAPORE BRANCH
Senior Vice President & General Manager

高橋 健司



新年明けましておめでとうございます。

昨年は、6月に英国で行われた国民投票の結果、大方の予想に反し欧州連合（EU）離脱、所謂Brexit支持派が多数を占め、更に11月には、こちらも直前までのメディア等の予測を覆して、共和党のトランプ候補が米国新大統領に選出されました。いずれも、自由貿易や移民流入によって自分達の雇用が失われた、或いは自分達の声が政治に反映されないと感じている英・米国民の、現状に対する根深い不満と、変革を求め自らのアイデンティティーを訴えたいという欲求の現れと説明されておりますが、アジアに住む私達からすると、そこまで両国の国民が追い込まれ、国内の意見も分裂しているのかと、改めて認識させられる出来事でありました。

2017年は上記に加えて、最終局面を迎えたISとの戦争を巡る中東の不安定化や、増々強まるであろう中国のアジアへの影響力拡大、といった様々な地政学的変化が、世界の政治、経済、外交、そしてそれらを通して私達のビジネスにも影響を及ぼし、どこにリスクが潜み、チャンスが広がっているのかを予想するのが実に難しい、不確実性を抱えての年明けとなりました。

あれほど日本国内で論議を呼んだTPPも、トランプ新大統領の下で米国議会が法案を批准するか否かは微妙な状況と言われております。米国嫌いを口にして憚らないフィリピンのドゥテルテ大統領と、1MDB絡みと言われるアセットの差し押さえを米国政府から受けたマレーシアのナジブ首相が、トランプ新大統領とどのような関係を結んで行くのか、また両国首脳がいずれも昨年10月に中国を訪問して獲得した、多額の経済支援と、数多くの中国企業との事業契約が、現実にとどこまで進んで行くのか（その見返りとして、南シナ海からマラッカ海峡を経てアンダマン海に至る“海のシルクロード”への中国の影響力がどこまで強まるのか）、そしてそれが地域のインフラ事業をはじめとする私達のビジネスにどのような

影響を及ぼすのかも、予断を許さぬ状況です。

しかしながら、不確実な状況が広がる一方で、昨年の世界のGDP成長率は年率3.1%（IMF2016年10月推定）と、（やや低めではあるものの）安定した伸びを示しています。世界的な低金利政策と資源価格の低位安定の下で、ASEANとインドを含む西アジア諸国の経済は、夫々の国の状況に応じてしっかりと成長を持続していますし、欧米諸国も移民の制限や、イスラム過激派によるテロの恐れ、極右勢力の伸長といった社会・政治的な圧力にも拘わらず、各種統計数値によって示される通り、経済は踏ん張っている状況です。中国も、見方には依りますが、一時期懸念された“経済のハードランディング”の恐れは和らぎ、投資と産業中心から消費とサービス中心への経済シフトという難問に取り掛かりつつ、年率6%超のGDP成長を続けています（2015年6.9%→2016年6.6%（IMF推定））。世界中の地域・国々が、夫々に問題を抱えつつも、何とか今より経済が落ち込まぬよう、金融政策を中心にあらゆる手を打ち、頑張っている状況が感じられます。

シンガポールにおいても、目先の経済環境は決して楽ではありません。が、政府とMASは金融、財政、為替等の政策を総動員し、昨年のGDP成長率を1-2%程度と、“先進国標準”の水準に留めています。また政府を中心に、向こう10~15年に亘ってのメガプロジェクトを計画し、更にIoTやAIといった新技術がもたらす“Disruptive”な変化を取込んで新たな成長のエンジンを作り出すべく、先端技術企業の誘致に加え、技術革新に対応し得る人材育成と、事業環境整備に、最優先で取り組もうとしています。シンガポールでビジネスにいそしんでおられるJCCIの会員の皆様におかれましても、本年がこの不確実な時代を乗り越えて、更なる発展に向けた第一歩を記す年となりますよう祈念して止みません。

本年も会員の皆様にとって幸多き一年となりますようお願い、新年の挨拶とさせていただきます。

2017年 新たな年に向けて

金融保険部会 部会長
MIZUHO BANK, LTD. SINGAPORE CORPORATE BANKING DEPARTMENT
General Manager

栃折 卓彦



会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。

振り返ってみれば、昨年ほど「大誤算」というキーワードが世の中を騒がせた年は無かったのではないのでしょうか。2016年6月、英国でBrexitの是非を問う国民投票が行われ、離脱支持が52%と残留支持48%を上回り、世界中に激震が走ったのは記憶に新しいところです。Brexitは2016年最大のリスクイベントとみられていたため、投票日が近づくとつれて世論調査の結果に一喜一憂する場面もありましたが、誰もが皆「残留優位」と結果を楽観視していたのではないのでしょうか。実際、開票日の朝方までは「残留優位」の報道でした。しかし開票が進むにつれ各選挙区で離脱勝利の報道が流れる度に市場はパニックに陥り、Brexit決定直後は急速にリスク回避の動きが強まりました。為替相場は1ドル=106円台後半から約3年ぶりの100円割れの水準まで円高が進み、株式市場においても、日経平均株価は前日比8%近く下落しました。もっとも、リスク回避の流れは一週間も待たずして沈静化しました。これは、世界経済の先行きに大きな不確実性がもたらされた結果として、先進国の金融緩和が長期化するのではとの思惑が広がり、ポンド安によって英国経済が意外と底堅さを見せていることで、幾分和らいでいるかのように見えました。ただし、中長期的に英国経済の行方を不安視する考えは現在も払しょくされておられません。

そして、この「世紀の大誤算」と呼ばれたBrexitを上回る更なる「大誤算」が2016年11月、超大国アメリカで起こりました。アメリカ大統領選挙でトランプ氏がクリントン氏を抑え勝利したことです。この時もまた、選挙期間中は世論調査の結果に世の中は一喜一憂し、金融市場もその度々為替相場や株価が大きく変動しました。開票日当日もクリントン氏優位との報道が流れると、為替相場はリスクセンチメンタル低下で円安が進み、その後激戦区でのトランプ氏勝利が伝えられる度に円が買われ、結局ドル円相場は一日で4円程度も乱高下しました。トランプ氏の大統領就任により、

TPPからの撤退やメキシコや中国を含めた外交政策、移民制度改革や日本や韓国を含めた同盟国との新たな安全保障制度の枠組みなど、不確実性を大きく抱える中で、この超大国アメリカをいかに舵取りしていくか、トランプ氏の手腕を世界中が固唾を呑んで見守っております。そしてこれらの不確実性が世界経済に大きな影響を与えることは想像に難しいことではありません。

昨年起きた2つの「大誤算」から読み取れることは、我々が想像している以上に欧米を中心とする先進国が変化を求めているということではないのでしょうか。変化を起こしたのは各国の中間層或いは大都市部以外の地方の中小市町村に住む、グローバリゼーションや自由主義経済政策のメリットを実感しない市民達です。2016年7月に国際通貨基金(IMF)は、“不確実性の新たな波が世界経済の回復を更に弱める可能性がある”、として先進国の2017年の経済成長率予測を1.8%に下方修正しました。アメリカ、イギリスという2つの先進国で起きた不確実性の新たな波は、欧米における社会秩序や経済構造の歪みの現れではないかと思えます。“世界は大衆迎合的な国家主義 (populist nationalism) の世界に入った”、米国の政治学者フランク・フクシマ氏は分析します。2017年は「大誤算」から始まった変化の後に各国から打ち出される政策等が世界経済にどのような影響を及ぼしていくか、不確実性は増していくのか、が注目されます。また、この激動の流れの中で、政治面で相対的な安定という強みを持つ日本が、世界の政治経済の安定化に向けてどのような役割を果たすことができるのか、行動力が求められる年であると思っております。

最後に、昨年は日本とシンガポール国交樹立50周年という大きな節目の年でした。今年は51年目にあたり、100周年に向けた新たな一步を踏み出す年になります。世界情勢が目まぐるしく変化するこの年に、アジアのHub拠点として重要なここシンガポールでJCCI会員の皆様と新たな第一歩を踏み出せることに感謝しつつ、2017年が皆様にとって良い年となりますことを祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。

2017年建設市場の動向と展望

建設部会 部会長
SHIMIZU CORPORATION
Executive Officer & Deputy Director of International Division
General Manager of Singapore Office

牛頭 豊



新年あけましておめでとうございます。

昨年の建設部会は、シンガポール政府発注の病院建設現場の見学会（2現場）、若手社員の交流会等を実施することが出来ました。本年も現場見学会の実施を予定しており会員各社の交流と新しい知識の習得に努める所存でございます。

■2016年を振り返って

2016年の国際情勢を振り返りますと、世界各地で頻発するテロの脅威、イギリスのEU圏からの離脱決定、北朝鮮による核実験等を受けて相変わらず将来に向けて不透明な見通しが続いておりますが、シンガポール経済の見通しもこの世界情勢の不透明さに引きずられ、8月11日の修正予測として貿易産業省（MTI）は、2016年通年のシンガポールの実質GDP成長率の見込予測をこれまでの「1.0%～3.0%」から「1.0%～2.0%」へと下方修正することを公表しました。

正式な数値は間もなく公表される見込みですが、2016年も2013年から続く実質GDP成長率の鈍化は継続されるものと思われま。

さて、建設業界の動向を振り返りますと、当初、BCA（シンガポール建築・建設庁）公表の2016年の建設投資見込額は、公共部門で185億ドルから215億ドル、民間部門で85億ドルから125億ドル（合計で270億ドルから340億ドル）となっておりますが、第2四半期の集計結果を受けた8月25日の修正予測では、公共部門で185億ドルから200億ドル、民間部門で85億ドルから120億ドル（合計で270億ドルから320億ドル）と若干の下方修正となっております。

尚、第2四半期までの建設投資の実績額は公共部門、民間部門を合わせて約154億ドルでしたので、最終的な2016年の建設投資額は概ね上記の予測値の範囲内に収まるものと推計されます。

この数値は一昨年2015年の建設投資額とほぼ同額であり、官民別に見ていきますと、民間部門の建

設投資額は一昨年の132億ドルに対して、85億ドルから120億ドル、公共部門は一昨年の140億ドルに対して、185億ドルから200億ドルとなっております。民間部門での投資は落ち込みましたが公共部門は増加という結果となっております。

■建設市場の動向と今後の展望

上記のような状況から、一昨年、昨年と建設市場は比較的厳しい状況ではありましたが、それでもシンガポールは中長期的には引き続き良好なマーケットと考えられております。

URA（シンガポール都市開発庁）が定期的に発表している国土利用計画マスタープラン（最新版は2014年）では、環境に配慮した住宅・公共空間の整備、職場を国内で分散化させる「職住接近」の実現、交通アクセスの改善等が明確に盛り込まれており、まだまだ大きな建設投資が見込まれる市場であります。

向こう5年程度の間に見込まれる代表的な案件としましては、チャンギ空港の再拡張（ターミナル5）、マレーシア高速鉄道開通に伴うジュロンイーストエリアの再開発、タンジョンパガーのコンテナターミナルの移設・再開発等があげられております。高級コンドミニアムや商業施設の新築工事は若干頭打ちの傾向が見られる一方、日本と同様高齢化が進むシンガポールでは、病院や医療研究施設の新規建設需要も非常に高く今後も多くの発注が見込まれております。

地下鉄の延伸工事も引き続き行われており、最北端ウッドランズから島内を南北に縦断しマリーナ地区を経て海岸沿いをイーストウェストラインと並行して東西に走る「トムソンイーストコーストライン」、郊外と都心部を直結させる「ダウントウンライン」等も完成に向けて日系の建設会社を始め各社鋭意施工中です。

また、国土が狭小なこの国では、土地の有効活用は重要な問題であり、一度建設した大型商業施設やオフィスビルも絶えず改修や補修を繰り返しながら

使用していくこととなりますので、今後は新築工事のみならずこのような改修や補修工事も大きなマーケットとして育っていくことが期待されます。

BCA（シンガポール建築・建設庁）が公表している向こう5年間ほどの建設投資見込額は、260億ドルから350億ドルほどとなっております。この数値は近年に無く低迷した2015年の270億ドルをボトムラインとしてこの数値以上は達成したいという当局の意気込みが感じられる数値となっておりますが、建設投資額の落ち込みが景気の後退を招かない様、政府もHDB（公共集合住宅）の建設や上下水道・交通インフラの整備等、まだまだ国民の暮らしの向上のために必要とされている公共投資を積極的に実施していくものと予想されます。

■日系建設会社として

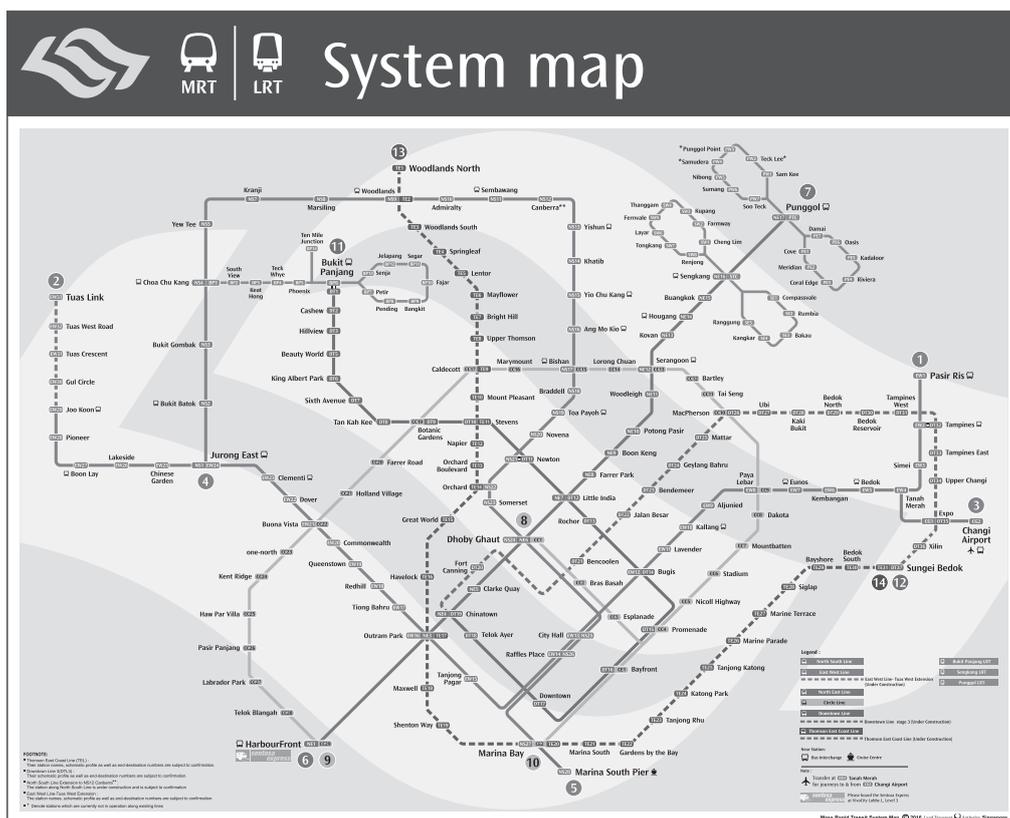
日系建設会社が、国外で仕事をする際に良く言われることが、ローカルの建設会社と比べて若干価格は高いが、品質の優秀さと工期遵守を高く評価され受注に至るといことです。建設業に関しては、諸外国と比較して（特にアジア諸国）日本=先進的、諸外国=後進的というイメージもあるかもしれませんが、シンガポール政府が打ち出す生産性向上のための数々の施策は我々日系の建設会社にとっても十分に参考になるものです。最近、日本でもようやく普及してきた感のあるBIM（Building Information Modeling）と呼ばれる3次元デジタルモデルはここシンガポールでは一定以上の面積の建物の建築確認

申請時に必須となっておりますし、機械化・工業化の手法とそれらを推進する政策、現場ワーカーの諸外国からの受入・教育等には日本の建設業界にとっても見習うべき点が多々あると思います。

一方では、シンガポール政府が積極的に導入しているこのような先進的な施策の数々は、我々日系建設会社にとっては技術力を発揮出来るチャンスと言えるかもしれません。BIMに関して言えば、日系建設会社の強みである詳細な作図能力と図面調整能力をフル活用出来れば今後のマーケットにおいて大きな強みになり得るものです。また、将来的に増加が見込まれる病院や医療研究施設の建設に関しても、例えば陽子線によるがん治療施設のような最先端の医療設備を備えた病院などは、日系の建設会社にとっては日本国内で培った技術力と経験を活かせる得意分野ですので、是非受注に繋げていきたいところとす。

建設業の特徴は単品生産です。昨日作ったものと全く同じものを明日も作ることはありません。そのため技術やマネジメント手法においても日々イノベーションが求められております。先輩方から受け継いできた素晴らしい伝統を大事にしつつも、研鑽を怠ることなく、その国の建設業の長所もしっかりと吸収して業界全体の発展に寄与して参りたいと思ひます。

最後になりますが、2017年が皆様にとって益々のご発展の年となることを祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。



出典：Land Transport Authority ウェブサイト

新年を迎えて

運輸通信部会 部会長
KDDI SINGAPORE PTE LTD
Managing Director

太田 直彦



皆様、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は各国で新しい指導者、政治体制が生まれた年でありました。記憶に新しいところでは米国の大統領にドナルド・トランプ氏が選出されました。またフィリピンのドゥテルテ大統領、ミャンマーのテイン・チョー大統領とアウン・サン・スー・チー国家最高顧問、台湾の蔡英文総統など身近な国々でも新しいリーダーが誕生しました。一方で世界的にテロの脅威にさらされた年でもありました。中東地区を中心に数多くのテロが発生し年間の犠牲者数は5,000名を上回る勢いです。また中東だけでなく、フランスやベルギー、アメリカといった欧米諸国、そしてインドネシアやタイなど東南アジア諸国にもテロの脅威が広がったのが2016年の特徴といえましょう。決して他人事とはいえない危機的な状況が世界レベルで起きていることを認識させられた年でもありました。また、2015年より続くシリア・イラクでの混乱に起因する欧州での難民問題も未だ解決の糸口が見えません。それらの問題は終には英国における国民投票でEUの離脱支持が過半数を超える結果を引き起こしました。それによる急激なポンド安と、それに呼応した円高は当地シンガポールでも企業活動に大きな影響を与えています。

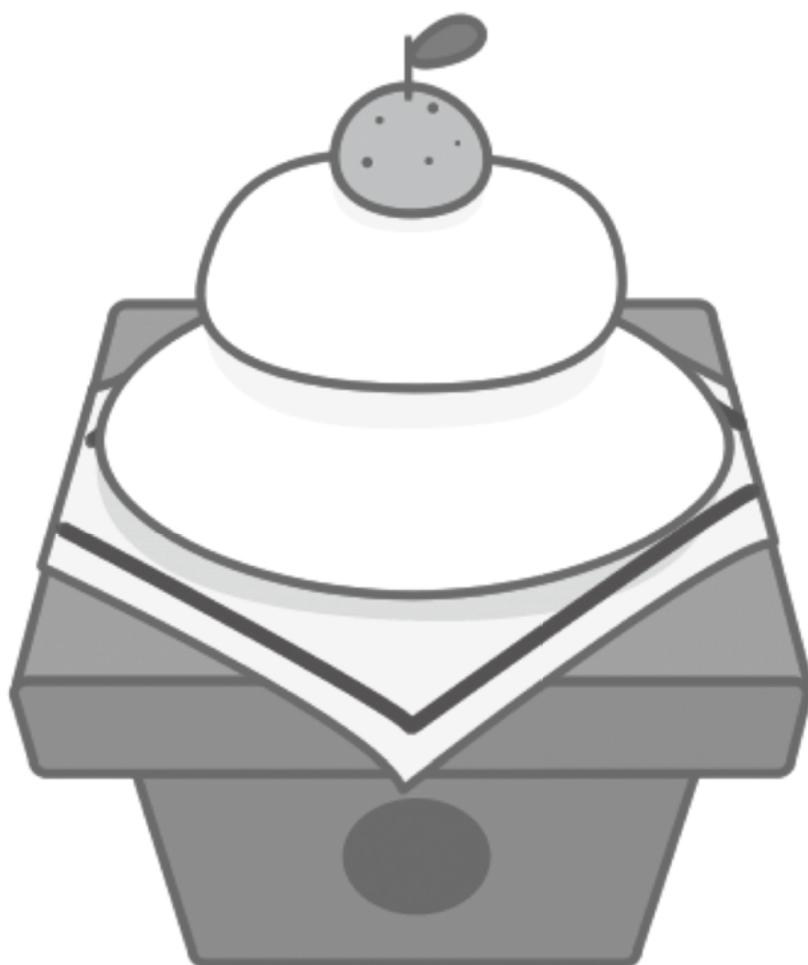
このような不安定な世界情勢、政治情勢は皆様のようなクロスボーダーで活動をされている企業にとっても大きな影響を与えます。シンガポールだけでなく周辺諸国に目を向けてみると、政治体制の不安定な国から安定した国へ投資がシフトする傾向が見て取れます。多くの日系企業はここシンガポールにASEANまたはAPACの統括拠点機能を持っています。このような地政学的リスクやチャンスを捉え、将来を予測して投資および事業戦略を立てることの重要性を痛感しております。

通信／IT業界でいうと、2016年は多くの企業がサイバー犯罪の脅威に直面した年でもありました。各地で官公庁や地方自治体を中心として多くの公的ウェブサイト

が不正アクセスにより改ざん または 閲覧不可能になりました。また不正アクセスによる個人情報の盗難・流出事件も相次ぎました。こういった潮流は決して対岸の火事ではありません。2016年初頭では在星の日系企業に対しても大量のランサムウェアと呼ばれる身代金要求型のウイルスが送り込まれ、実際に複数の感染被害が報告されています。サイバーセキュリティと言うとかつてはエンドポイント対策、つまりウイルス検知などの対策が主流でした。しかし、この1年で標的型攻撃と呼ばれる、特定の企業を狙い撃ちしたサイバー犯罪が多発しており、各企業様においてもエンドポイント対策だけでなく標的型攻撃への対策の必要性が高まっています。

このような時代において通信／IT産業が果たす役割とはどのようなものなのでしょうか？ ITとは世界を均一化する仕組みとすることができます。ITの発達によって先進国と発展途上国間の情報格差は是正されつつあります。今や誰もがインターネットにアクセスし、情報を取得できますし、誰もが知識を得て、学習をすることができる環境が整いつつあります。とはいっても周辺諸国を見渡すとまだまだIT環境の整っていない国々、インターネットに接続できない人々がいることも事実です。通信／IT産業に従事するものとしてこれらの国々、人々へ通信／ITの恩恵をもたらすことができればそれは何よりも喜ばしいことです。当然、そこには我々にとって、そして皆様にとってのビジネスチャンスが転がっています。先にも述べたとおり、難民問題、テロの問題、貧困の問題と、世界を見渡すと決して楽観視できないような状況は続いていますし、その解決にはまだ時間がかかるように思われます。その様な時代において通信／IT産業が果たす役割はますます重要になっていくのでしょうか。

我々のそういった活動により2017年が少しでもよい1年となるように願ってやみません。本年もぜひよろしくお願い致します。



観光・流通・サービス部会の活動について

観光・流通・サービス部会 部会長
AJINOMOTO (SINGAPORE) PTE. LTD.
Managing Director

石井 計多



新年あけましておめでとうございます。

日頃は、シンガポール日本商工会議所ならびに観光・流通・サービス部会の活動にご協力、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。年頭にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

去年は、一昨年のリー・クアンユー元首相の死去、シンガポール独立50周年（SG50）に続き、日本・シンガポール外交関係樹立50周年（SJ50）という大きな節目の年となりました。10月29・30日には「SJ50まつり」も盛大に催され、大いに祝賀ムードが盛り上がったのも記憶に新しいところです。当日はオーチャードロードに足を運ばれた皆様も多かったのではないのでしょうか。

一方、シンガポールの経済状況に目を転じてみますと、中長期で減速が続いており、直近2016年第3四半期の実質GDP成長率は1.1%という低い水準に落ち込みました。シンガポールという国自体の少子高齢化等の社会情勢の変化や中国経済の減速と世界経済の停滞を鑑みると、この状況は短期的に回復することは簡単ではないように思われます。

しかしながら、日本企業のシンガポールへの進出は、ASEAN市場の重要性の増大、地域統括拠点機能や域内R&D、投資拠点等の設置とそれに付随する各種機能、サービスの事業機会の拡大に加え、日本食の広がりなどもあり、引き続き増加しています。在留邦人数も2015年には36,963人（10月）となり、1年間で約3%増加し過去最高を更新したとのことです。

そうした中、JCCIの会員数は、2016年10月時点で、全体で853社、観光・流通・サービス部会では260社と継続的に増加しており、当部会は会員数全

体の30%を占める大変大所帯の部会となっております。部会員の皆様の業種も、ホテル、旅行・観光、百貨店・スーパー、小売、新聞、自治体事務所、会計事務所、法律事務所、人材紹介/派遣、レストラン、広告、不動産、警備、コンサルタント、その他各種サービス、いうように大変多岐にわたっており、とても所属会員企業の業界を一概に総括することはできない、まさに多様性に富んだ部会となっております。かつまた中小企業会員、個人会員が約8割を占めるということもJCCIの8部会の中で特異な構成となっております。

こうした状況が年々進んでいることから、当部会では、一昨年、昨年と、部会員の皆様に部会活動についてのアンケートを実施し、できるだけ広くご意見を頂き部会活動に反映させるよう検討しながら活動して参りました。

昨年の主な活動内容をご報告させていただきますと、5月に4部会共催でのPSA インターナショナル・港湾施設視察会、8月に2部会共催でのセレーター空港の役割を主としたシンガポールの航空宇宙産業概要の講演会、10月に3部会共催でシンガポール史跡視察会、11月にはジョホールバルの不動産開発状況の視察会を実施致しました。特に、シンガポール史跡視察会では、過去の日本占領時代の史跡等を巡り、シンガポールで事業を営む日系企業として、またこの国で暮らす日本人として、しっかり理解しておくべき歴史を学ぶ大変貴重な機会となったのではないかと感じております。これらの講演会や視察会といったイベントに際しましては、会員の関係者の皆様に多大なるご尽力を頂いており、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。また、11月には企画組織強化委員会との共催で中小企業のための自社

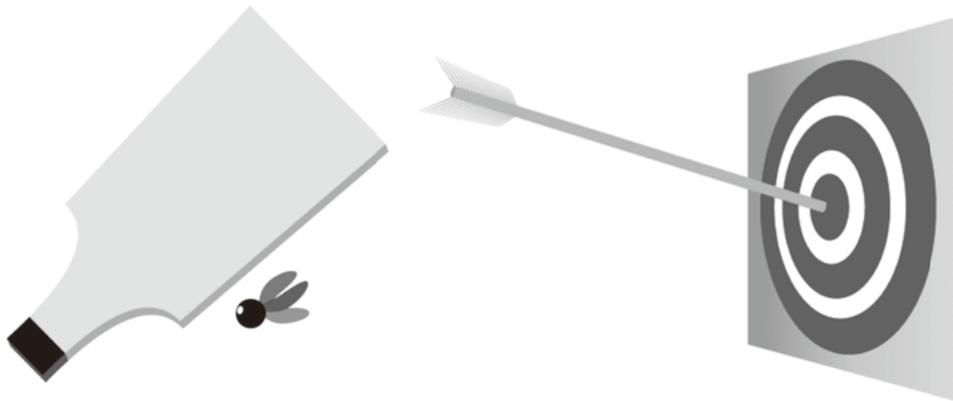
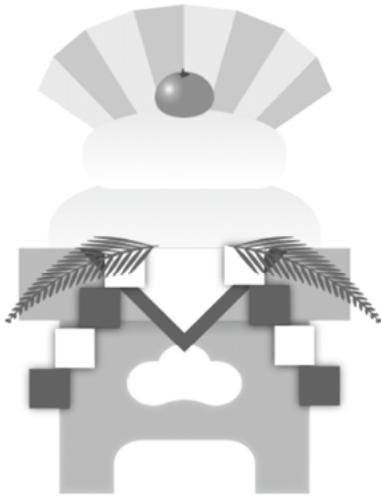
プレゼンテーション大会も一昨年に引き続き開催致しました。中小企業の会員の皆様の事業内容についてのプレゼンテーションとその後の懇親会を通して、ご参加頂いた皆様のビジネスチャンスの拡大に繋げることができたとすれば大変幸いです。

それ以外にも、新入部会員企業の歓迎会（6月）や懇親ゴルフおよび夕食懇親会（6月）、4部会共催での忘年会（12月）等も実施し、部会員の皆様相互の懇親、情報交換を活性化し、それがさらには皆様のビジネスのお役にも立てることを目指して活動して参りました。

先述の通り、大変多くの業種の数多くの部会員の皆様のご要望は多岐にわたっておりますので、その全てに十分にお応えすることはできていないと感じておりますが、ご参加くださいました部会員の皆様とご協力頂きました全ての皆様に、改めて感謝申し上げます。

今年も引き続き、会員の皆様の交流、情報交換、ビジネスの活性化などにお役に立てるような活動を目指して努力して参ります。どうか部会員の皆様には、引き続き奮って各活動にご参加くださいますよう、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

最後に、本年が皆様にとってより良い一年となりますことを心よりお祈り申し上げます。



広報委員からのご挨拶

広報委員会 委員長, JCCI理事
JAPAN AIRLINES CO., Ltd.
Vice President & Regional Manager

山下 康次郎



2017年初頭にあたり広報委員会メンバーを代表してご挨拶させていただきます。

新年明けましておめでとうございます。皆さまにとりまして今年も最良の年となりますように心よりお祈り申し上げます。またいつもJCCI機関紙「月報」をご愛読いただき、誠に有難うございます。

昨年は、シンガポール日本国交樹立50年の記念すべき年でした。日本とシンガポールを繋ぐさまざまな取り組みが行われました。中でも10月29日、30日にNGEE ANN CITYを中心に行われた「SJ50まつり」は、オーチャード通りを使い阿波踊りを中心として行ったSJ50 FRIENDSHIP PARADEを含めシンガポールの方々を中心に10万人以上の参加があり日本とシンガポールの友好の大きな節目になったのではないかと思います。

今年は、これまで日本シンガポールがお互いに築き上げてきた友好関係を今後50年、100年と紡いでいく新たなスタートの年となります。皆さんの会社のシンガポールの方々も昨年たくさんの方が日本を訪れたのではないのでしょうか。この日本への渡航の動きは今年も継続すると想定され、日本を訪問するシンガポール人は、今年30万人を軽く超えると予想されます。これは単純計算ですがシンガポールの全人口の10人に1人余りは日本を訪れることとなります。日本の歴史や文化などを理解しますます両国の友好が深まるのではないのでしょうか。

そして友好関係だけではなく、我々産業界の視点でもインバウンド産業は日本の経済発展に大きく役に立ちます。地方創生の大きな動力源がインバウンド需要であることは間違いありません。日本の魅力をシンガポールで伝えていくことは我々の大きな役

目だと思っています。

日本は国を挙げてクールジャパンに取り組んでいます。クールジャパンの取り組みのもう一つの柱は日本の産業を海外に展開して行くことです。言うまでもありませんがアジア地区はグローバルに見ても今後20年間で大きく経済発展が見込まれています。このシンガポールを日本の最前線基地としてアジアにジャパンテクノロジーを展開していく事もまた我々の大きな役目であると思います。海外の最前線で働いている我々が日本の良さ、素晴らしさを海外で体現していくことこそまさにクールジャパンの成功にダイレクトに繋がります。

それだけでなく、日本の子供たちが海外に目を向けなくなって久しいと言われていています。これは日本の将来の最大の懸念点だと考えています。我々が海外で頑張っている姿を日本の子供たちに見せていくこともまた、日本の将来に大切なことだと考えます。今年もやる事がたくさんありそうです。前向きな気持ちになった新年です。

JCCI機関紙「月報」は、1970年1月に創刊され、毎号委員会メンバーと議論を積み重ね試行錯誤を繰り返しながら発行させて頂いております。今後もシンガポールを中心とした経済、産業等の最新情報を骨太でありながらもわかり易い紙面でお伝えすべく努力をして参ります。シンガポールと日本の懸け橋になれば幸せなことです。今後とも皆様のご指導・ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

皆様のご多幸とご発展を祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。

広報委員の皆様



広報委員会の様子



広報委員 委員一覧

(敬称略、会社名アルファベット順)

		NAME	COMPANY
1	委員長	山下 康次郎	JAPAN AIRLINES CO., LTD.
2	幹事長	中島 茂	NTA TRAVEL (SINGAPORE) PTE LTD
3	委員	安田 雅子	DELOITTE & TOUCHE FINANCIAL ADVISORY SERVICES
4	委員	森山 正明	EISHINKAN SINGAPORE PTE LTD.
5	委員	西野 雄介	EN WORLD SINGAPORE PTE LTD
6	委員	武末 知之	ERNST & YOUNG SOLUTIONS LLP
7	委員	長久 秀三	FUJI OIL ASIA PTE. LTD.
8	委員	末広 英之	HAKUHODO CONSULTING ASIA PACIFIC PTE LTD
9	委員	紺野 篤志	HITACHI ASIA LTD
10	委員	篠永 裕太	ITOCHU SINGAPORE PTE LTD
11	委員	三宅 正寿	JAPAN NATIONAL TOURISM ORGANIZATION SINGAPORE OFFICE
12	委員	藤田 千栄子	JAC RECRUITMENT PTE LTD
13	委員	本田 智津絵	JETRO SINGAPORE
14	委員	小寺 修二	KAJIMA OVERSEAS ASIA PTE LTD
15	委員	松井 達也	KDDI SINGAPORE PTE LTD
16	委員	萬 卓也	MITSUBISHI CHEMICAL SINGAPORE PTE LTD
17	委員	富田 明	MITSUBISHI LOGISTICS SINGAPORE PTE LTD
18	委員	林 勇樹	NETSCOUT SYSTEMS (ASIA) PTE LTD
19	委員	高德 祐一	PANASONIC ASIA PACIFIC PTE LTD
20	委員	堀 和寛	THE BANK OF TOKYO-MITSUBISHI UFJ, LTD
21	委員	鈴木 康予	TOKIO MARINE INSURANCE SINGAPORE LTD
22	顧問	門伝 好司	SBG HOLDINGS PTE LTD



シンガポール



2016年主要ニュース一覧

月報編集を担当している広報委員19名が、その年の主要ニュースをPick upし、それぞれのカテゴリー【①外交、②イベント、③政治経済、④教育、⑤不動産、⑥健康、⑦訃報、⑧雇用、⑨スポーツ、⑩飲食、⑪文化、⑫観光・交通、⑬社会情勢、⑭金融】に分け、記載をいたしました。2016年を振り返りながら、ご覧下さい。

【 外交 】

- シンガポール・日本外交関係樹立50周年 (SJ50)
- リー・シェンロン首相 (2016年9月26日) が訪日
- トニー・タン大統領 (2016年12月1日) が訪日
- アウン・サン・スー・チー氏 シンガポール公式訪問



【 イベント 】

- SJ50まつり
- シンガポール政府観光局 (STB) と日本政府観光局 (JNTO) がSJ50協力覚書に調印
- チャンギ空港にて假屋崎省吾氏監修SJ50メガフラワーエキシビションを実施
- SJ50を記念し2年ぶりにJapan Travel Fairを開催 (SJ50 Matsuriと同時開催、約53000人が来場)

【 政治経済 】

- 米大統領選挙、トランプ氏勝利によりTPPに暗雲
- 英国のEU離脱 (BREXIT)
- フィリピン ロドリゴ・ドゥテルテ氏が大統領に就任



【 教育 】

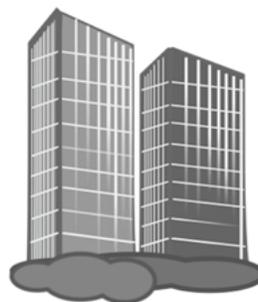
- 世界大学ランキングでシンガポール国立大学がアジア1位に

【 不動産 】

- シンガポール不動産市況下落

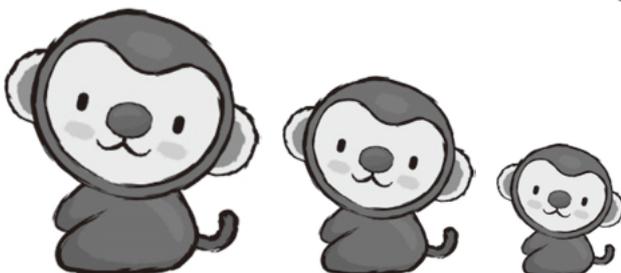
【 健康 】

- 水タバコ (シーシャ) の販売・提供が禁止に



【 訃報 】

- タイ プミポン国王崩御
- ナザン前大統領死去、安倍首相夫妻が弔問



【 雇用 】

- 外国人就労パス、エンプロイメントパスの発給基準を一段と強化
- EP取得の給与基準の引き上げを発表：2017年よりS \$3300からS \$3600に増加



【 スポーツ 】

- ブラジルのリオオリンピックでジョセフ・スクーリング氏、シンガポールに初の金メダルをもたらす。
- ブラジルのリオパラリンピックでイップ・ピンシウ氏が背泳ぎで金メダル、テレサ・ゴー氏も同じく平泳ぎで銅メダル獲得
- アルビレックス新潟 Sリーグ初優勝



【 飲食 】

- ミシュラン・シンガポール発表 日本人レストラン8店舗受賞の快挙
- 日本食レストランが集結した「ジャパンフードタウン」がオーチャードにオープン



【 文化 】

- ポケモンGO大流行



【 観光・交通 】

- 世界の空港ランキング、シンガポールのチャンギ空港が4年連続1位
- シンガポール・マレーシア首都間高速プロジェクト、2026年開通に向け両国覚書締結
- 米ベンチャー、シンガポールで世界初の自動運転タクシー試験サービス開始

【 社会情勢 】

- マリーナ・ベイに対する砲撃未遂事件、インドネシア領バタム島から計画
- バングラデシュ首都ダッカで飲食店襲撃事件が発生（イスラム国が犯行声明）
- インドネシア ジャカルタで爆弾テロ
- ジカウイルス感染症、シンガポールでも感染者
- 海洋サービス業界の不振、相次ぐ経営破綻
- 長引く原油価格低迷、石油・ガス業界が苦境に
- シンガポールが生活費世界一位に



【 金融 】

- パナマ文書流出
- シンガポールフィンテックフェスティバル開催



◀ 2017年 気になるイベント・行事 ▶

- ★ Formula 1（最後の開催となる可能性あり?!）
- ☆ チャンギ国際空港 第4ターミナル運用開始
- ★ ラッフルズホテル 2017年 大幅改修
- ☆ Cold play 来星

2017



2017年のASEAN・インドの経済展望

THE BANK OF TOKYO-MITSUBISHI UFJ, LTD (SINGAPORE BRANCH)
Corporate Research Division, Senior Economist

中村 逸人

シンガポール日本人商工会議所月報をご購読の皆様、新年おめでとうございます。本稿では『2017年のASEAN・インドの経済展望』と題して、ASEAN・インド経済の現状把握と2017年の景気の見通しについて触れてみたいと思います。

はじめに

2017年の展望に入る前に、2016年を改めて振り返ってみると、とりわけグローバルには象徴的な政治イベントが起こった1年として記憶されよう。

なかでも大きな驚きを引き起こしたのは、6月23日の英国の国民投票におけるEU離脱の選択、いわゆるBrexitと、11月8日の米国大統領選挙における事前の大方の予想に反してのトランプ候補の当選の報である。これら2つの政治イベントではグローバル化と格差の問題が大きな焦点となったが、大局観としては東西冷戦の終結や中国・インドといった新興国のグローバル経済への参画、FTA網の拡充等を経て進んできた世界のモノ・カネ・ヒトのインテグレーションが一つの帰路に直面しているということだろう。

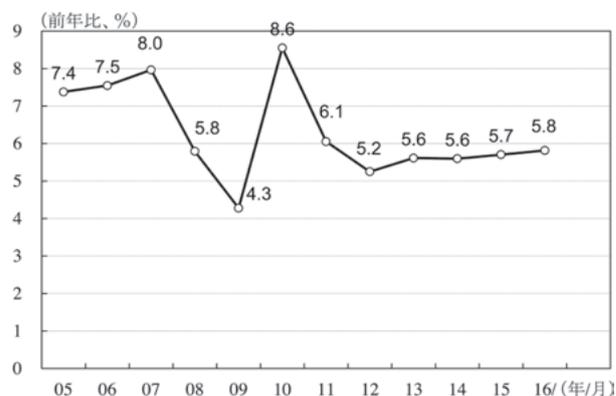
他方、世界の实体经济の動きで言えば、良くも悪くも大きな変化がなかった1年と言えるのではないだろうか。即ち、米国や欧州、日本といった先進国では緩やかな景気回復が続いたが、漸進する人口高齢化やイノベーション不在の中で、緩和的な金融政策がとられる中でも、景気回復のペースはごく緩やかなものに止まっている。年初には複数回の利上げが予想された米国の金融政策も、12月に予想される1度の利上げのみに終わり、金融政策の正常化に

は程遠い状態に止まるとみられる。

他方、新興国に目を転じると、既に世界第2位の経済大国となった中国では、キャッチアップ過程での高度成長の転換と同時に、グローバル金融危機後の急回復の過程で積み上がった過剰設備の調整を主因に経済成長ペースの鈍化が続いた。こうした中国経済の減速は資源需要の拡大期待の剥落を通じて逆オイルショックとも呼ばれる資源安の長期化、スロートレードと称される世界貿易の伸び悩み等のこれまでとは明確に異なる経済環境をももたらしている。

ASEAN・インド経済に目を向ければ、上述の通り外部環境が振るわない中でも、底堅い成長を保ったと評価していいのではないか。2016年1-9月期のASEAN主要国（インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム）とインドの実質GDP成長率は前年比+5.8%と、2015年の同+5.7%からごく僅かに持ち直した（第1図）。

第1図：ASEAN6・インドの実質GDP成長率



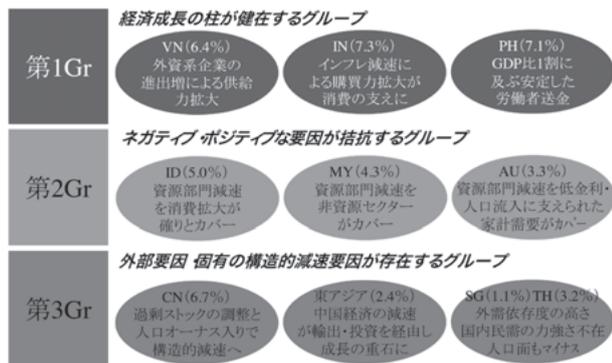
(注) ASEAN6(インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム)とインドの加重平均値。

(資料) 各国統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

グローバル金融危機前の高成長時（同+7～8%程度）と比較すれば、確かに成長ピッチの鈍化自体は否めないものの、この時期にアジアとならび世界経済を牽引した他の新興国・地域（中東、中東欧・ロシア、中南米等）と比較すれば、依然としてこの地域の景気の相対的な底堅さが確認できる。

一方、面としては底堅く推移したと言えるASEAN・インド経済だが、ここ数年はかつてないほど域内の国毎の成長モメンタムの差が広がっていることも指摘しておきたい。そこには国毎の成長スタイルの差や産業構造、人口動態、減速する中国経済との密接さ等、言わば構造的な要素が影響しており、その結果としての国毎の成長モメンタムの開きが当面続いていく可能性が高い（第2図）。

第2図：成長モメンタムの差とその要因整理



(注) 図表括弧内の数字は直近四半期の実質GDP成長率(前年比)。『東アジア』は台湾、韓国、香港の加重平均値。
(資料) 三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

前置きが長くなったが、ここで2017年のASEAN・インド経済を展望しておく、引き続き消費を中心とした内需が牽引役となり、現状程度の底堅い成長が続くと考えている（第3図）。一方、構造調整下にある中国経済の成長ピッチの緩やかな低下や、2017年も回復が期待されるとはいえ慢性的な成長力不足にさいなまれる先進国経済の現況を鑑みると、貿易が経済成長を力強く引っ張る姿は当面期待し得ないだろう。

第3図：アジア経済の見通し

	実質GDP成長率 (前年比、%)		
	2015年実績	2016年見込み	2017年見通し
ASEAN6	4.4	4.4	4.5
インドネシア	4.8	5.0	5.1
マレーシア	5.0	4.2	4.5
タイ	2.8	3.1	3.2
シンガポール	2.0	1.5	2.1
フィリピン	5.9	6.5	6.0
ベトナム	6.7	6.2	6.2
インド	7.6	7.6	7.7

(注) 1. インドは年度(4月～翌3月)ベース。
2. 『ASEAN6』は2015年の名目GDPで加重平均。
(資料) 三菱東京UFJ銀行作成

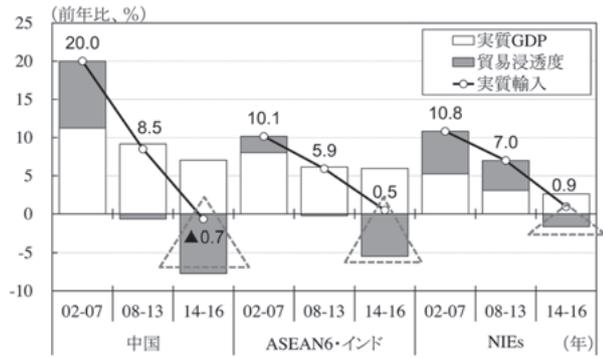
以降ではこうした景気のマインシナリオを形成する幾つかの重要なポイントについて簡単に振れてみたい。具体的には、スロートレード、内需拡大とサービス業、資源安の長期化についてである。

鮮明化するスロートレード

ASEAN・インドを含むアジアは、1990年以降加速したグローバル貿易の拡大を成長エンジンとして発展を遂げてきた経緯がある。それは日系企業を含めたグローバル企業や地場企業のサプライチェーンが広範に広がる中で、各国内での製造業の集積が高まってきた点からも窺える。

こうしたグローバル貿易、とりわけアジア域内における貿易の伸びが過去数年は大きく鈍化している。第4図は、アジア主要国・地域（中国、ASEAN・インド、NIEs）の実質輸入を、輸入国の経済成長と、貿易浸透度（輸入／実質GDP）の変化による部分に分解したものだ。グローバル金融危機前の2002～2007年にかけては、いずれも経済成長を示す実質GDPの伸びを大きく上回るペースで貿易が拡大している点が見て取れる。その後、グローバル金融危機・危機後を経て、2014～2016年にかけてはいずれも実質輸入の伸びは略ゼロまで低下しているが、それは景気減速だけでは説明が出来ず、貿易浸透度の低下が相当程度影響していることが分かる。

第4図：アジア主要地域の実質輸入の変動要因



(注)1.『ASEAN6・インド』及び『NIEs』は、名目GDPと名目輸入金額で加重平均したもの。
2. 2016年は1-6月期の実績。
(資料) 国連貿易開発会議、IMF、各国統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

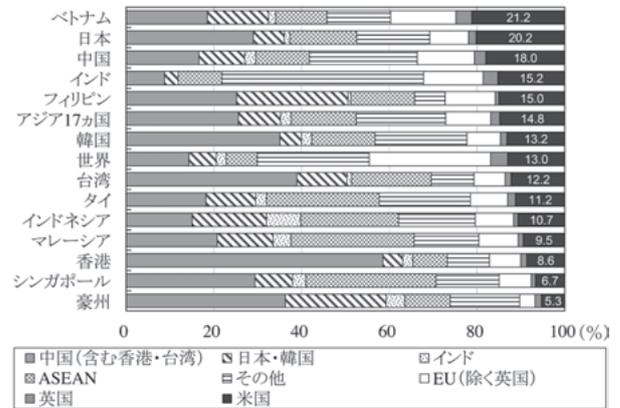
このような『景気の減速以上に伸び悩む貿易』という現象を引き起こしているものは一体何なのであろうか。実際の貿易を品目別に分析してみると、資本財や中間財の伸びの鈍化が著しい。これには域内の設備投資需要の低迷や中国をはじめとするアジア各国内の産業の裾野が蓄積される中で部品等の国内調達が増加している、等の構造的な要因が影響していると考えられる。このことが示唆するのは、こうした構造的な潮流に変化がない限りは、ASEAN・インドを含むアジア域内の貿易がかつてほど高い伸びを示す可能性が低いという点である。

なお、保護主義的な貿易政策の拡がりや、グローバル貿易の下押し要因になっているとの指摘もある。この点、更に懸念されるのは、メキシコや中国をやり玉に挙げて、選挙戦中に保護主義的貿易政策の導入を繰り返し訴えてきた米トランプ候補の大統領就任後の動向だ。同氏の主張は、TPP撤退やNAFTA再交渉、中国やメキシコ等に対する輸入関税引き上げ、中国に関して言及があった為替操作国への認定等、多岐に及ぶ。

仮に、広範な輸入関税のような保護主義的貿易政策が導入される場合には、アジア各国にとっても大きな影響が及ぶであろう。というのも、米国はアジアにとって依然として大きな輸出先の一つ（アジア17カ国の輸出に占める米国の割合は15%、2015年実績）であるためだ（第5図）。加えて、世界の最終需要（最終消費支出と総固定資本形成の合計、2014年実績）の24%が依然として米国によって創出されており、例えば多くのアジア諸国にとって最大の輸出

先である中国を含めた第3国を経由して最終需要地である米国に輸出される分も合わせれば、マイナスの影響は見た目以上に大きくなるであろう。

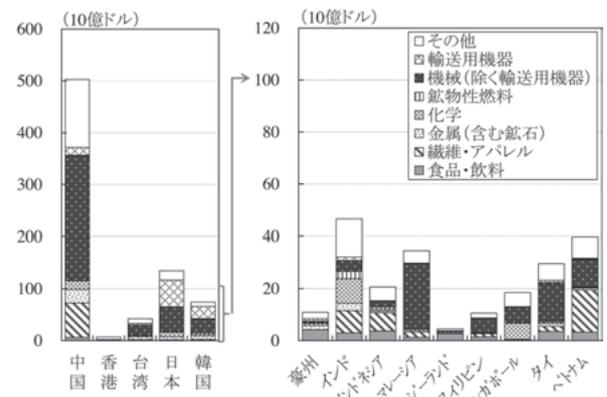
第5図：アジア主要国の輸出先別シェア



(注)2015年実績。
(資料) 国連貿易開発会議統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

トランプ氏の唱えてきた保護主義的通商政策のうち、どの程度が本当に実現するか、またアジア各国がトランプ新大統領の打ち出す保護主義的通商政策のターゲットに含まれるかについては極めて不透明である。現時点で確たる見通しを提示することは困難だが、米国とアジアの貿易を詳細にチェックすると、まず中国の輸出金額（対米貿易黒字も同様）が突出して大きい点が見て取れる（第6図）。更に、日韓については、米国内生産との競合が強い輸送用機器が其々輸出全体の4割、3割を占める。これらの事実から、米国から見て、日中韓は貿易規模・品目の観点で保護主義的貿易政策の対象となりやすいと言えるのではないだろうか。

第6図：アジア主要国の米国向け輸出の品目構成



(注)2015年実績。
(資料) 国連貿易開発会議統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

他方、ASEAN・インドを含むその他のアジアの対米輸出は、繊維・アパレルやPC、通信機（固定・携帯電話含む）、半導体といった労働集約的で米国内での代替生産が困難、乃至は生産シフトの誘因が働き難い品目が大半を占める。また、実際は、日中韓について見ても、米国と中国の賃金格差は依然として極めて大きく（工場一般労働者の米中賃金格差は6.6倍、2015年）、且つ米国内での製造業の供給力不足（例えば2015年の自動車販売のうち、約半分は輸入車である点）を鑑みると、大規模且つ一律の輸入関税付与等は現実的ではないとみられる。

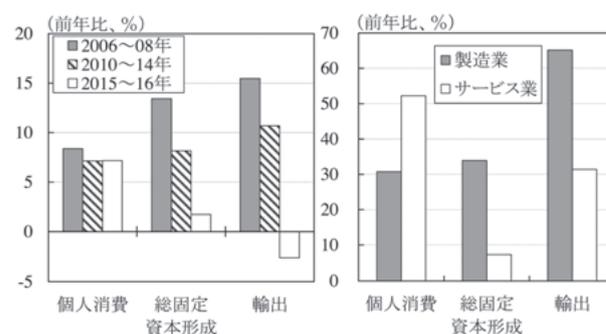
内需拡大と業種間格差

前章で振れたように貿易が伸び悩みを強める中で、ASEAN・インドの経済成長は一段と消費頼みの状況になっている。

実際、ASEAN・インドの実質GDPを構成する主な3要素（個人消費、総固定資本形成、輸出）の伸びを見ると、輸出は2015年以降減少に転じている他、総固定資本形成も景気の先行き不透明感の高まりや過去の投資の稼働率が中々高まらないこと等を主因に企業の設備投資を中心に減速感が鮮明になっている（第7図）。他方、個人消費については、中間層人口の拡大や都市化の進展といった大きな潮流の中で、資源安の副産物である低インフレや依然として良好な雇用・所得環境も相俟って、過去と遜色ない増加トレンドを続けている。

こうした需要毎の伸びの差は、業種毎の景況感格差にも顕著に現れている。第7図の右図は消費・総固定資本形成・輸出の一単位増加によって製造業・サービス業どちらの生産活動が誘発されるかを示しているが、輸出や総固定資本形成は製造業の企業活動を強く押し上げる一方、個人消費はサービス業の業況拡大により大きく寄与することが分かる。つまり『消費拡大の一方、投資減速・輸出減少』という現下の成長モデルは、『製造業よりもサービス業』に対して明らかに追い風となっている訳だ。

第7図：ASEAN・インドの各需要項目の伸び率と、各需要項目の製造業・サービス業の生産誘発度合い



(注) 1. 左図は、インド、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイの各需要及び産業別の実質GDPの前年対比伸び率を2015年の名目GDPを用いて加重平均したもの。2016年は1-6月期の実績。

2. 右図は各国のIO-table(投入・産出表)から、其々の最終需要に対する『製造業』及び『サービス業』の付加価値を集計したもの。

(資料) 各国統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

こうした消費拡大がサービス業での雇用拡大や賃金上昇に繋がり、再び個人消費の源泉となっている訳だが、経済の供給サイドの観点から見ると、一般的にサービス業は製造業と比較して労働集約的な産業が多く、労働生産性が相対的に低い。このため、製造業からサービス業への雇用シフトはマクロ全体で見た労働生産性の低下に繋がりが得る。近年のマクロ経済全体の生産性停滞やそれに伴う経済成長率の低下にはこうした産業間の雇用シフトも影響していると考えられる。本来は資本投入（投資）やイノベーションによって生産性向上が図られるべきであろうが、世界経済・政治面でも非常に不透明感の強い状況下、企業にとっては、長期の投資回収や外部からの資金調達が必要となる設備投資を抑制し、労働によって生産拡大を実現していく誘因が働きやすいのであろう。

こうした環境下では労働需給の逼迫がもたらす労働コストの増加によって企業の収益環境は厳しさを増していくことが想定され、それだけにやはり果敢な投資の有無が持続的な成長に向けた切り札になるとみられる。

長期化する資源安

原油価格（WTI期近物）は2016年2月11日に1バレル＝26.21ドルと2008年のグローバル金融危機後の最安値を更新したが、その後は米ドル安や主要産油国の増産凍結合意への期待等を背景に上昇に転

じた。もっともその後は世界経済の先行きに対する根強い不透明感やOPECの減産合意の実効性に対する疑念等が重石となり、結局40ドル後半～50ドル程度のレンジを抜け出せずにいる。

こうした原油をはじめとする資源安の長期化だが、資源の純輸入国の多いASEAN・インド経済にとってはそれほど大きな悪影響は及ばないと当方では考えてきた。実際に、ASEAN・インドの一次産品の貿易収支はマレーシア、インドネシア、ベトナムは資源の純輸出国ながら、インドやフィリピン、シンガポール、タイは資源の純輸入国であり、エリア全体では略バランスした状態、というのがそう考える大きな理由の一つであった。実際、資源の純輸入国の多くで一次産品の貿易収支は大きく改善しているし、前章で述べた通り、ASEAN・インドの堅調な消費市場の拡大が、資源安に伴う低インフレによって支えられているのも事実である。

一方、資源安に伴う資源関連需要の減少による悪影響が想像以上に大きく顕在化したセクターも存在する。第8図は、シンガポールにおける海洋・オフショアエンジニアリング（石油採掘リグ等が代表的な生産品目）の生産を示しているが、原油価格の下落に若干遅れて急減に転じ、足元ではピークの2014年末から生産量が半減している点が見て取れる。海洋・オフショアエンジニアリングのシンガポール経済全体の成長に対する寄与度は2011～2014年にかけて年平均+0.2%ポイント程度であったが、以降の急減で2015～2016年にかけては同▲0.4%ポイントのマイナス寄与に転じている。この間の変化は▲0.6%ポイント（▲0.4%ポイント－0.2%ポイント）となるが、足元のシンガポールの実質GDP成長率が1%程度であることを踏まえると、その影響は小さいとは言えない。

第8図：シンガポールの海洋・オフショアエンジニアリング生産とWTI原油価格



(注) 図中の太線は、『海洋・オフショアエンジニアリング生産』の6か月移動平均。
(資料) シンガポール経済開発庁統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

BTMU経済調査室では原油の生産調整や世界経済の緩やかな回復を映じて原油価格は2017年を通じて上昇するとみているが、劇的な需給回復が見込める訳ではなく、引き続き資源価格の上値は重いと予想される（2017年のWTI原油価格の見通しは51ドル/バレル、2016年は43ドル/バレルを見込む）。こうした中では引き続き、資源部門及び資源価格の動向に大きく影響を受ける業種については、厳しめの環境が続くことが見込まれる。

おわりに

ここまで見てきたようにASEAN・インド経済は外部環境の不透明さの中でも、消費・サービス業を中心に底堅い成長を続けており、こうした経済状況は2017年にかけても大きく変わらないとみられる。確かに、先進国を中心とした世界経済全体の慢性的な成長力不足やグローバル貿易の伸び悩み、資源安の長期化等を背景に、業種や国によっては厳しい状況が続く可能性がある。その一方で、着実に成長する内需がサービスを中心に新たな成長分野を拡げつつあるほか、トップラインの成長期待が過去ほど高くない中で地域・国を跨いだM&A機会、莫大な潜在需要が存在するインフラ分野といった新たな芽が見えつつあることも事実である。

最後に2017年の干支に触れて本稿を締め括りたい。2017年の干支は「丁酉（ひのと・とり／てい・

ゆう)」だが、十干の「丁(ひのと/てい)」は釘を象った文字であり、植物が一定の大きさまで成長し、安定してきた状態を表す一方、十二支の「酉(とり/ゆう)」は酒壺を示し、その中の酒や醸造物が成熟の極みに達した状態を表している。したがって、「丁酉」の字義に照らせば、2017年は「努力を続けることで成熟した果実を得ることが出来るが、次なる種蒔も必要な年」と解釈される。当地における日系企業の皆様やASEAN・インド経済にとっても、2017年が、これまで同様着実な経営努力を進め安定的な成長を確保しつつ、更なる飛躍に向けた新たな戦略を大胆に講じる年になることを願ってやまない。

*本稿の内容は、全て2016年12月4日の執筆時点までに得られる情報に基づいております。

中村 逸人

経歴

三菱東京UFJ銀行 企画部
経済調査室(シンガポール駐在) シニアエコノミスト

1982年 鹿児島県生れ

2005年 九州大学経済学部卒業

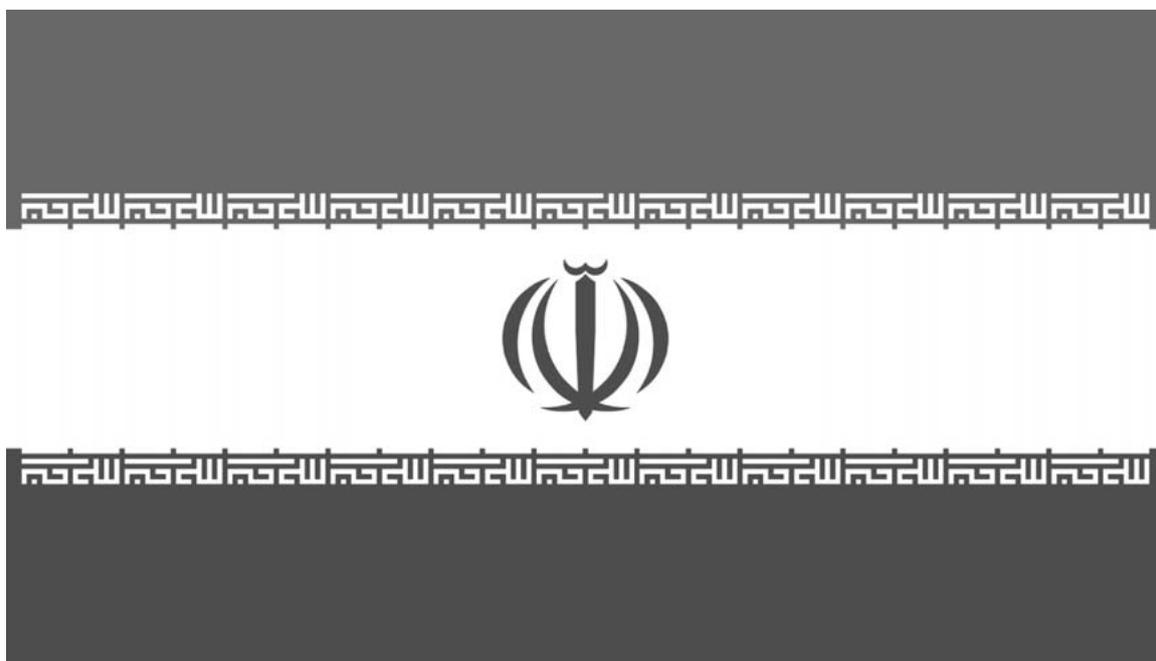
同年 UFJ銀行入行(現、三菱東京UFJ銀行)

2007年より企画部経済調査室に配属。以降、ユーロ圏経済、日本経済、ASEAN・インドのマクロ経済・金融分析を担当。
2013年7月より企画部経済調査室シンガポール駐在、マクロ経済調査ヘッドとして主にASEAN・インドの経済・金融分析に従事。

シンガポール日本商工会議所主催
2016年度
海外ミッション

イラン・テヘラン視察団報告書

期間：2016年11月15日（火）－19日（土）



シンガポール日本商工会議所
2016年度 イラン・テヘラン視察団 団員名簿

	会社名	氏名	Title
1	HITACHI ASIA LTD.	Mr 森崎 裕彦	Managing Director
2	IHI ASIA PACIFIC PTE. LTD.	Mr 赤松 真生	Director/Chief Operating Officer
3	JETRO SINGAPORE	Mr 鈴木 長之	Director -Shipbuilding
4	MITSUBISHI CORPORATION	Mr 苗村 隆	Deputy General Manager
5	MIZUHO BANK LTD.	Ms 工藤 崇子	Senior Vice President
6	NIPPON EXPRESS (SINGAPORE) PTE. LTD	Mr 橋本 浩平	Managing Director
7	NIPPON EXPRESS (SOUTH ASIA & OCEANIA) PTE LTD	Mr 和田 直樹	Assistant General Manager, International Cargo Division
8	NTT DATA ASIA PACIFIC PTE. LTD.	Mr 深谷 良治	Chairman
9	OKAMURA INTERNATIONAL (SINGAPORE) PTE LTD	Mr 野村 和弘	Managing Director
10	PENTA-OCEAN CONSTRUCTION CO LTD	Mr 遠澤 真人	General Manager of Middle East AreaInternational Business Unit
11	SHIMIZU CORPORATION	Mr 牛頭 豊	Executive Officer & Deputy Director of International Division General Manager of Singapore Office
12	SOLIDIANCE ASIA PACIFIC.	Mr 廣瀬 秀樹	Head of Japan Desk
13	SUMITOMO MITSUI BANKING CORPORATION	Mr 入江 浩	Director & General Manager, Singapore Branch
14	TOYO BUIL MAINTENANCE PTE LTD	Mr 小林 康信	Managing Director
15	THE JAPAN STEEL WORKS (SINGAPORE) PTE LTD	Mr 清水 誠	Managing Director
16	TOKYO GAS ASIA PTE LTD	Mr 小林 信久	Managing Director
17	JAPANESE CHAMBER OF COMMERCE & INDUSTRY, SINGAPORE	Mr 長尾 健太郎	Secretary General
18	JAPANESE CHAMBER OF COMMERCE & INDUSTRY, SINGAPORE	Ms 小寺 利沙	Coordinator
19	SECURITY SUPPORT INC.	Mr 有坂 錬成	President (添乗員)
20	NIPPON EXPRESS (SINGAPORE) PTE. LTD	Mr 赤廣 尚志	Manager (添乗員)

(社名ABC順)

スケジュール	
◆ 1日目 ◆ 11月15日 (火)	
11月14日 ～ 23:40	チャンギ空港到着、各自出国準備
01:20	エミレーツ航空EK405便にて、 チャンギ発ドバイ行き
04:30	ドバイ国際空港到着
	乗り継ぎ (乗り継ぎ時間3時間20分)
07:50	エミレーツ航空EK971 便にて、 ドバイ発テヘラン行き
09:40	エマーム・ホメイニー国際空港到着
	入国後コーディネーターと合流、 バスにて昼食会場に移動
PM	PARSIAN ENGHELAB HOTEL 内にある ENGHELAB レストラン (昼食)
	バスにてホテルに移動後、チェックイン
	JETRO TEHRAN 様訪問 －プレゼンテーション －質疑応答
	バスでホテルに移動
	休憩
	ESKAN HOTEL 内レストラン (夕食)
	終了
	ESKAN HOTEL 泊
◆ 2日目 ◆ 11月16日 (水)	
AM	ホテルにて朝食
	ホテル出発
	IRANIAN SANDEN INDUSTRIES 社様訪問 －プレゼンテーション －工場見学 －質疑応答
	バスで移動
	EVIN HOTEL 内 PARDIS レストラン イラン日本経営協議会様と会食 (昼食)
PM	バスで移動
	ZOLLAMVARI 社様 (ペルシャ絨毯) 訪問 －製造工程見学
	市内に向け、バスで出発
	DARCHIN RESTAURANT (夕食)
	バスでホテルに移動
	ESKAN HOTEL 泊

スケジュール	
◆ 3日目 ◆ 11月17日 (木)	
AM	ホテルにて朝食
	ホテル出発
	SAIPA 社様訪問 －プレゼンテーション －工場見学
	SAIPA 社様内で昼食
	バスで移動
PM	市内視察 バザールにてショッピング
	バスで夕食会場へ移動
	DARALE UPS レストラン (夕食) 東京外国語大学・テヘラン自由大学 教授 八尾師誠様と会食
	バスでホテルに移動
	ESKAN HOTEL 泊
◆ 4日目 ◆ 11月18日 (金)	
AM	ホテルにて朝食
	各自チェックアウトし、集合
	バスで出発
	市内視察 サードアーハード宮殿 － MELLAT PALACE MUSEUM (WHITE PALACE) － GREEN PALACE MUSEUM － FINE ART MUSEUM
	バスにて昼食会場に移動
	KHANGHAN レストラン (昼食)
PM	テヘランの地下鉄に乗って移動
	市内視察 －ゴレスタン宮殿 －バザール －イラン考古学博物館
	バスでエマーム・ホメイニー国際空港へ
	エマーム・ホメイニー国際空港到着 チェックイン、出国手続き
20:05	エミレーツ航空980便にて、 エマーム・ホメイニー国際空港発ドバイ行
22:50	ドバイ国際空港到着
	乗り継ぎ (乗り継ぎ時間3時間40分)
◆ 5日目 ◆ 11月19日 (土)	
02:35	エミレーツ航空EK432便にて、 ドバイ発チャンギ行き
13:45	チャンギ空港到着、解散

2016年度 海外ミッション

事務局作成レポート

(イラン・テヘラン)

今年のJCCI海外ミッション団はイランのテヘラン周辺を訪問した。

イランは紀元前より続く長い歴史をもつ。広大な古代オリエント領域を統治したペルシア帝国に始まり、イスラム化やモンゴル帝国の支配を経て、その後いくつもの王朝の隆盛と支配領域の縮小と拡大を繰り返し、16世紀のシーア派・サファヴィー朝の支配、20世紀初頭の立憲革命と石油の発見、1979年のイラン革命を経て、現在のイラン・イスラム共和国が誕生している。

国内西半部はイランでも人口稠密であるが、この地域にはザーグロス山脈やイランの最高峰ダマヴァンド山（標高5,604m）を含むアルボルズ山脈がある。一方、イランの東半は塩分を含むキャビール砂漠のような無人に近い砂漠地帯が広がり、塩湖が点在する。

平野部はごくわずかで、大きなものはカスピ海沿岸平野とアルヴァンド川（シャットウルアラブ川）河口部にあたるペルシア湾北端の平野だけである。その他小規模な平野部はペルシア湾、ホルムズ海峡、オマーン湾の沿岸部に点在する。

イランは北西にアゼルバイジャン、アルメニアと国境を接する。北にはカスピ海にのぞみ、北東にはトルクメニスタン、パキスタン、アフガニスタン、西にはトルコとイラクと接し、南にはペルシア湾とオマーン湾が広がる。面積は1,648,000km²で、ほぼアラスカの面積に相当する。多くの国と国境を接するイランは、地理的、歴史的、商業的に重要な地域である。

【ジェットロ・テヘラン事務所でのブリーフィング】

所長 中村 志信氏

本ミッションはジェットロ・テヘラン事務所を訪問し、イランの基礎情報のほか、経済動向、政局の現況などのブリーフィングを受けた。

政治動向として、まず米国大統領選挙をイランがどう捉えているか、説明があった。ロウハニ大統領は「米国大統領選挙の結果がイランの政策に与える影響はない」と発言しており、イラン側は冷静な反応を示している。一方で、イランへの制裁緩和を盛り込んだ「イランの核問題に関する包括的共同作業計画（JCPOA：Joint Comprehensive Plan of Action）」を遵守する必要があることをザリーフ外相は指摘しており、米国の動向を引き続き注視していく姿勢を打ち出している。

経済について、まずGDP成長率推移は、2012年（最も経済制裁の影響が強くみられた時期）に-6.61%となったものの、その後回復傾向にあり、2016年は4.0-4.5%の成長見込みである。中東におけるイランの立ち位置として、人口は8000万人でエジプトに続く第二位、GDPは4,041億ドルで中東の大国であるトルコ、サウジアラビアに続き第三位となっており、今後消費者市場としても期待されている。しかし、一人当たりGDPは5000ドル程度でイラクをわずかに上回る第10位となっている（一位カタール、二位UAE、三位クウェート）。

国土は広く、インフラ整備を進めており市場ポリュームが大きい。代表的な港湾としてペルシア湾に面するバンダル・アッバス港、インド資本と連携して開発予定のチャバハール港があり、特にチャバハール港にはフリートレードゾーンを設置しており、今後の成長が期待されている。

制裁緩和によるビジネス機会を見込み、各国要人の往来も活発化している。アジアでは韓国の朴大統領が5月に来訪しており、このとき多くの投資MOUを結ぶなど積極的なトップセールスが行われた。制裁下でもビジネスを行っていた中国は多数のインフラ開発で活発な活動を行ってきたが、その他の国が参入する中、少しずつその割合を低下させている。しかし、視察団が空港や街の様子をみている

と、中国人の数が外国人の中ではやはり目立ち、先行してイランで活動している様子が垣間見られた。また、先の通り韓国ビジネスマンの姿も多くみられたことが印象深い。日本との関係では、2008年をピークにイランから日本への輸出が低下していたものの、最近では制裁緩和に伴い、日本からイランへの輸出が伸び始めているようだ。イランの主要な輸出品としては、石油、石油化学製品、殻付き pistachio が挙げられるが、特に石油・石油化学製品への依存度が高く、国内の産業育成が急務となっている。

一方で制裁中に外資が撤退していたことで、国内産業が育成された一面もある。特にサービス業はGDP内訳の50%強を占めている。

イランの人口は先に述べた通り約8000万人だが、これは一定の市場規模と労働力を有していることを意味する。人口ピラミッドとしては25-35歳の結婚・子育て世代がボリュームゾーンとなっており、医療分野ビジネスでも、ボリュームゾーンが対象となる20-30年後を見据えて事業を推進している。イランでは核家族化が進み、一戸建てから都市部のマンションなどへ変化がみられるようだ。全体として教育水準も高く（留学する人も多い）、中東の中では労働コストが割安（約300米ドル/月）であることから、ビジネスチャンスは十分にあると思われる。

それぞれの分野ごとの特徴については、まず、石油（埋蔵量世界4位）、ガス（埋蔵量世界1位）、鉍物などの資源が豊富。増産も行われる予定で、これらで稼いだキャッシュが国内に還流されることが期待されている。豊富な原油・ガス・鉍物を背景とした石油化学や鉄鋼・鉍業は重要産業であり、今後外資を受け入れるなどしてさらに生産力を上げていく考えだ。

自動車産業も開発が進んでいる。Iran Khodro社や視察団が訪問したSAIPA社は中東を代表する自動車メーカーでもあり、今後さらに増産を進めたい考えであるが、デザインが古いなどの問題があり、日本の自動車メーカーへのラブコールも発せられているようだ。従来からセットメーカーや部品製造などの体制は国内にできているが、これらの工場では、制裁の影響もあり、生産設備が古く、自動化が

進んでいない面もあり、今後の改善で生産台数も大きく増える見込みが高い。市場としては、中間層が少ないため、高級車と低価格車の二極化が進んでいるようだ。

インフラ整備については、従来から中国が積極的に関与しており、例えば地下鉄の車両は中国製である。最近ではシーメンスなど欧州企業も活発化しているが、日本企業にも高い期待を寄せている。航空産業については、経済制裁下で機体整備用の部品を調達できず、中古期待を購入して分解し、整備に利用していたようだ。しかし、JCPOAによりボーイング、エアバスの機体輸入が可能となった。情報通信については、ネットの普及は進んでおり、eコマースなども利用されているが、通信環境は非常に悪い。視察団もホテルのWiFiを利用しなければインターネットに接続することはできなかった。クレジットカードが普及していないため、eコマースなどではデビットカードが一般的に利用される。また、FacebookやツイッターなどのSNSは接続制限されており、また、多くのコンテンツへのアクセスも禁じられている。

建設・建築については、特にショッピングモール、病院やホテルなどの新設や改修が増加しているとのことであった。また、地震も多いイランでは鉄骨を使った建設が基本となる。

水不足も大きな課題であり、海水淡水化技術、再利用水への需要は高い。また、大気汚染がひどいため、環境技術への関心も高いようである。医療分野については、医療機器市場が中東で最も高い伸び率となっており、また、特にドイツと日本の製品・技術への関心・信頼度が高いことから、今後期待される分野である。

ビジネスにおける留意点として、物価・為替が不安定であり、失業率が高く、インフラについて未整備であること、また、政治・地政学的リスクの影響を受けやすいことが挙げられる。また、制度・規制についても不透明な点があり、注意が必要だ。知的財産保護に関する意識も低く、今後外資を受け入れるうえで改善が求められる。一方で制裁緩和により、大企業のみならず日系中小企業も進出に意欲を示しているなど、前向きにとらえる企業が増えている。

(質問など)

- ・ 当地における日本人、日系企業の数はいくつ？
→ 日本人は650人で、うち500人はイラン人と結婚して移り住んだ人たち。企業数は23社。
- ・ ドル決済は可能になるか？
→ 実現には10年かかるという見方もある。トランプ政権に期待する声もある。実際はGEなどアメリカ企業の進出も見られる。
- ・ 石油生産の行方
→ イランはOPEC加盟国であり、生産調整の話もあったが、サウジアラビアとの対立もあり、合意によらない曖昧で緩やかな生産調整となっている。
- ・ 当地における欧州企業の動き
→ フランス・ドイツはオスマントルコの時代からイランとの結びつきがあり、企業進出についても先行している。

【イランサンデン工場の視察】

Deputy Managing Director 須藤 和彦氏

ミッション団は、イランサンデン社を訪問した。

同社は自動車システム、流通システム、住環境システム事業をグローバルに展開しており海外23ヶ国54拠点を持つ、またカーエアコンコンプレッサーでは世界で25%のマーケットシェアを誇っている。自動車システム事業では海外23か国54拠点を持つ。

イランではテヘラン、ガズビン（テヘランから130キロ）に拠点をもち、工場はガズビンにある。当地では空調ユニット、コンプレッサー、コンデンサーをアSEMBルして供給しており、イランのトップ自動車メーカーであるKhodro社やSAIPA社が顧客に名を連ね、その国内マーケットシェアは78%に上る。

工場では1165名のスタッフが働いており、ブリーフィングの行われた敷地内と車で5分ほど離れた場所にもう一つの工場が稼働している。

同社の概要のほか、供給先として直結するイランの自動車産業の現況についても説明があった。イランホドロ社1962年に設立されて以来、50年以上の

歴史がある。2011年には165万台（世界13位）の市場であり、タイを上回る規模であったが、経済制裁により成長が抑制されていた。イラン政府は2025年までに300万台（国内200万台、輸出100万台）の中期自動車販売数を目標に掲げているが、少なくとも200万台以上の市場規模に成長することは確実に見られている。2大メーカーであるKhodro社、SAIPA社は、それぞれ海外メーカーとの技術提携を結んでおり、今後の開発に期待がかかる。

最後に当地に駐在する須藤氏より、イランの生活についての実体験などが話された。当地では宗教上の理由からお酒が禁じられており、また、テヘランから離れていることから娯楽も少ないとのことであった。また、食事については、地元料理が肉料理中心であるため、駐在員は自炊を行っているとのことであった。

【イラン日本経営協議会（JBAI）との懇談会】

視察団はイランにおける日系企業団体である、イラン日本経営協議会と昼食懇談会を開催した。

JBAIは2015年10月に発足したばかりの団体であり、現在の金友会頭は第二期会頭である（第一期は現副会頭の田中氏）。イランでビジネス活動を行う日本法人、日本人のためのビジネス情報集約拠点を形成すること、そして日本とイランの経済面における良好な関係強化を推進するための活動を2016年の活動に定め、これら活動を通してイランにおける日本ビジネスのプレゼンスを最大化することを目的として活動している。現在、会員数は23社（うち5社が賛助会員）となっており、今後日系企業によるイラン進出が増える中で、会員数は増加していくものとみられる。当視察団約20名は、出席されたJBAI正副会頭や理事をはじめとした役員の皆様から、当地で活躍されるビジネスマンだからこそ知り得るイランビジネスの醍醐味、イランでの生活の様子、苦労する点などを直接生の声として聞くことができた。

【絨毯工房の視察】

テヘラン郊外にある、伝統的な絨毯工房を視察した。いわゆるペルシア絨毯は、シルクと羊毛でできており、このシルクが長年の利用で踏まれることで光沢を出していくといわれている。視察を行った絨毯工房はペルシア絨毯ではなく、伝統的な羊毛100%の絨毯の最終工程を行う工房であった。これらの絨毯は、遊牧民の女性たちが、家々に代々伝わるデザイン、染色技術を駆使して各家庭で織っており、これをこの工房に持ち込んで最後に市場に出す前の調整を行うのである。

まず、積み重ねられた持ち込み絨毯を一つずつガスで炙り、無駄な毛を除去する作業が行われた。持ち込まれた絨毯が土埃で汚れていたこともあり、参加者からは不要な絨毯を焼却処分しているのか、との声が出たほどである。この後、手作業でクリーニングを行い、天日干しし、別の建屋に運んで毛玉や模様の乱れなどを取り除き、四方に引き延ばして丸くなる癖を修正する。こうしてできた絨毯は非常に色鮮やかで美しく、視察団参加者も感銘を受けていた。工房にはアフガニスタンからの出稼ぎ労働者が多く働いており、顔つきも日本人に似た東方アジア系であった。彼らも熟練の技術者であり、絨毯工房では活躍しているとのことであった。

【イラン自動車メーカー SAIPA 工場の視察】

イランの2大自動車メーカーの一つである、SAIPA社の生産工場を視察した。2015年時点のメーカー別市場占有率を見てみると、トップはKhodro社で50%、そして2位がSAIPA社で34%を占める。2015年以降、規制緩和を背景に周辺国への輸出を急激に伸ばしている。今後はアゼルバイジャンやトルクメニスタン、イラク、そして将来的にアフリカ市場へも輸出を増やしていく予定である。

広大な敷地に生産工場が複数稼働しており、3000人ほどが働いているとのことであった。当工場はかつて別の自動車メーカーの工場があったため、その施設を活用して稼働している。交通の便もよく、大きな道路や鉄道も近くを通り、また、地元の雇用にも大きく貢献している。

工業用水には地下水を利用しており、また、再利

用も行う。水の利用自体は多くないので、大きな問題にはなっていない。15時間運転で2ターン制となっており、夜はラインを止めているとのことであった。ルノー・日産の生産モデルを参考にしているとのことであったが、ジェトロ・テヘラン事務所で説明があった通り、生産設備が若干古く、参加者からも自動化が遅れている、との指摘があった。また、視察受け入れに際しては、経済・金融省の外国投資部長である Alireza Mirveisi 氏も SAIPA 社側に加わっており、今後日本からの投資受け入れに期待を寄せていること、どんな問い合わせもしてほしい、と日本との新たな関係構築に強い意欲を示していた。

【テヘラン自由大学 八尾師 誠教授との夕食会】

視察団は長くテヘランで研究・教育活動に携わる八尾師教授を招き、夕食懇談会を開いた。八尾師教授が初めてイランを訪問したのはイラン革命以前であり、その後も年に複数回イランを訪問しており、当地の長期的な変化の様子に非常に精通している。

懇談の中では、イラン革命のさなかの国内の様子や、当国における大学教育の現状などが説明された。イランの人材が非常に優秀であり、大学進学率も高く、また、女性で理数系分野において優秀な成績を収める例も多く、今後イランの制裁解除が進んでいく際、大きな助けになるとの指摘がなされた。一方でアメリカに留学した優秀なイラン人が、そのままアメリカに居住してしまいイランに還元できない例が多かったことが、経済制裁下の弊害の一つであったと指摘もされた。八尾師氏自身が経験したこと、感じている雰囲気などを生き生きとお話になり、視察団一同強い関心をもってお話を伺うことができた。

事務局を含め、イランを訪問するのは初めてという参加者が多く、ビジネス環境への関心のほか、街の様子や自然環境、イランの人々の様子などを直接見ることができ、非常に有意義な視察であった。空港からテヘランに向かう途中、一面の土漠（さらさらとした砂漠ではなく、土の荒野）であり、ドバイとも異なる雰囲気であった。一方で、カスピ海のある北部は水も多く緑があり、豊かな農業地帯となっているとのことであった。実際、食事についても、野菜や果物が非常に豊富で、また、羊を中心とした肉料理も充実していた。

イランの人々は非常に気さくで、街を歩いているのも気軽に挨拶を交わし、また、外国人である視察団にも非常に有効的な態度を示してくれた。バザールは大変な賑わいで様々なものが売られており、豊かな印象を受ける。一方で国内の貧富の格差もあり、また、アフガニスタンなど周辺から出稼ぎに来ている人々との格差も大きいようだった。

もちろん、インフラの整備が進んでいないことは大きな課題であり、通信環境や交通渋滞の原因となる路上駐車、排気ガスによる大気汚染は改善の余地が大きいといえる。しかし、経済制裁緩和・解除が進むことで、長い歴史と優秀な人材をもち、資源豊かで日本と友好関係にあるイランは、今後日系企業にとっても大きなビジネスチャンスをもたらす国となるであろう。

<イラン・テヘラン視察 写真>



JETRO Tehran事務所 左：森崎副会頭 右：中村所長



JETRO TEHRAN事務所 集合写真



養殖鱒のフライとご飯



ペルシャ語で書かれたCoca Cola



羊毛絨毯工房訪問 集合写真



羊毛絨毯



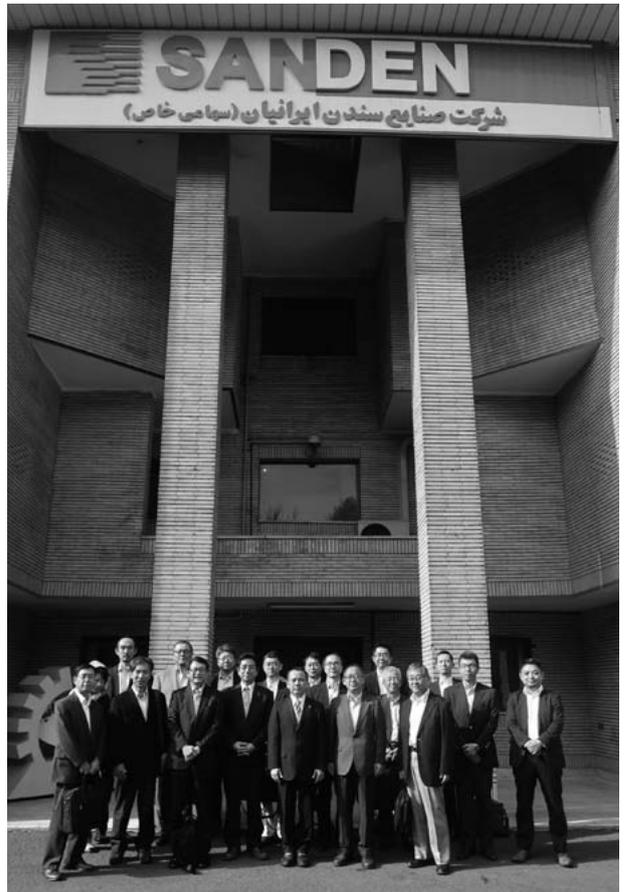
イランの紙幣



テヘラン市内で見かけるタクシー



Iranian Sanden Industries 左：森崎副会頭 右：須藤様



Iranian Sanden Industries 集合写真



色とりどりのペルシャ文字が書かれたタイル



東京外国語大学／テヘラン自由大学教授 八尾師誠氏との夕食会



八尾師氏との夕食会の様子



羊のスペアリブ



市内の至る所で見られるイラン革命防衛隊によって描かれた壁画



SAIPA 社にて



SAIPA 社工場内見学 (写真提供: SAIPA 社)



SAIPA 社 集合写真



SAIPA 社 プレゼンテーション (写真提供: SAIPA 社)



テヘランの地下鉄 女性専用乗り場



様々な種類のナッツ



サードアーハード宮殿内 緑の宮殿 (Green House)



ゴレスタン宮殿内 太陽の建物 (Shams ol Emareh)

JCCI SINGAPORE FOUNDATION LIMITED

10 Shenton Way, #12-04/05 MAS Building, Singapore 079117
(Co. Reg. No.: 199002444H)

各位

シンガポール日本商工会議所
副会頭・基金募金委員長
森崎 裕彦

シンガポール日本商工会議所基金「2016年度募金」へのご協力御礼

拝啓 2017年、新しい年を迎え、会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は当会議所の事業活動に多大なご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、昨年8月から11月にかけて実施致しました標記基金への募金活動におきまして、格別のご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

会員企業各位によるご支援により、計271会員から32万4,913 S \$の貴重な浄財を頂戴致しました。

寄付先選定に関しまして、基金諮問委員会、基金留学生制度委員会において慎重に検討のうえ、相応しいと判断した16の団体と2人の留学生を決定し、贈呈することとなりました。

末筆ながら、皆様の温かいご協力に対し改めて心よりお礼申し上げますとともに、引き続き本基金活動への変わらぬご理解、ご支持を賜りますよう併せてお願い申し上げます。

敬具

基金贈呈式（2016年12月5日）

会場：シャングリラ・シンガポール



岡田会頭から16の寄付先団体・2名の新留学生に寄付・奨学金が授与された。



※受賞者について、次のページから順番に詳しくご紹介します。

16の寄付先団体の活動紹介

1. Singapore Symphonia Co Ltd

1979年の設立以来、クラシック音楽を通じて、国際的な都市国家における文化の舞台を提供しています。

寄付金額：S \$23,000

寄付活動：「SSO Pops Concert: Makoto Ozone・Rhapsody In Blue」&「Masaaki Suzuki Conducts Mozart」

2017年4月に、日本の著名なジャズピアニスト・小曾根真氏とバッハ・コレギウム・ジャパン創設者・鈴木雅明氏の共演。



2. NUS Centre For The Arts

芸術や多様な文化理解を通じた総合教育を目的に、シンガポール国立大学内で活動。シンガポールや海外の芸術者・団体と協力して様々なプログラムに取り組む。

寄付金額：S \$10,000

寄付活動：「NUS Arts Festival 2017」

1996年より毎年開催。学生が有名芸術家と組み、音楽・ダンス等を通じて社会問題を喚起することを目的としたアートフェスティバル。2017年度は3月10日（金）～25日（土）に開催予定。



3. The Philharmonic Winds

2000年に創立された、ノンプロによる吹奏楽の活動をシンガポールへ広めるための団体。日本の音楽家とのコラボレーションも多数。

寄付金額：S \$15,000

寄付活動：「Japanese Chamber Music」日本の著名な作曲家・一柳慧氏、三木稔氏、伊藤康英氏、武満徹氏の人気曲などを演奏し、シンガポール人に紹介。2017年7月開催予定。



4. Sri Warisan Som Said Performing Arts Ltd

1997年に創立されたスリ・ワリサン (Sri Warisan) は、シンガポールのマレー・ダンスの舞台において重要な役割を果たしています。

寄付金額：S \$5,000

寄付活動：「Tunas Berseni 2017 - Lagenda Singapura」

シンガポールの若い者向けに、マレー伝統ダンスを紹介するダンスフェスティバル。2017年は5月21日（日）に開催予定。



5. Intercultural Theatre Institute (ITI)

2000年に設立された演劇トレーニング&リサーチプログラムを提供している団体。

寄付金額：S \$23,000

寄付活動：「Teaching of Noh Theatre」

ITIは独立な異文化劇場でのプロフェッショナルディプロマ(演技)を提供し、学生に日本の伝統芸能を教えている。



6. O School Ltd

2006年に設立されたソーシャルエンタープライズのダンススクール。

寄付金額：S \$10,000

寄付活動：「Singapore Dance Delight (SDD)」

日本で行うアーバン・ダンスの世界大会に向け、シンガポールの代表を選ぶためのダンス大会。



7. Japanese Film Festival Pte Ltd

アートやエンターテインメントとしての日本映画をシンガポールに広めることを目的とした団体。

寄付金額：S \$36,000

寄付活動：「Japanese Film Festival 2017」

2017年は新旧の日本映画のベスト作品を上映予定。映画を通じ、シンガポール人に日本や日本文化への理解を深めてもらうことを目指している。



8. The Esplanade Co Ltd

2002年10月16日にオープンした、シンガポールにある総合芸術文化施設。オペラ、バレエ、ミュージカル、演劇、管弦楽、室内楽、伝統音楽などが各種開催されている。

寄付金額：S \$20,000

寄付活動：「Ninagawa Macbeth」

蜷川幸雄氏の命日一周年を記念する記念ツアーの一部となる劇場演出。2017年11月23日(木)～25日(土)に公演予定。



9. The Club Japanese Cultural Society, Singapore (JCS)

1963年設立。日本とシンガポールの文化交流を通じた相互理解の促進を目的とした団体。

寄付金額：S \$30,000

寄付活動：「47th Japanese Cultural Festival」

日本文化をシンガポール人に紹介するため、講演会、コンサートを開催。



10. National University of Singapore, Department of Japanese Studies

シンガポール国立大学の人文社会学部に属する日本研究学科は1981年創立。多くの学生が日本に関連する様々な分野について学んでいる。

寄付金額：S \$20,000

寄付活動：「 Culture Room ~ Promoting Japanese Cultural Activities 」

新たな「文化室」を利用し、様々な日本文化（茶道・舞踊など）を学生たちに紹介している。



11. Runnninghour Co-operative Limited

2009年設立。視覚障害者、身体障害者、知的障害者とその伴走者で構成されている。ランニングを通じ、障害者に健康と多くの人・社会と交流する機会を与えている団体。

寄付金額：S \$10,000

寄付活動：「 Runninghour 2017 Inclusive Race」

障害者と一緒にランニングを楽しむレース。



12. Singapore Disability Sports Council

1973年創立。障害者へのスポーツプログラムを通じたりハビリの促進、また、社会とのつながりを持たせることを目的とした団体。

寄付金額：S \$45,000

寄付活動：「Project Abilities」

2007年開始。16歳～40歳の障害者へのスポーツを通じた教育プログラム。アセアン障害者スポーツ大会「ASEAN Para Games」や「Paralympic Games」の代表選手の育成も行う。



13. Singapore Kendo Club

1972年創設、シンガポール・スポーツ・カウンシル傘下の剣道団体

寄付金額：S \$13,000

寄付活動：「National Team Preparation for 17th World Kendo Championship」

2018年に韓国で開催される「第17回世界剣道選手権大会」に向けて技を磨く。



14. Japanese University Graduates Association of Singapore (JUGAS)

1970年に設立。日本で高等教育を受けたことがあるシンガポール人のための同窓会組織である。

寄付金額：S \$40,000

寄付活動：「JUGAS Education Fund」

名古屋大学と東京大学へ留学生を派遣。また、日本とシンガポールの文化交流を深めることを目的とした様々なプログラムも定期的を実施。



15. National University of Singapore, Department of Japanese Studies

シンガポール国立大学の人文社会学部に属する日本研究学科は1981年創立。多くの学生が日本に関連する様々な分野について学んでいる。

寄付金額：S \$20,000

寄付活動：「Field Studies in Japan 2017」

NUS日本研究学科の学生にエコツーリズムを通じ、環境問題について考えてもらうことを目的としたフィールドスタディ。主な見学地：九州の小国町、南小国町、水俣市等。内容は農業体験や行政、学生たちとのディスカッションなど多岐にわたる



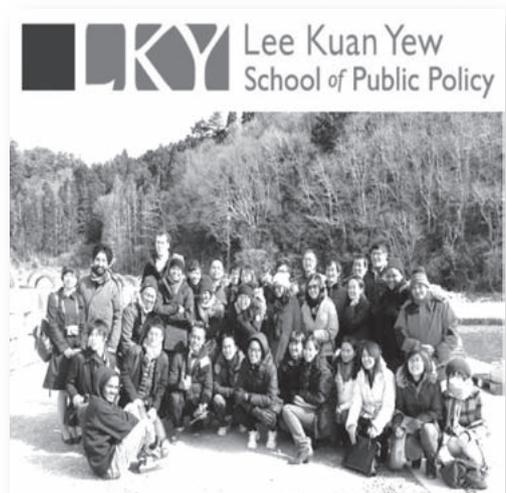
16. National University of Singapore, Lee Kuan Yew School of Public Policy

リー・クワン・ユー公共政策大学院は2004年創立。東南アジア、中国、インドを中心に約400名学生が経済政策、国際関係などについて学んでいる。

寄付金額：S \$20,000

寄付活動：「Japan Study Trip 2017」

ジャパントリップ実行委員会（メンバーは学生のみ）の企画。世界から注目される日本の政策考察を行う予定。



2017年派遣留学生について



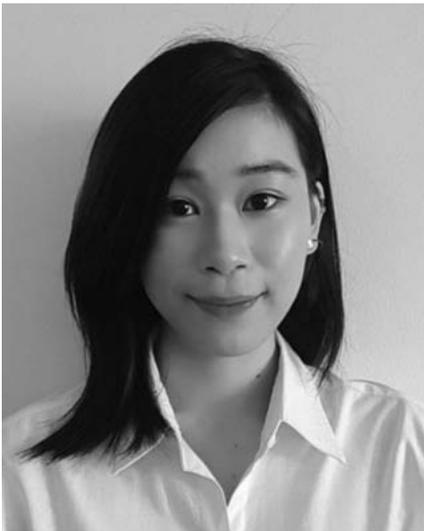
留学生名： **Ms Rebekah Valerie Yeo Yi Wei**（レベッカ）

大学： National University of Singapore (NUS) (3年生)

専攻： 1st Degree: Economics

2nd Degree: Business Administration

早稲田大学国際教養学部（日本概論コース）への派遣時期：
2017年9月～2018年7月



留学生名： **Ms Si Shi Ying, Jerlene**（ジャリン）

大学： Nanyang Technological University (NTU) (3年生)

専攻： 1st Major: English

2nd Major: Communication Studies

ICU 国際基督教大学（教養学部）への派遣時期：
2017年9月～2018年7月

JCCI SINGAPORE FOUNDATION

2016年度募金状況 (12月2日現在)

※企業グループとして募金を頂いた場合、複数の部会にまたがるケースがあるため、部会別の後にアルファベット順で掲載しています。

ALPHABETICAL ORDER
(SIN DOLLARS)

第1工業部会

AISIN ASIA PTE LTD	1000
CHIYODA SINGAPORE (PTE) LTD	1000
DAIFUKU MECHATRONICS (S) PTE LTD	1000
DAIHATSU DIESEL (ASIA PACIFIC) PTE LTD	2000
DENSO INTERNATIONAL ASIA PTE LTD	2500
EBARA ENGINEERING SINGAPORE PTE LTD	1000
FUJIKIN SINGAPORE PTE. LTD.	500
HIRATA FA ENGINEERING (S) PTE LTD	1000
HITACHI ZOSEN CORPORATION (SINGAPORE BRANCH)	2500
ISUZU MOTORS ASIA LIMITED	2500
JAPAN MARINE UNITED SINGAPORE PTE LTD	1000
JFE STEEL ASIA PTE. LTD	1250
KAWASAKI HEAVY INDUSTRIES (SINGAPORE) PTE LTD	2500
KEMEL ASIA PACIFIC PTE. LTD.	500
KS DISTRIBUTION PTE. LTD	250
MAKITA SINGAPORE PTE LTD	1000
NIKON SINGAPORE PTE LTD	2500
NISSHIN STEEL ASIA PTE. LTD	1000
OKAMOTO (SINGAPORE) PTE LTD	1000
PORITE SINGAPORE PTE LTD	250
SEIKO INSTRUMENTS SINGAPORE PTE LTD	1000
SHIMADZU (ASIA PACIFIC) PTE LTD	2500
SHIMANO SINGAPORE PTE LTD	1000
SINGAPORE TAKADA INDUSTRIES PTE LTD	2500
SMC MANUFACTURING (S) PTE LTD	500
TADANO ASIA PTE LTD	1000
TORISHIMA PUMP MFG CO LTD SINGAPORE BRANCH	1000
TOYOTA MOTOR ASIA PACIFIC PTE LTD	3000
YAMAHA MOTOR ASIA PTE LTD	1000
YANMAR INTERNATIONAL SINGAPORE PTE LTD	1250

第2工業部会

BANDO (SINGAPORE) PTE LTD	1000
DENKA SINGAPORE PTE LTD	1000
ENPLAS HI-TECH (SINGAPORE) PTE LTD	500
FUJIFILM ASIA PACIFIC PTE. LTD.	2500

JAPAN TOBACCO INTERNATIONAL (SINGAPORE) PTE LTD	1000
KANEKA SINGAPORE CO (PTE) LTD	2500
KAO SINGAPORE PRIVATE LIMITED	1000
KURARAY ASIA PACIFIC PTE LTD	1000
MEIJI SEIKA (S) PTE LTD	2500
mitsubishi GAS CHEMICAL SINGAPORE PTE LTD	2500
NIPPON SHOKUBAI (ASIA) PTE LTD	1000
OSAKA GAS SINGAPORE PTE LTD	1000
SANTEN PHARMACEUTICAL ASIA PTE LTD	1000
SHOWA DENKO SINGAPORE PTE LTD	1000
TAIHEIYO SINGAPORE PTE LTD	1000
TAIYO INTERNATIONAL PTE LTD	500
TECHNO STAFF PTE LTD	500
THREEBOND SINGAPORE PTE LTD	1000
TOPPAN PRINTING CO., LTD SINGAPORE BRANCH	1250
TORAY INTERNATIONAL SINGAPORE PTE LTD	1250
TOSOH ASIA PTE. LTD.	1000
UBE SINGAPORE PTE LTD	1000
YAKULT (SINGAPORE) PTE LTD	1250
ZEON ASIA PTE LTD	500

第3工業部会

BROTHER INTERNATIONAL SINGAPORE PTE. LTD.	1250
CANON SINGAPORE PTE. LTD.	3000
CASIO SINGAPORE PTE LTD	1000
FUJI ELECTRIC ASIA PACIFIC PTE LTD	1000
FUJIKURA ASIA LIMITED	1250
FUTABA DENSHI CORP. (S) PTE LTD	500
IBIDEN ASIA HOLDINGS PTE. LTD.	1000
KOA DENKO (S) PTE LTD	1000
KONICA MINOLTA BUSINESS SOLUTIONS ASIA PTE LTD	2500
KUSATSU ELECTRIC (S) PTE LTD	200
KYOCERA ASIA PACIFIC PTE LTD	1000
MABUCHI MOTOR (SINGAPORE) PTE LTD	1000
MEIDEN SINGAPORE PTE LTD	1000
MEKTEC CORPORATION (SINGAPORE) PTE LTD	1000
mitsubishi ELECTRIC ASIA PTE LTD	3000
MURATA ELECTRONICS SINGAPORE (PTE) LTD	1000
NEC ASIA PACIFIC PTE LTD	3000
NITTO DENKO (SINGAPORE) PTE LTD	1000
OLYMPUS SINGAPORE PTE LTD	1000
ORIENTAL MOTOR ASIA PACIFIC PTE LTD	1000
PENNANT SINGAPORE PTE LTD	250
PIONEER ELECTRONICS ASIACENTRE PTE LTD	2500
RICOH ASIA PACIFIC PTE LTD	2500
RISO (SG) PTE LTD	1000

ROHM SEMICONDUCTOR SINGAPORE PTE. LTD.	1000
SINGAPORE CHEMI-CON PTE LTD	500
SMK ELECTRONICS (S) PTE LTD	500
TANAKA ELECTRONICS SINGAPORE PTE LTD	1000
TDK SINGAPORE PTE LTD	1000

貿易部会

HANWA SINGAPORE (PTE) LTD	2500
ITOCHU SINGAPORE PTE LTD	1250
IWATANI CORPORATION Singapore Branch	2500
KANEMATSU (SINGAPORE) PTE. LTD.	1250
MARUBENI ASEAN PTE LTD	3000
mitsubishi CORPORATION	3000
MITSUI & CO. (ASIA PACIFIC) PTE LTD	3000
NAGASE SINGAPORE PTE LTD	1000
OKAYA SINGAPORE PTE LTD	500
SOJITZ ASIA PTE LTD	2500
SUMITOMO CORPORATION ASIA & OCEANIA PTE LTD	3000
TOYOTA TSUSHO ASIA PACIFIC PTE LTD	2500
YGP PTE. LTD.	500

金融・保険部会

AOZORA BANK, LTD SINGAPORE REPRESENTATIVE OFFICE	1000
CENTURY TOKYO LEASING (SINGAPORE) PTE LTD	2500
DAIWA ASSET MANAGEMENT (SINGAPORE) LTD.	500
DAIWA CAPITAL MARKETS SINGAPORE LIMITED	2500
HITACHI CAPITAL ASIA PACIFIC PTE. LTD.	1250
MITSUBISHI UFJ TRUST AND BANKING CORPORATION	2500
MIZUHO BANK LTD.	3000
MSIG INSURANCE (SINGAPORE) PTE LTD	2500
SOMPO INSURANCE SINGAPORE PTE LTD	2500
SUMITOMO MITSUI BANKING CORPORATION	3000
SUMITOMO MITSUI FINANCE AND LEASING (SINGAPORE) PTE. LTD.	500
SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LTD	2500
THE BANK OF TOKYO-MITSUBISHI UFJ, LTD (SINGAPORE BRANCH)	3000
THE HOKURIKU BANK LTD Singapore Representative Office	250
THE NORINCHUKIN BANK Singapore Branch	2500
THE TOA REINSURANCE COMPANY LIMITED (SINGAPORE BRANCH)	500

建設部会

AGC ASIA PACIFIC PTE. LTD	2500
AZBIL SINGAPORE PTE LTD	1000
HIROSE (SINGAPORE) PTE LTD	1000
JDC CORPORATION	1000
KAJIMA OVERSEAS ASIA PTE LTD	2500
KURIHARA KOGYO CO LTD	1000

MITSUBISHI JISHO SEKKEI ASIA PTE LTD	500
NAKANO SINGAPORE (PTE) LTD	2500
OBAYASHI SINGAPORE PRIVATE LIMITED	2500
PENTA-OCEAN CONSTRUCTION CO LTD	2500
SATO KOGYO CO LTD	2500
SHIMIZU CORPORATION	2500
TAIKISHA (SINGAPORE) PTE LTD	1250
TAISEI CORPORATION	2500
TAKENAKA CORPORATION	1250

運輸・通信部会

ANA CARGO EXPRESS SINGAPORE PTE LTD	500
DAIHO PROJECT SERVICES PTE LTD	500
FT LOGISTICS (ASIA) PTE. LTD.	500
KDDI SINGAPORE PTE LTD	1250
KOYO KAIUN ASIA PTE LTD	500
KUMIAI NAVIGATION (PTE) LTD	500
KWE-KINTETSU WORLD EXPRESS (S) PTE LTD	1000
MITSUI-SOKO (SINGAPORE) PTE LTD	1000
NIPPON CARGO AIRLINES CO LTD	500
NIPPON KAIJI KYOKAI SINGAPORE PTE. LTD.	1000
NYK GROUP SOUTH ASIA PTE LTD	1250
SANKYU (SINGAPORE) PTE LTD	2500
SG HOLDINGS GLOBAL PTE LTD	1000
SOFTBANK TELECOM SINGAPORE PTE. LTD.	2000
SUMITOMO WAREHOUSE (SINGAPORE) PTE LTD	1000
WEST JAPAN RAILWAY COMPANY Singapore Rep Office	1250
YUSEN LOGISTICS (SINGAPORE) PTE LTD.	1000

観光・流通・サービス部会

AJINOMOTO (SINGAPORE) PTE LTD	2500
ALL NIPPON AIRWAYS CO LTD	2500
CUNY'S GLOBAL PTE LTD	250
HAKUHODO SINGAPORE PTE LTD	1000
JAC RECRUITMENT PTE LTD	500
JAPAN AIRLINES CO LTD	2500
JTB PTE LTD	1000
KIRIN HOLDINGS SINGAPORE PTE. LTD.	1500
MITSUBISHI ESTATE AISA PTE LTD	1000
MITSUMI FUDOSAN (ASIA) PTE LTD	1250
MORI HAMADA & MATSUMOTO (SINGAPORE) LLP	500
NAGASHIMA OHNO & TSUNEMATSU SINGAPORE LLP	500
NIKKEI GROUP ASIA PTE LTD	1000
NISHIMURA & ASAHI (SINGAPORE) LLP	500
NTA TRAVEL (SINGAPORE) PTE LTD	2000
R E & S ENTERPRISES PTE LTD	1000

SALESBRIDGE HR PTE LTD	888
SBG HOLDINGS PTE LTD	500
SHOGAKUKAN ASIA PTE LTD	500
SUPERMEDIA	25
WASEDA SHIBUYA SENIOR HIGH SCHOOL IN SINGAPORE PTE LTD	500
YUSEN TRAVEL (SINGAPORE) PTE LTD	500
GROUP COMPANIES	
ASAHI KASEI GROUP	4500
ASAHI KASEI PLASTICS SINGAPORE PTE LTD	
ASAHI KASEI BIOPROCESS SINGAPORE PTE LTD	
ASAHI KASEI SYNTHETIC RUBBER SINGAPORE PTE. LTD.	
DAI NIPPON PRINTING GROUP COMPANIES	1250
TIEN WAH PRESS PTE LTD	
DNP ASIA PACIFIC PTE. LTD.	
DENTSU GROUP	1500
DENTSU BRANDED AGENCIES AND DENTSU MEDIA APAC	
DENTSU SINGAPORE PTE LTD	
DENTSU SPORTS ASIA PTE LTD	
DIC GROUP COMPANIES	2500
DIC ASIA PACIFIC PTE LTD	
DIC ALKYLPHENOL SINGAPORE PTE LTD	
EPSON GROUP	2500
EPSON SINGAPORE PTE LTD	
SINGAPORE EPSON INDUSTRIAL PTE LTD	
FUJI XEROX GROUP	3000
FUJI XEROX ASIA PACIFIC PTE LTD	
FUJI XEROX SINGAPORE PTE LTD	
FUJITSU GROUP COMPANIES	4500
FUJITSU ASIA PTE LTD	
FUJITSU TEN (SINGAPORE) PTE LTD	
FDK SINGAPORE PTE LTD	
FUJITSU GENERAL (ASIA) PTE LTD	
PFU TECHNOLOGY SINGAPORE PTE LTD	

HITACHI GROUP OF COMPANIES	5750
HITACHI CONSTRUCTION MACHINERY ASIA AND PACIFIC PTE LTD	
HITACHI INFRASTRUCTURE SYSTEMS (ASIA) PTE LTD	
HITACHI ELEVATOR ASIA PTE LTD	
HITACHI ASIA LTD	
HITACHI AUTOMOTIVE SYSTEMS SINGAPORE PTE LTD	
IDEMITSU GROUP COMPANIES	2500
IDEMITSU INTERNATIONAL (ASIA) PTE LTD	
IDEMITSU CHEMICALS SOUTHEAST ASIA PTE LTD	
IDEMITSU LUBE ASIA PACIFIC PTE LTD	
IDEMITSU LUBE (SINGAPORE) PTE LTD	
IDEMITSU TANKER CO LTD SINGAPORE BRANCH	
IHI GROUP COMPANIES	5000
IHI ASIA PACIFIC PTE. LTD.	
JURONG ENGINEERING LTD	
NIIGATA POWER SYSTEMS (SINGAPORE) PTE LTD	
KIKKOMAN GROUP OF COMPANIES	2500
KIKKOMAN (S) PTE LTD	
KIKKOMAN TRADING ASIA PTE LTD	
KIKKOMAN MARKETING & PLANING PTE LTD	
KIKKOMAN R&D LABORATORY PTE LTD	
MITSUBISHI CHEMICAL HOLDINGS GROUP	2300
MITSUBISHI CHEMICAL SINGAPORE PTE LTD	
MITSUBISHI PLASTICS ASIA PACIFIC PTE LTD	
MCC PTA ASIA PACIFIC PTE LTD	
MITSUBISHI CHEMICAL INFONICS PTE LTD	
ADVANCED PLASTICS COMPOUNDS SINGAPORE PTE LTD	
NIPPON GOHSEI ASIA PACIFIC PTE LTD	
MCL LOGISTICS ASIA PTE LTD	
MT PHARMA SINGAPORE PTE LTD	
MRC RENSUI ASIA PTE LTD	
MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES GROUP	2500
MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES ASIA PACIFIC PTE. LTD.	
MITSUI CHEMICALS GROUP	5000
MITSUI CHEMICALS ASIA PACIFIC LTD	
MITSUI PHENOLS SINGAPORE PTE LTD	
MITSUI ELASTOMERS SINGAPORE PTE LTD	
MITSUI CHEMICALS SINGAPORE R&D CENTRE PTE LTD	
PRIME EVOLUE SINGAPORE PTE LTD	

MOL GROUP COMPANIES (MITSUI O.S.K. LINES. LTD)	4500
MOL (ASIA OCEANIA) PTE LTD	
MOL TANKSHIP MANAGEMENT (ASIA) PTE LTD	
M.O. TOURIST (SINGAPORE) PTE LTD	
PHOENIX TANKERS PTE. LTD.	
TOKYO MARINE ASIA PTE LTD	
NIPPON EXPRESS GROUP	3000
NIPPON EXPRESS (SOUTH ASIA & OCEANIA) PTE LTD	
NIPPON EXPRESS (SINGAPORE) PTE. LTD	
NIPPON STEEL & SUMITOMO METAL GROUP COMPANIES	4750
NIPPON STEEL & SUMITOMO METAL SOUTHEAST ASIA PTE LTD.	
NS SOLUTIONS ASIA PACIFIC PTE. LTD.	
NIPPON STEEL & SUMIKIN BUSSAN (SINGAPORE) PTE. LTD.	
NISSHINBO GROUP COMPANIES	2500
NISSHINBO SINGAPORE PTE. LTD.	
NJR (SINGAPORE) PTE LTD	
ALPHATRON MARINE SYSTEMS PTE LTD	
NTT GROUP COMPANIES	3000
NTT FACILITIES INC. Singapore Branch	
NTT SINGAPORE PTE LTD	
NTT DATA ASIA PACIFIC PTE. LTD.	
OMRON GROUP COMPANIES	2500
OMRON ASIA PACIFIC PTE LTD	
OMRON ELECTRONICS PTE LTD	
OMRON ELECTRONIC COMPONENTS PTE LTD	
OMRON HEALTHCARE SINGAPORE PTE LTD	
PANASONIC GROUP COMPANIES	5000
PANASONIC ASIA PACIFIC PTE LTD	
PANASONIC APPLIANCES REFRIGERTATION DEVICES	
PANASONIC AVC NETWORKS SINGAPORE	
PANASONIC INDUSTRIAL DEVICES SINGAPORE	
PANASONIC INDUSTRIAL DEVICES SEMICONDUCTOR ASIA	
PANASONIC FACTORY SOLUTIONS ASIA PACIFIC	
PANASONIC R&D SINGAPORE	
TOKIO MARINE GROUP	3000
TOKIO MARINE INSURANCE SINGAPORE LTD	
TOKIO MARINE LIFE INSURANCE SINGAPORE LTD.	

TOSHIBA GROUP COMPANIES	3000
TOSHIBA ASIA PACIFIC PTE LTD	
TOSHIBA ELECTRONICS ASIA (SINGAPORE) PTE LTD	
TOSHIBA TEC SINGAPORE PTE LTD	
SONY GROUP OF COMPANIES	5000
SONY ELECTRONICS ASIA PACIFIC PTE LTD.	
SONY ELECTRONICS (SINGAPORE) PTE LTD.	
SONY GLOBAL TREASURY SERVICES PLC, SINGAPORE BRANCH	
SONY MOBILE COMMUNICATIONS INTERNATIONALS AB	
SONY MUSIC ENTERTAINMENT	
SONY PICTURES ENTERTAINMENT	
SUMITOMO CHEMICAL & AFFILIATES	7500
SUMITOMO CHEMICAL (ASIA PACIFIC) PTE LTD	
SUMITOMO CHEMICAL ASIA PTE LTD	
SUMITOMO CHEMICAL SINGAPORE PTE LTD	
PETROCHEMICAL CORPORATION OF SINGAPORE (PRIVATE) LIMITED	
THE POLYOLEFIN COMPANY (SINGAPORE) PTE LTD	
SUMITOMO CHEMICAL ENGINEERING SINGAPORE PTE. LTD	
SUMITOMO SEIKA SINGAPORE PTE LTD	
SCAS SINGAPORE PTE. LTD.	
SUNOVION PHARMACEUTICALS ASIA PACIFIC PTE LTD	
TAOKA CHEMICAL SINGAPORE PTE LTD	
SUMITOMO ELECTRIC GROUP COMPANY	3000
SUMITOMO ELECTRIC AUTOMOTIVE PRODUCTS (S) PTE LTD	
SUMITOMO ELECTRIC INTERNATIONAL (SINGAPORE) PTE LTD	
SUMITOMO ELECTRIC ASIA PACIFIC PTE LTD	
YOKOGAWA GROUP COMPANIES	2500
YOKOGAWA ELECTRIC INTERNATIONAL PTE. LTD.	
YOKOGAWA ENGINEERING ASIA PTE LTD	
YOKOGAWA ELECTRIC ASIA PTE LTD	
TOTAL	S \$324,913

【2016年会員懇親パーティー】

本年は12月5日（月）に堤臨時代理大使を主賓としてお迎えし、会員懇親パーティーを開催致しました。
沢山の会員企業の皆様の笑顔に支えられ、大盛況の内に終了することが出来ました！









ラッキードロワー賞品ご提供企業様一覧

No	Company name	Prize	Quantity	Unit	Unit price (S \$)
1	Ajinomoto (Singapore) Pte. Ltd.	aminoVital® Perfect Energy	90		4
2	All Nippon Airways Co., Ltd.	Economy Class Return Air Ticket from Singapore to Tokyo for 2 pax	1	pair	-
3	Aon Singapore Pte Ltd	Manchester United Training Shirt with Aon Logo	3		60
4	Asahi Group Holdings Southeast Asia Pte Ltd	Beer (Asahi Super Dry)	2	cartons	100
5	Braindge Singapore Pte.Ltd.	Takashimaya Voucher	1		150
6	Brother International Singapore Pte. Ltd.	Brother Printer DCP-J552DW	1		208
7	Brother International Singapore Pte. Ltd.	Brother Label Printer	1		58
8	Canon Singapore Pte. Ltd.	Canon Camera EOS M10	1		649
9	Canon Singapore Pte. Ltd.	Canon Selphy Printer CP1200	1		199
10	Casio Singapore Pte. Ltd.	MTG-G1000D-1A2DR (GPS Watch)	1		1499
11	Casio Singapore Pte. Ltd.	KL-120-W-DH (Label Printer)	10		48
12	Chiyoda Singapore (Pte.) Ltd.	Takashimaya Voucher	1		200
13	Citizen Watches (H.K.) Ltd. Singapore Branch	CITIZEN Eco-Drive Satellite Wave-GPS CC3001-01E (Watch)	1		1417.75
14	Citizen Watches (H.K.) Ltd. Singapore Branch	CITIZEN L Ambiluna EW5503-59W (Watch)	1		658.05
15	Cuny's Global Pte Ltd	Chef Yamashita (Tanjong Pagar) Voucher	1		100
16	Destsu Singapore Pte. Ltd.	Rody Horse (Toy)	3		110
17	Destsu Sports Asia Pte. Ltd	Rody Horse (Toy)	3		110
18	Eishinkan Singapore Pte Ltd.	Meidi-ya Voucher	1		200
19	Enoteca Co., Ltd	Wine	6	bottles	49
20	EPSON Singapore Pte Ltd	Epson EB-X36 Business Projector	1		999
21	EPSON Singapore Pte Ltd	Epson L565 4-in-1 Ink Tank System Printer	1		399
22	Find Pte Ltd	Isetan Voucher	1		100
23	Frasers Hospitality Pte Ltd	A complimentary 1 Night Stay at Fraser Suites Singapore	1		480
24	Frasers Hospitality Pte Ltd	A complimentary 2 Nights Stay at Modena by Fraser Bangkok	1		240
25	Fuji Xerox Asia Pacific Pte Ltd	Docuprint CP225W (Printer)	1		300
26	Fuji Xerox Singapore Pte Ltd	Golf Ball	1	dozen	40
27	FUJIFILM Asia Pacific Pte. Ltd.	INSTAX mini 8 Instant Camera Pink & Film Set	1	set	172.9
28	FUJIFILM Asia Pacific Pte. Ltd.	INSTAX mini 8 Instant Camera White & Film Set	1	set	172.9
29	Fujikin Singapore Pte. Ltd.	Takashimaya Voucher	1		200
30	Fujitsu Asia Pte Ltd	Fujitsu Scansnap ix500	1		580
31	GCA Singapore Pte Ltd	Veuve Cliquot Champagne	2		70
32	Good Job Creations (Singapore) Pte Ltd	Golf Balls	2	dozens	54
33	Hanwa Singapore (PTE) LTD	Takashimaya Voucher	1		300
34	Hitachi Asia Ltd.	Hitachi Cordless Vacuum Cleaner PV-XC500	1		799
35	Hitachi Construction Machinery Asia & Pacific Pte Ltd	Hitachi Cordless Radio	1		250
36	IHI Asia Pacific PTE.LTD.	Takashimaya Voucher	1		300
37	IIJ Global Solutions Singapore Pte. Ltd.	Stainless Bottle	5		30
38	IIJ Global Solutions Singapore Pte. Ltd.	Takashimaya Voucher	1		100
39	Information Development Singapore Pte Ltd	Takashimaya Voucher	1		200
40	ITOKI Systems Singaproe Pte., Ltd.	Office Task Chair	1		500
41	Iwatani Corporation Singapore Branch	Iwatani Portable Gas Cooker	1		60
42	Iwatani Corporation Singapore Branch	Iwatani Gas Cardridge	3	cans	10

No	Company name	Prize	Quantity	Unit	Unit price (S \$)
43	JAC Recrutement Pte Ltd	Takashimaya Voucher	1		300
44	Japan Airlines Co., Ltd. Singapore Regional Office	Economy Class Return Air Ticket from Singapore to Tokyo for 2 pax	1	pair	-
45	Japan Green Hospital Pte Ltd	Blood Pressure Monitor	1		150
46	Japan Green Hospital Pte Ltd	Thermometer	3		30
47	Japan Green Hospital Pte Ltd	Ice Pillow	3		20
48	Japan Marine United Singapore Pte Ltd	Takashimaya Voucher	1		200
49	Japanese Kindergarten (S) Pte. Ltd.	Takashimaya Voucher	1		150
50	JX Nipon Oil & Energy Corporation	Takashimaya Voucher	1		300
51	K&L Creative Asia Pte Ltd	Takashimaya Voucher	1		200
52	Kajima Overseas Asia Pte Ltd	Takashimaya Voucher	1		300
53	Kanematsu (Singapore) Pte Ltd	Takashimaya Voucher	1		200
54	Kawasaki Heavy Industries (Singapore) Pte Ltd	Lupicia Japanese Tea Leaf Set	5	sets	30
55	Kawasaki Heavy Industries (Singapore) Pte Ltd	Memo Block	3		5
56	Kawasaki Heavy Industries (Singapore) Pte Ltd	Ballpoint pen	5		4
57	Kawasaki Heavy Industries (Singapore) Pte Ltd	Plastic Folder	40		2
58	KDDI Singapore Pte. Ltd.	Golf Balls	5	dozens	55
59	KIBUN Foods Singapore Pte. Ltd.	Healthy Noodle (Sugars 0 g Noodle)	6	boxes (6pieces/box)	30
60	Kikkoman Singapore Pte. Ltd.	Kuriya Dining Voucher	1		500
61	Kirin Holdings Singapre Pte. Ltd.	Kirin Ichiban Beer (350ml × 24 cans)	2	cartons	80
62	Konica Minolta Business Solutions Asia Pte Ltd	Takashimaya Voucher	1		300
63	Kosho Singapore Pte Ltd	Macallan Double Cask Whisky	3	bottles	150
64	Kowa Holdings Asia Pte Ltd	Marshpuff UV Powder SPF50/PA++++ UV Protection Body Powder	200		14
65	Mabuchi Motor (Singapore) Pte. Ltd.	Submarine Motor	10		Not for Sale
66	Makita Singapore Pte Ltd	Cordless Cleaner CL104DWY	1		140
67	Mandarin Orchard Singapore	Complementary 1 night weekend stay in Superior Deluxe Room with International Buffet breakfast for 2 pax	1		590
68	Marubeni Asean Pte. Ltd.	Asics Voucher	1		450
69	Meiden Singapore Pte. Ltd.	Isetan Voucher	1		300
70	Meidi-Ya Singapore Co (Pte) Ltd	Meidi-ya Voucher	1		500
71	Millennium Hotels and Resorts	Millennium Hotels and Resorts - Orchard Hotel Singapore: 1 Night Weekend Stay in Signature Suite Inclusive of Club Benefits for 2 pax	1		1050
72	Millennium Hotels and Resorts	Grand Copthorne Waterfront Hotel Singapore: 1 Night Weekend Stay in Deluxe Room Inclusive of Breakfast for 2 pax	1		695
73	Millennium Hotels and Resorts	M Social Singapore: 1 Night stay in the Loft Premier Room Inclusive of Daily Buffet Breakfast for 2 pax & S \$100 Tien Court Dining Voucher at Copthorne King's Hotel	1		450
74	Mitsubishi Chemical Singapore Pte. Ltd.	Verbatim Notebook bag - Frankfurt 2in1 Overnight Roller for 15.6" Notebook	1		139
75	Mitsubishi Chemical Singapore Pte. Ltd.	Verbatim Portable USB3.0 HDD 1TB (Purple)	1		99
76	Mitsubishi Chemical Singapore Pte. Ltd.	Verbatim MFi Lightning USB 32GB (Apple Grey)	1		89
77	Mitsubishi Corporation	Takashimaya Voucher	1		500

ラッキードロワー賞品ご提供企業様一覧

No	Company name	Prize	Quantity	Unit	Unit price (S \$)
78	Mitsubishi Electric Asia Pte Ltd	Mitsubishi Electric 16 inch Living Fan	7		219
79	Mitsubishi Heavy Industries Asia Pacific Pte Ltd	Isetan Voucher	1		300
80	Mitsui Fudosan (Asia) Pte. Ltd.	St Regis F & B Voucher	1		300
81	Mitsui&Co(Asia Pacific) Pte Ltd	Takashimaya Voucher	1		500
82	Mizuho Bank, Ltd.	Golf Balls	2	dozens	78.65
83	Mizuho Bank, Ltd.	Isetan Voucher	1		300
84	MOL(Asia Oseania) Pte Ltd	Isetan Voucher	1		500
85	MSIG Insurance (Singapore) Pte. Ltd.	Golf Balls	5	dozens	70
86	NEC Asia Pacific Pte. Ltd.	Tablet Versa Pro	1		400
87	Nikkei Group Asia Pte Ltd	Takashimaya Voucher	1		200
88	Nikon Singapore Pte. Ltd.	Nikon Coolpix B700 (Black)	1		709
89	Nippon Cargo Airlines Co Ltd	1/200 Model Airplane	1		22
90	Nippon Cargo Airlines Co Ltd	1/250 Model Airplane	1		10
91	Nippon Cargo Airlines Co Ltd	Wine Openers	1	set	10
92	Nippon Express (Singapore) Pte.Ltd.	Travel Voucher	1		500
93	Nippon Life Asia Pacific (Regional HQ) Pte. Ltd.	DASSAI 23	2	bottles	66
94	Nippon Steel & Sumitomo Metal Southeast Asia Pte Ltd.	Takashimaya Voucher	1		300
95	Nishimura & Asahi (Singapore) LLP	Isetan Voucher	1		200
96	Nisshinbo Singapore Pte Ltd	APOLLOCOT Hand Towel	8		15
97	Nisshinbo Singapore Pte Ltd	Limited Towel of All Japan Junior Tennis Championships 2016	4		Not for Sale
98	NTT DOCOMO ASIA Pte. Ltd.	Flip-flops	29		15
99	NTT DOCOMO ASIA Pte. Ltd.	Towels	71		7
100	Obayashi Singapore Private Limited	Takashimaya Voucher	1		300
101	OKAMURA International (Singapore) Pte Ltd	Zephyr Light Chair	1		500
102	Olympus Singapore Pte Ltd	Stylus TG-Tracker	1		470
103	Omron Asia Pacific Pte Ltd	Omron Blood Pressure Monitor (HEM-7322)	3		178
104	Osaka Gas Singapore Pte. Ltd.	Golf Balls	2	dozens	60
105	Penta-Ocean Construction Co., Ltd.	Isetan Voucher	1		300
106	RISO (SG) Pte.Ltd.	JTB Voucher	1		300
107	Sankyu Singapore	Takashimaya Voucher	1		200
108	Sapporo Lion (s)Pte.Ltd	Sapporo Lion Voucher	1		500
109	Sato Kogyo Co., Ltd.	Isetan Voucher	1		300
110	SBI Ven Capital Pte. Ltd.	Takashimaya Voucher	1		200
111	Seiko Instruments Singapore Pte LTD.	SEIKO Mechanical Watch SRP325J1	1		660.2
112	Seiko Instruments Singapore Pte LTD.	SEIKO Mechanical Watch SSA 091K1	1		513.6
113	Shangri-La Hotel, Singapore	Weekend 1 Night Stay at Garden Wing Deluxe Pool View Room with Breakfast for 2 pax	1		770
114	Shangri-La Hotel, Singapore	Buffet Dinner for 2 pax at The Line	1		216
115	Shangri-La Hotel, Singapore	60 min SPA Treatment at Chi The Spa for 1 pax	1		185
116	Shimizu Buil Life Care Corporation Singapore Branch	Isetan Voucher	1		100
117	Shimizu Corporation	Isetan Voucher	1		300
118	Showa Denko Singapore(Pte) Ltd	Cosmetics APPRECIER	3		50
119	Showa Denko Singapore(Pte) Ltd	Takashimaya Voucher	1		150
120	SoftBank Telecom Singapore Pte. Ltd.	Pepper Mag Cup	1		10
121	SoftBank Telecom Singapore Pte. Ltd.	Pepper Tumbler	1		10

No	Company name	Prize	Quantity	Unit	Unit price (S \$)
122	Sompo Insurance Singapore Pte. Ltd.	Golf Balls	10	dozens	75
123	SU Navigation Pte. Ltd.	Takashimaya Voucher	1		150
124	Sumitomo Mitsui Banking Corporation	Golf Balls	3	dozens	65
125	Sumitomo Mitsui Banking Corporation	SMBC Singapore Open Ticket	10	pairs	60
126	Sumitomo Mitsui Trust Bank, Limited Singapore Branch	Golf Balls	5	dozens	50
127	Sumitomo Chemical (Asia Pacific) Pte Ltd	Takashimaya Voucher	1		300
128	SUPERMEDIA	Sample Lesson Voucher	5		60
129	Taiyo International Pte Ltd	Golf Balls	2	dozens	50
130	Takenaka Corporation	Takashimaya Voucher	1		300
131	TDK Singapore (Pte) Ltd	Takashimaya Voucher	1		400
132	The Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ, Ltd (Singapore Branch)	Golf Balls	20	dozens	30
133	The Hokuriku Bank Ltd	Golf Balls	2	dozens	60
134	The Japan Steel Works (singapore) Pte. Ltd.	Takashimaya Voucher	1		200
135	Tokio Marine Insurance Singapore Ltd	Golf Balls	5	dozens	50
136	Tokio Marine Insurance Singapore Ltd	Travel Pouch	5		20
137	Tokio Marine Life Insurance Singapore Ltd.	Golf Balls	5	dozens	110
138	Toll Logistics (Asia) Limited	Mouse Pad	6		Not for Sale
139	Toll Logistics (Asia) Limited	Takashimaya Voucher	1		300
140	Toll Logistics (Asia) Limited	Isetan Voucher	1		300
141	Toray International Singapore Pte.Ltd.	Toraysee	30		10
142	Toshiba Asia Pacific Pte. Ltd.	Toshiba Canvio Connect 3.0 V8 1TB HDD	2		80
143	TOTO Asia Oceania Pte. Ltd.	Travel Washlet	4		144
144	TOYOTA Tsusho Asia Pacific Pte. Ltd.	Golf Balls	4	dozens	50
145	TSUBACO Singapore Pte.Ltd.	Takashimaya Voucher	1		300
146	Tsubakimoto Singapore Pte.Ltd.	Takashimaya Voucher	1		300
147	Ulvac Singapore Pte Ltd	Capita Voucher	1		300
148	UPR Singapore Pte. Ltd.	Golf Balls	2	dozens	50
149	West Japan Railway Company	Shinkansen Toy(Choro-Q)	10		10
150	West Japan Railway Company	ICO-Chan Keychain X'mas Ver.	10		10
151	Yakult(Singapore)Pte Ltd	Takashimaya Voucher	1		300
152	Yamato Transport (S) Pte Ltd	Golf Club Cover	1		50

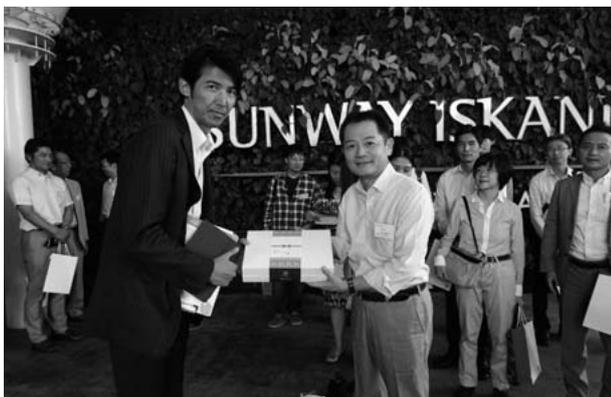
多くの会員企業様よりご支援ご協力賜り、誠にありがとうございました。

11月～12月 JCCIイベント写真

11月15日 会員講演会「マレーシアにおける労務問題～解雇に関する実務上の問題点及び手続を中心に～」



11月24日 観光・流通・サービス部会主催「ジョホールバル 不動産開発視察会」



11月29日 中小企業のための自社プレゼンテーション大会ならびに懇親会



12月14日 4部会共催忘年会（第1工業・建設・運輸通信・観光流通サービス）



12月15日 金融保険部会忘年会



日本シンガポール協会便り No.33

日本シンガポール協会よりお知らせです

「関西シンガポール同窓会」を開催します

大阪のシンボル「大阪城」に近いKKR HOTTEL OSAKAで、8月5日「関西シンガポール同窓会」を開催し13名が集いました。日本・シンガポール外交関係樹立50周年の記念行事のお話、シンガポールに進出を検討している企業への助言など、シンガポール経験者ならではの多岐に亘った話もありました。また、稲田純一氏の「シンガポールの緑化プロジェクト」等につき大変興味深いプレゼンテーションがありました。

この催しは、シンガポール駐在経験者や駐在経験はなくてもシンガポールに縁のある関西在住者を中心に、毎年“独立記念日”と“春節”の頃にあわせて年2回開催しているものです。今回は2017年2月3日（金）18:30開宴を予定しています。シンガポール在住の皆さんも、帰国されましたらお気軽にご参加ください。



スピーカーの稲田純一氏



はい、こちらは「日本シンガポール協会」です！

「日本シンガポール協会」は1971年の設立以来、「シンガポール日本商工会議所（JCCI）」とも密接に連携し、日本とシンガポールとの経済協力、文化交流を深めるための活動をボランティア・ベースで行っています。シンガポールとの関係、交流を深めるため、ご帰国されましたら、あるいは今から協会の活動にご参加されませんか。ご入会を心からお待ちしております。連絡先は下記のとおりです。（2013年1月に、事務所は港区赤坂より港区芝に引っ越しました）



一般社団法人 日本シンガポール協会
〒108-0014 東京都港区芝4-7-6 芝ビルディング308号
電話：03-6435-3600 FAX：03-6435-3602
E-mail：singaaso@singaaso.or.jp
ホームページ：http://www.singaaso.or.jp/

第555回理事会 議事録

日 時：2016年11月8日（火）12：30～14：00

場 所：日本人会 2階 ボールルーム

出席者：岡田会頭、森崎、上田、鈴木、入江、栃折副会頭、松浦、加藤、赤松、郡司運営担当理事、富田、山下、太田、西田（浩）、佐々木、東、高橋（幸）、高沢、白川、三石、土光、小澤理事、石井（計）、今井監事、堤、利光、石井（淳） 参与、長尾事務局長 計28名

岡田会頭が議長となって開会した。

議 事：

1. 前回（第554回）議事録承認

岡田会頭が前回（第554回）の議事録について諮ったところ、異議なく承認された。

2. 審議事項

（1）「シンガポール進出日系中小企業セミナー」への後援名義付与について

長尾事務局長より、日本政策金融公庫より要請のあった同セミナーに関し、説明があった。同イベントにはJCCIの他、ジェトロシンガポール事務所、UOBが後援予定。後援名義付与について理事に諮られたところ異議なく承認された。

（2）入退会について

長尾事務局長より、1法人会員、1個人会員の入会申請、2法人会員の退会申請があった旨説明され、諮られたところ異議なく承認された。これにより会員数は、法人会員748社、個人会員105名、計853会員となった。

3. 報告事項

（1）会頭報告、最近および今後の主要行事・会合について

岡田会頭から以下の行事について報告があった。

- ・10月29日－30日に、オーチャード・ニーアンシティにおいて、SJ50祭りが開催され、当初の予定10万人を上回る11万人の来場があり大いに盛り上がった。オーチャードロードを貸し切ったパレードにも多くの参加者が得られ、その様子が現地メディアからも取り上げられるなど大成功となった。
- ・11月14日から、イラン・テヘランへの海外視察を行う。
- ・理事会前に開催されたJCCI基金管理委員会に於いて、本年度の寄付先と留学生が最終決定した。12月初旬に開催される年末懇親パーティにおいて、授与式が合わせて開かれる。

（2）委員会報告

- ・基金諮問委員会の赤松委員長より、先の基金管理委員会で最終決定された寄付先について、特に新規先を取り上げながら説明があった。
- ・金留学生制度委員会の加藤委員長より、同じく最終決定された2名の留学生について、説明があった。本年から早稲田大学に加え、国際基督教大学（ICU）への派遣がされることも説明された。
- ・森崎募金委員長から、11月時点での募金状況について説明があった。

(3) 大使館ならびにJETROからの報告・連絡事項

日本大使館の提参与り以下報告があった。

- ・10月末のSJ50祭りには、110,480人の来場、パレードにも18,700人の参加があり、大いに盛り上がった。シルバースポンサーとなったJCCIと会員の皆様のサポートに謝意を述べられた。また、会最後の事後宣伝もしていきたい旨、説明があった。
- ・ISILによるテロを呼び掛ける声明があった。今後渡航する国の安全情報収集に気を付けてほしい。
- ・ジカウイルスについて、最大の集団感染エリアを「観察先」に引き下げ、2週間感染者がいないなど落ち着きつつある。しかしながら引き続き蚊への注意と発生予防が必要。また、タイやベトナムで小頭症の報告も出ている。
- ・在留邦人数の調査を10月1日付で行う。今後も在留届の提出、異動の際のアップデートをお願いしたい。
- ・大使館・ジェトロ・JCCI共同で投資環境アンケート調査を行う。結果については大使館としても活用していきたい。
- ・12月12日には天皇陛下誕生パーティがシャングリラホテルで開催される。

JETROの石井所長から以下の報告があった。

- ・10月13日 フランチャイジングライセンス・アジアが開催され、日本から9社を招聘。飲食系の参加が多い。日本の教育、飲食への関心は高いようだ。
- ・10月27日-29日にはフードジャパンが開催、多くの自治体に参加し、知事が参加したケースもあった。
- ・フィンテックフェスティバルが11月14日に開催され、日本から7社が参加予定。

以上

<2016年12月入会会員一覧>

会 員 名	格付	備 考
H.I.S INTERNATIONAL TRAVEL PTE LTD [観光・流通・サービス部会]	A (法人)	Travel (Inbound/Outbound) 現地法人 (100%日本出資) 設立登記：1993年4月 従業員数：52 (派遣邦人5)
NET ONE SYSTEMS SINGAPORE PTE LTD [運輸・通信部会]	A (法人)	ICTに関わるシステムインテグレーションサービス 現地法人 (100%日本出資) 設立登記：2013年10月 従業員数：3 (派遣邦人3)
ROYAL BLUE TEA SINGAPORE PTE LTD [観光・流通・サービス部会]	C (法人)	Royal Blue Teaブランド商品の企画・開発・製造・販売 茶及び飲食・サービスに関する付帯事業一式 現地法人 (現地独立資本) 設立登記：2016年11月 従業員数：2 (派遣邦人2)
Mr Koichiro Amano (StarHub Ltd) [運輸・通信部会]	D (個人)	インターネット、携帯電話、固定電話、ICTソリューション等の提供 現地法人 (現地独立資本) 設立登記：1998年5月 従業員数：5000 (現地邦人1)

最近の推移：

('15年2月) 815会員、('15年3月) 822会員、('15年4月) 829会員、('15年5月) 832会員、('15年6月) 833会員、
('15年7月) 835会員、('15年9月) 840会員、('15年10月) 846会員、('15年11月) 848会員、('15年12月) 854会員
('16年1月) 842会員、('16年1月) 850会員、('16年2月) 850会員、('16年3月) 850会員 ('16年4月) 854会員
('16年5月) 854会員、('16年6月) 856会員、('16年7月) 849会員、('16年9月) 854会員、('16年10月) 854会員
('16年11月) 852会員、

シンガポール日本商工会議所
事務局便り



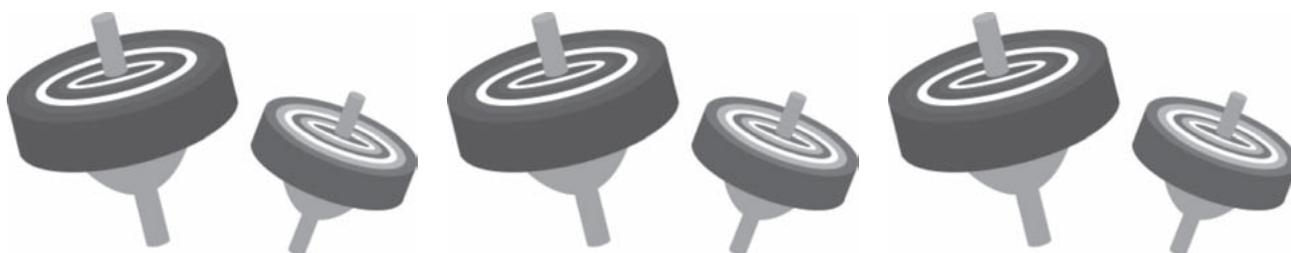
◀ 2016年12月活動報告 ▶

4部会共催忘年会（第1工業部会・建設部会・運輸通信部会・観光流通サービス部会）

12月14日、第1工業部会、建設部会、運輸通信部会、観光流通・サービス部会の4部会共催で忘年会をMellben Signature Restaurantで開催いたしました。当日は、66名の方にご参加頂き、終始和気藹々とした雰囲気の中、部会の垣根を越え、会員同士でご交流頂きました。

◀ 2017年1月-2月 行事予定 ▶ ※予定は事情により変更・追加されることがございます。

開催日	開催区分	イベント名	時間・場所
1月10日(火)	理事会	1月度運営担当理事会 第557回理事会	11:30 - 12:14 12:15 - 14:00 日本人会
1月12日(木)	委員会	1月広報委員会	19:00 - 21:00 未定
1月17日(火)	部会	2017年8部会合同新年会	18:30 - 20:30 Regent Singapore
2月4日(土)	部会	第2工業部会 懇親ゴルフ	7:00 - 19:00 South Links CC at Batam Island
2月6日(月)	委員会	2月広報委員会	12:30-14:00 未定
2月14日(火)	理事会	2月度運営担当理事会 第558回理事会	11:30 - 12:14 12:15 - 14:00 日本人会
2月19日(日)	部会	貿易部会・運輸通信部会 懇親ゴルフ	08:00 - 15:00 (予定) SICC
2月19日(日)	部会	第1工業部会 懇親ゴルフ	08:00 - 15:00 (予定) SICC



Japanese Chamber of Commerce & Industry, Singapore location map



弊社が入っておりますMASビルですが、セキュリティが厳しく、ビジターの事前登録が必要となっております。お越し頂く際は、①名前、②FIN NumberもしくはPassport Number、③国籍（日本人以外の場合）を、お電話もしくはメールにて、担当者にお伝え下さい。お手数をおかけいたしますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

月報 January, 2017

編集後記

チャイナタウンのショップハウスの一角にあるチャイナタウンヘリテージセンターでは、建築物の中に1950年代の中国移民の生活様式がリアルに再現されており、混沌の時代のシンガポールが紹介されています。この時代に移民してきた華人は「シンケ」と呼ばれていました。新しく来た者という意味です。シンケ達は3畳ほどの窓も無い狭い部屋に多い時は4～5人で住んでおり、トイレお風呂、キッチン共同でした。1階は家主の仕立屋さんのお宅、2階には店子のシンケたちが8世帯も住んでいました。エアコンのおかげで快適な館内では、見過ごしてしまいそうな当時の生活感ですが、頭の中でエアコンのスイッチをOFFにすると当時のチャイナタウンにタイムスリップし、現代シンガポールの発展とのギャップに唖然としてしまいます。

日本に目を向けると、真冬の出張で訪れた小樽の『北のウォール街』といわれた繁栄を支えた都市銀行、商社のあった建造物やニシン御殿、群馬県にある世界遺産『富岡製糸場と絹遺産群』などかつての産業発展を偲ばせる遺産が数多く残っています。

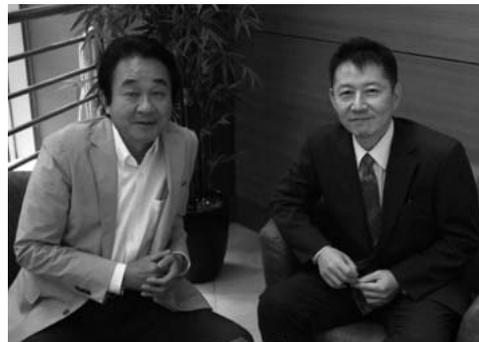
いずれの施設も今と昔を比較できる、さらには昔と未来に思いを馳せることのできる秀逸な観光素材です。

SG50、SJ50と続いた一連の行事を通して、2017年次の一歩はシンガポールでは先人を突き動かした歴史、日本ではかつての栄華を振りかえるという温故知新から始めてみるのもいいかもしれません。

文末になりますが、2017年1月号の月報作成にあたり、お忙しい中ご執筆をいただきました皆様にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

なお、編集は、日本航空の山下、日本旅行の中島およびJCCI事務局が担当いたしました。

(編集後記担当 NTA TRAVEL SINGAPORE PTE LTD 中島 茂)



左：中島 右：山下

○名前 山下 康次郎 (やました こうじろう)
○出身 鹿児島県
○在星歴 1年半
○会社名 JAPAN AIRLINES CO., Ltd.
○仕事内容 支店長
○趣味 自転車で乗ってのシンガポール巡り

○シンガポールのお気に入り
クラブストリート、アモイストリートの小さなレストラン。小さいけど特色があって雰囲気がいいです。

○月報読者の皆様へ
毎号毎号真剣な議論を重ね、骨太な紙面を作るべく、編集委員が日夜努力をしております。ぜひ読んで頂き、感想をお聞かせ頂けると、励みになります。

○名前 中島 茂 (なかしま しげる)
○出身 福岡県
○在星歴 2004年3月～
○会社名 NTA TRAVEL SINGAPORE PTE LTD
○仕事内容 海外からシンガポールへのインバウンド
およびシンガポールから海外へのアウトバウンド旅行業務
○趣味 ランニング、朝活、日本の温泉と道の駅巡り

○シンガポールのお気に入り
イーストコースト沿いのランニングロード、四季のない安定した気候、多民族の文化を実感できる環境

○月報読者の皆様へ
月一回の広報委員会では、編集委員の仕事や興味をベースに時流にのったテーマが選定されてきます。今後もビジネスに役立つ月報づくりを目指してまいりますので、読者の皆様におかれましても、取り上げて欲しいテーマがあれば広報委員会にてリクエストをいただければ幸いです。

発行

JAPANESE CHAMBER OF COMMERCE & INDUSTRY, SINGAPORE
10 Shenton Way #12-04/05 MAS Building Singapore 079117
Tel: 6221-0541 Fax: 6225-6197
E-mail: info@jcci.org.sg Web: <http://www.jcci.org.sg>

編集

TOUBI SINGAPORE PTE.LTD.
72 Eunos Ave 7 #04-06 Singapore 409570
Web: <http://www.toubi.co.jp/>

印刷

adred creation print pte ltd
Blk 12 Lorong Bakar Batu #01-01 Singapore 348745
Tel: 6747-5369 Fax: 6747-5269
Web: <http://www.adredcreation.com/>

☆☆JCCI Eメール送信サービスのお知らせ☆☆

シンガポール日本商工会議所ではセミナー情報や、サービス・新製品等のビジネス情報を
弊所メーリングリストを使用し、会員企業の皆様にお届けするサービスをご提供しております。

(2016年3月時点、2599名の方にご登録して頂いております)

Eメール送信サービス1回

SGD 200 (GST 込み)

(※会員企業様のみ利用可能とさせていただきます)

ご利用をご希望の方は「info@jcci.org.sg」(担当: Ms. Doris)まで、

下記必要事項を明記の上、お申し込み下さい。

- ①希望送信内容 ※原稿はソフトコピー(500KB以下、PDF)にてご提出下さい。
- ②希望送信日 ※余裕をもって、お申し込み下さい。(土日・祝日を除く)
- ③支払方法 ※現金・小切手・GIROのいずれか

【お申し込みから配信までの手順】

お申し込み頂いた後、事務局よりお申込確認用紙・ご請求書を送付致します。

お支払をお済ませいただき、テストメールをご確認頂きました後、配信となります。

皆様からのお申し込みをお待ちしております。

シンガポール日本商工会議所事務局 担当: Doris (Ms)
10 Shenton Way, #12-04/05 MAS Building, Singapore 079117
TEL: 6221-0541 FAX: 6225-6197 E-mail: info@jcci.org.sg



会員データベース 訂正・変更記入フォーム

会員データベース登録内容に訂正・変更がございましたら、下欄にご記入の上、事務所まで FAX また E メールにてご連絡頂きますよう、御願ひ申し上げます。

注：*必ず会社名と E メールはご記入下さい。

会社名(日)			
会社名(英)*			
旧代表者名(日)			
新代表者名(日)		新代表者名(英)	
E-MAIL*			

役職(英)		役職	
Address			
TEL:		業務内容	
FAX:			
WEB:			
日本人社員数		総従業員数	
変更日	年	月	日 より

緊急連絡 E メール：

その他

Fax: 6225 6197

担当：ドリス (doris@jcci.org.sg)

